大正六年九月十四日第三種郵便
物認可・昭和十五年四月廿五日
印刷納本　・　昭和十五年五月
一日發行・毎月一回一日發行・

第廿三輯第五號　昭和十五年五月一日

建築と社會

日本建築協會

都市の美觀と風致に關する特輯號

都市美の爲にする建築表彰……菊池愼三
都市美と自然美……川路柳虹
都市美と建築・道路……今井哲
都市の美觀と風致に關する管見……田村剛
都市美隨想……島田藤
都市の綜合的調和と諧律的美の創造……藤井眞透
都市美雜感……新名種夫
都市美の全體性……宮脇泰一
都市の美觀と風致に關する問題……白川泰

紫烟室　公園と云へば――、續・微苦笑、防空喫茶と防空圖書館、建築敎育論、忠靈塔
文獻　新時代の木造小屋組、電氣熔接による鐵骨造の煙突の建物
古建築新抄　新建築欄　會報

登録 OHNO SHUTTER PATENTED 商標

日英米特許四〇個・實用新案登錄六〇個併用

大野式防火捲上ヶ戸

〔特許大野式シヤツター〕

主要製品

大野式シヤッター

大野式ルーブルシヤッター

大野式融金付自動閉鎖戸

大野式工場用軸承

大野式轉子入軸筐・戸車

各種防火扉・鋼製建具類

應用特殊機械類設計製作

東京市大森區新井宿七丁目

株式會社不二製作所提携

株式會社 大野製作所

東京市芝區三田四國町二番地 ・ 電話三田(45)三七三七・三七三八・三七八七

取付出張員詰所・大阪市此花區上福島中二・電話福島(45)五八八

資材の保護に修理にモルナイトを
防空の完全にフラーヂを　御使用願ひます



特殊塗料と建築材料

村田商會

東京市京橋区槇町三ノ五・大阪市西区土佐堀船町一六
電話京橋(56)8472番・電話土佐堀 3208 番

會　　告（見學會通知）

豫報の通り本會會勢幹事會主催による見學會下記の通開催仕候間申込方法御熟覽の上御參加下され度候

第一見學

1 時　　**五月十八日（土）**午後二時　　晴雨不論
1 集合所　　**東洋製罐株式會社**　　此花區草開町三〇
市電堂島大橋北詰又は船津橋下車、堂島川北通に沿ひ下天神前を經て左折
1 見　學　　東洋製罐草開工場（工場と製罐行程）
1 申込方法　　往復ハガキの事、返信を參加章代りと致し候間當日受附え御持參下され度
1 締　切　　五月十四日　但人員に制限あり滿員となりたる場合は期日前にても先着順により締切申候
1 參加者　　本見學は**本會會員、終身賛助員、特別賛助員**に限る

第二見學

1 時　　**五月二十五日（土）**午後二時　　晴雨不論
1 集合所　　**グリコ株式會社**　　西淀川區御幣島町五三
省　線――塚本驛南口より西に向ひ徒歩約十五分
阪神國道――歌島橋下車北に向ひ徒歩約十分
1 見　學　　グリコ製菓工場（工場と製菓行程）
1 申込方法　　往復ハガキにて御申込みの事（第一見學と別に願上候）返信を參加章に代へ申候間當日受附え御持參下され度
1 締　切　　二十日中の事但人員に制限あり滿員となりたる場合は先着順により期日前にても締切申候
追而　本見學會を以て**五月例會**に代へ申候

御注意と御願ひ

1 すべて代人の參加は御斷申上候
1 會員章は工場内整理の都合もあり必ず着用下され度候
1 兩見學共本會告を以て通知に代へ別に案内狀差上げず候

豫而會勢幹事長よりお願申上居候會員の倍加運動に就ては種々御援助を頂き居り候へ共尚一層の御協力により此際是非一名宛の御紹介を切望いたし候

社團法人 **日本建築協會**

「建築材料集成」刊行豫告

世に建築材料に關する型錄、案內書の類は星の數程あるが、我々建築家がいざ使用しやうとする場合、その何れを用ひていゝか迷はざるを得ないものが尠くない。こゝにおいて當建築材料陳列場に於いては、我々建築家の實際に使用したる經驗を基にして、信賴し得べき「生きた材料案內」とも謂ふべき「建築材料集成」の刊行を、下記の如き要領により企てゝゐる。

もとより建築材料は多種多樣に涉り澎湃として盡きる處を知らず、我々の企圖するこの刊行事業も、その途遠き感あるが幸にして協會々員はもとより、材料業者におかれても我々に一臂の力を與えられ、我々のこの劃期的の事業達成に援助されんことを切望して止まない次第である。

☆

●體　裁　紙面46倍判の大きさ、ルーズリーフ式になし後からの綴込に便ならしむ。

●分　類　各工事別、各材料別により分類す。

●內　容　1種目につき1枚を使用し、用途・性質・使用法・市場品寸法及價格・製造所又は產地・販賣店など詳細に記入

●配布先　協會々員はもとより、內地建築業者、更に外地（滿洲・支那）建築業者に配布する予定

昭和15年5月

日本建築協會

建築材料陳列場

建築と社會

第23輯　第5號　昭和15年5月發行

五月號

目　次

卷頭言 …… （1）

都市美の爲にする建築表彰 …… 菊池愼三（2）
都市美と自然美 …… 川路柳虹（7）
都市美と建築・道路 …… 今井哲（10）
都市の美觀と風致に關する管見 …… 田村剛（17）
都市美隨想 …… 島田藤（19）
都市の綜合的調和と諧律的美の創造 …… 藤井眞透（23）
都市美雜感 …… 新名種夫（25）
都市美の全體性 …… 宮脇泰一（28）
都市の美觀と風致に關する問題 …… 白川泰（34）

☆紫烟室☆

公園と云へば …… 棚橋諒（40）
續・微苦笑 …… 津田鑿（41）
防空喫茶と防空圖書館 …… 山口正（44）
建築教育論 …… 中筋麻芳（47）
忠靈塔 …… 古川晃（50）

☆文獻☆

新時代の木造小屋組 / 電氣熔接による鐵骨造の煙突の建物 …… 堀口甚吉（53）

☆古建築新抄☆

特殊建築 …… 藤原義一

☆新建築欄☆

外國・（アメリカ）Berkshire の交響樂演奏場（ドイツ）ケルンの火葬場・（アメリカ）マイアミのアルビオン・ホテル，ピルモントのスキー小屋・（ドイツ）Württenberg の山小屋

會報 …… （59）



これからの日本にとつて一ばん大切なことは、我々大和民族が東亜の民族全體の心からな尊敬と親愛とを受ける様にすることである。都市の風致や美觀と云ふ問題が決して現下に於ては閑人の仕事と考へられないのは當然であるのみでなく寧ろ、我々にとつて最も重大な仕事の一翼をなすものであることが明である。こう云ふ事にこそ民族の素質や叡智が言葉通ぜぬ異邦の人にも明かに示されるのであるから。我國土の美しさは云ふまでもない。從つて國土の美しさを保持すべく風致、保存に多大の注意が拂はれつゝあるのであるが、吾々がおそれるのは餘りに自然の美にたより過ぎることなきかにある。自然を自然のまゝにしておいたものは風致とは全く反對のものである。例へば北海道の斧を入れぬ原始林を見よ、これは凄壯であつて風致とは全く別のものである。自然そのものを風致と考へる人があるならば、家へ歸つて一幅の山水畫を床にかゝげられよ。そこには必ず、路か、橋か、建築か或は舟か、つまり人の造つたものを發見せられるであらう。繰返して云ふ、風致とは自然ではない。自然と適合した人工である。風致は保存すると共に常に創造して行かねばならぬものである。そこに國土と民族との誇がある。更に都市美觀に到つてはも早疑ふべくもない創作である。そしてその大半の仕事は建築家に委囑せられるのである。獨逸人は遠く東洋に來つて美しい都、青島を作りロシア人はその國土の東端に美しきハルピンを建設したのである。萬人皆云ふ北京は美しい都であると、萬人皆は云はず新京は美しい都になつたと。

我々は民族の誇りにかけて、美しい都を建設して行かねばならぬ。勿論これは一朝一夕の事業ではない。最も深き處は我國の建築家の建築藝術の修練にまでさかのぼらねばなるまい。更に吾々は建築家の美に對する訓練の不足のみならず國民全體の審美眼の低下に對しても充分の戒心をせなければならないのである。前途は遠いが一歩一歩やつて行かう。「ローマは一日にして成らず」

都市美の爲にする建築表彰

菊池愼三

I

都市を構成する個々の建築物工作物の設計に當つては、如何なる當事者技術者も、其の外觀形態に付て十分意を用ゐるのである。謂ふ迄もなく建築物工作物は其の用途本來の目的使命を主眼とし、所謂實用主義を本旨とするのであるが、併し夫は同時に外觀形態美を考慮することを妨げないのみか、寧ろ外觀形態美を無視輕視しては、本來の實用の目的にも背馳する場合が多いのである。此の如く個々の建築物工作物に付て、美觀に考慮を拂ふに拘らず都市全體の綜合建設を考慮する都市計畫に於て美觀を目的とすることに付て如何にも消極的であり關心が少ないことは、都市問題に興味を持つ者の大に遺憾とする所であり、之が匡正改善に付て工夫する所あつて然るべきである。都市計畫は交通、衛生、保安經濟等に關し、永久に公共の安寧を維持し、又は福利を增進する爲の重要施設の計畫であると定義せられて居るが、此の中に都市の美觀を都市計畫の主眼とする意味が殆ど考へられて居らない。精々の所都市計畫は住みよい都市を建設する、又は生活の快適或は福利增進と云ふ觀念の中に美觀も含まれて居ると謂ふのである。或は環境の風致を毀損せしめないとか、環境の調和を破壞せしめないと云ふ極めて消極的な微溫的な制限規定を以て、都市美の問題が終つて居るかに見える現在の制度施設に對しては、甚しく物足りなさを感ぜざるを得ないのである。

II

羅馬は一日にして成れるものではないと云ふ言葉がある。人間の最も大きな事業は都市の建設である。都市は文明の精華であると云ふのは、各時代の文化や富や智力技術の最高潮は都市に於て發揮されることを意味する。文明又は文化と都市とは切り離して考へることを得ない。固より都市や文明を咒咀する思想は、古くから今に續いて極めて有力である奢侈と腐敗と墮落と社會惡も都市に於て目立つのであるから、ソドムシドンの都市は咒はれてあれと、敵を愛することを强調する聖書の中でさへも、激しい言葉が使はれて居る。夫れ程にソドムシドンの都市は救ふべからざるものと見離されて居つた。或は天の怒に依つてポンペイの都會は、ヴエスビオの噴火で埋もれてしまつた。古來大火業火は屢々大都市を襲ひ、大自然の猛威は特に人の密集居住する大都市に於て慘害を逞しくするので、時には之を天譴天の警めであるとして、當代惡風陋俗社會惡の膺懲であるかに謂はれる。如何なる時代にも民心の作興思想道德の向上風俗の醇化の爲には、有らゆる機會を捉へ有らゆる事象を利用する必要があることは、議論の餘地はない。併しながら冷靜に考へれば都

市それ自體には何等罪がある譯はない。ヨチヨチ歩行く幼童が轉倒すると、大地を打つて懲らしめるのであるが都會生活に伴ふ奢侈腐敗墮落其の他の社會惡を非難攻撃するが爲に罪もない都市そのものを咒咀迫害することは、不合理であり失當である。

III

都市美の爲にする現行の制度施設は、極めて貧弱であり消極である。曾ては森林法の風致保安林の制度が唯一のものであつた。都市と森林、森林に關する規定が都市美の爲に活用されることは、意外であると思はれるのであるが、大正五六年頃井上東京府知事は、當時の東京市郊外現在は市域内に入つた所の景勝地善福寺池畔や洗足池畔等の立木を風致保安林に編入して、伐採開墾に制限を加へる方法が採られた。都市美を問題とする人々は創見達識ある井上さんの如き先覺地方官の苦心經驗に大に教へられる所があつて然るべきである。都市計劃法が制定せられて後も、風致地區風紀地區の制度の如きは、多年死文に屬して之を活用するの風がなかつた。筆者の復興局計畫課長として、東京都市計畫として明治神宮表參道及裏參道の風致維持の爲、風致地區指定の手續を採つたことが、風致地區制度活用の嚆矢を成すのである。風紀地區の活用宜しきを得れば、遊廓指定に關する醜聞も二等地三等地指定變更に絡まる利權問題の如きも、都市計畫上の公明正大な手續に依つて根絶すべきであると云ふ筆者多年の主張は、未だ實現するに至らない。明治二十年頃本鄉根津の遊廓を、東京府は洲崎埋立地に移轉して教育施設の多い本鄉界隈の淨化を圖つた恐らくは明治以降の前途有爲の青年學徒の風紀健康の上に、此の根津遊廓移轉程遠大廣汎な好影響を及ぼしたものはあるまいと思はれる。孟母三遷を逆に行つた樣な好例である。風致の問題は帝國々民性の基づく所であり、秋津島根の風光明媚は國民の誇りとする所である。都市計畫法市街地建築物法が制定せられ、一方には史蹟名勝天然記念物保存法や、國立公園法の制定を見。風致地區の指定の如きは全國各地に普及盛行するに至つた。美觀地區の指定は尙少ないやうであるが、牧野伯の多年配慮せられた美觀審査委員會の制度も出來て、兎も角都市の風致景觀に付て漸次考慮を拂つて來る傾向は、看取し得られないことはない。

IV

風致地區の指定は、現存の風致維持保存に實のある工作物の設置や伐木土地の形狀變更を制限する消極的の効果がある丈の事である。固より積極的に風致美觀の增進は期待し得られない。美觀地區の制度も、第一は地方長官は美觀地區内に在る建築物にして、環境の風致を害し又は街衢の體裁を擾すと認むるとき、其の除却改修其の他の必要なる措置を命することである。第二は美觀地區内に建築する建築物の意匠に關する設計であつて、環境の風致を害し又は街衢の體裁を擾すと認むるとき、其の設計の變更を命することである。第三は美觀上必要ありと認むるとき美觀地區内に一定の區域を指定し、其の區域内の建築物の高、軒高又は外壁の材料及主色を指定するのである。第三の點が聊か都市美增進の積

極的の効果が期待し得られるかも知れないが、第一第二は現狀の惡化を防止する消極的の効果しか期待し得られない。都市美觀を毀損する廣告物は別途に取締る。俗惡建築物で都市全體が惡化する傾向があつても之を如何とも爲し得ない。勿論美觀地區に關する制度や規定が消極的で美觀增進に殆ど期待が出來ないのは、法制の干渉する範圍が必要最少限に止まることから來るので、都市美都市景觀に關係する如き、大建築大工作物は必ず建築警察の許可を受ける機會があるので、其の際都市美の見地からする修正示唆制限の作用を講ずることが可能である。都市美問題は風致地區や美觀地區の如き一局部の施設よりも、都市計畫乃至市街地建築行政の全面的の活用に期待する所が一層多大であると思はれる。

V

都市は建築物の集合である。各時代の文化の最高潮は都市建築物に表現せられる。一國の盛衰は其の代表都市の盛衰で判斷せられる。咲く花の匂ふが如き平城京の建設には、七堂伽藍八重櫻天然の風光と堂塔伽藍、極めて調和對照の妙を得て奈良縣絢爛の文化を織り成した。平安城の結構は勿論、都の守りとしての神社佛閣、夫々に形勝の地點を占めて、天然の風物と建築造營とは、融合調和して都市美の增進に寄與して居る。城郭の發達した時代の千代田城大阪城の構築の如きも、河海平野の間に無二の好風致と雄大な國礎治安の象徵たるかに見える。雄大なる理想も熱烈なる憧憬渴仰の信念も、神嚴壯麗の建築物に依つて表現せられるので、聖代を象徵する雄大な建築物が、尙數少ないことは遺憾とせざるを得ない。明治神宮內外苑帝都復興法建設物丸の內附近の近代建築、市街景觀の年々に改まつて行く中に、どれ丈け現代都市建築の誇りとし得るものが數へ得られることであらうか、古人が京都鎌倉の五山、高野山、比叡山、男山八幡、久能山日光其の他全國到る所の名山幽谷に、風光天然の景勝と建築の人工と相依り相扶けて、景觀の優秀向上渴仰の信仰歸依の宗教的な神玄な効果を擧げて居る例を見ても都市美の爲にする建築技術の任務は、想察されるのである。

VI

都市建築は多數の人の手に成るので、都市全體が不調和亂雜となることは止むを得ない個人の家屋個人の庭園には數奇を凝らし、周到綿密な管理をする者があつても、都市全體の景觀風致は甚しく無關心に放置せられる。市街地建築の取締は警察取締の下に立つが、警察の目的が消極的であるから到底積極的な綜合的都市建築の統制や指導は期待することが難い。大建築を擔當する建築技術者の良心と技術に依賴するより外はない。從つて都市美の爲にする問題の解決は、法制にも行政處分にも多くを期待することが出來ず、寧ろより多く世論の社會的制裁に期待するより外はない。先年都市美協會が採り上げた實際問題が之を證する。建築警察の本尊警視廳々舍建築に付て玄關正面の塔に付て、帝國議事堂の高塔と對照して、櫻田門外に於て體裁宜しきを得ないとか、議事堂の高塔の前に其の美觀を遮ぎる重複の贅物であると云ふ樣な考方から囂然たる除却運動となつた。此の都市美の上

からの批判には尚詳細嚴密な說明と論議が必要であると思はれるのであるが、實際問題としては都市美の見地よりも宮城に近く宮城を俯瞰するの嫌ひがあると云ふ樣な點が重視せられて、工事中の警視廳小塔の切り取りが決行せられた。何れにしても此の事柄は都市美運動の上の最も注目すべき事柄である。同時に採り上げられた秋田市、千秋公園周圍の濠を埋立てることを問題とした點も井上秋田市長や秋田魁新聞の共鳴に依つて取止めとなつた。古くは東京府の計畫した赤坂辨慶堀の埋立が世論の反對に依つて中止せられた例もある。大都會の水拭は管理不行屆で、風致美觀の上からも、保健衛生の上からも如何にも始末の惡い有樣であるが、何れは淨化改善の時機が來る。餘り輕短かに埋立の計畫をすることは、考慮を要する。東京市の新橋から八重洲橋に至る濠埋立計畫、濱町川、龍閑川埋立計畫の如きは、此の點からも史蹟保存の立場からも一層愼重なる考慮を必要とする。單なる當局者の狹隘な考方に一任すべきでなく、輿論の監視と遠謀達識ある故志學者の嚴密な批判に傾聽することが必要である。

Ⅶ

横濱市には昭和五年に制定した建築物表彰規程がある。大震火災に依つて潰滅した市街の目ぼしい建築物が一日も速に復興再建せられることを要望し、復興建築の助成防火建築補助等の施設の外に建築物表彰の規程を制定したのである。『第一條市街の美觀上有益なりと認むる建築物は本規程に依り之を表彰す。　第二條本規程に依り表彰を受けんとする建築物の所有者は、左の書類を市長に提出すべし。一建物の平面圖（縮尺百分の一程度）一正面、立面圖又は之に代はる寫眞。一建築物の名稱、所在地、構造、坪數、工費及竣工年月日等を說示するもの。一設計者の住所氏名及經歷。　第三條前條の建築物を審査する爲め建築物表彰審査委員會を設く。委員會は委員長一名委員若干名を以て之を組織す。第四條委員は市吏員及學識經驗ある者の中より市長之を命じ又は囑託す。委員長は委員たる助役より市長之を命す。　第五條委員長は會務を總理す。委員長事故あるときは委員長の指名したる委員其の職務を代理す。　第六條委員長は委員會に於て表彰を要すべきものと審査したる建築物に對し、其の事由を具し之を市長に報告すべし。　第七條前條の報告ありたるときは市長は該建築物の所有者並設計者に表彰狀を贈呈す。』都市美に關する極めて貧弱な我國の制度施設の中に此の規定の存することは注目に値ひする。其の實行が第二條に依る所有者の表彰を受ける爲の書類提出がない爲殆ど死文と等しい狀態に在るにした所で、當時の横濱市當局の見識には敬服すべきものがある。曩には美觀審査委員會の規定が設けられたけれども、此の委員會の權限も美觀地區內に於ける消極的措置又は指定の重要な事項に付て、地方長官から意見を徵せられる丈けの事である。眞に都市美の維持增進の爲には、恒常不斷に都市美に關する事項を問題として取り上げる必要がある。私案に依れば優秀建築物又は其の意匠設計の詮衡表彰の如きは、最も適當の問題ではあるまいか近年に於ける目ぼしい建築物の意匠設計は、巨額の賞金を以て一般の建築技術者から公募

するの例が慣用せられる。文藝上の作品の表彰も芥川賞、直木賞、菊地賞其の他の例がある。繪畫、彫刻、工藝等は夙に帝展其の他の例があり、音樂コンクールも行はれる。建築美觀に付て綜合的な詮衡表彰の制度施設があつて然るべきではあるまいか。美觀審査委員會は廳府縣に置かれるもので、消極的な官僚の中から此の種の創意と識見とを必要とする新施設は望み難いが、本當に物の分つた役人があれば、六大都市所屬廳府縣聯合又は內務省計畫局あたりの建築物表彰制度施設の立案創始を示唆要望したいのである。併し從來の如く官僚の消極と無能に絶望するの外はないとすれば、六大都市聯合の建築美觀の詮衡表彰制度施設の方が實現容易簡單であるかも知れない。何れは都市美協會あたりに於ても都市に於ける建築美觀增進の立場から、此の種の提案要望を主張建議して、其の實現を期すべきであらうが。更に廣く優秀な建築物の表彰と云ふことであれば、建築學會あたりの事業とするが好ましい。各種の建築物に付て既往何年間かの建築物の中から、優秀卓越したものを選び之を表彰推擧し將來に於ける發達を助成することは、建築技術の向上進歩の上に望ましいことではあるまいか。表彰の効果としての建築主、設計者、施工者等の受ける有形無形の利益、鼓舞奬勵等の好影響は謂ふを要しない。都市建築の向上發達都市美觀の增進も大に期待し得られることと思はれる。(15.3.7)

★筆者は橫濱市助役

第3回全國都市美協議會開催

1. 主　　催　京都市、都市美協會
2. 贊　　助　內務省、厚生省、京都府
3. **期　　日**　**昭和15年5月31日（金）～6月1日（土）**
4. 場　　所　京都市（岡崎公園內京都市公會堂）
5. 參加者　各市區、都市計畫地方委員會、商工會議所、都市美關係團體關係者、大陸各都市
6. 會議の順序

第1日　5月31日（金）午前9時開會

1. 挨　　拶　京都市長
2. 祝　　辭　內務大臣、厚生大臣、京都府知事
3. 講　　演　京都市の歷史的發達に就いて
4. 研究討議（各都市の研究を發表し自由に討議すること）
   第1議題　都市に於ける新舊文化を調和せしむる方策
   第2議題　美觀審査委員會設置並に連絡統制に關する方策
5. 都市環境の整備に關する報告並に建議
6. 協議事項　(1) 次回開催地に關する件
   (2) 地方都市美運動團體との連絡に關する件
7. 閉會の辭

第2日　6月1日（土）視察日程

第1班　比叡コース　　第2班　宇治コース
第3班　保津川、嵐山コース　　第4班　お庭めぐりコース

7. 參考展覽會の開催　都市美に關する展覽會（豫定）
8. 會　　費　參加1人に付金5圓（當日京都市會場にて受付）
9. 經過報告　都市美協議會の經過は雜誌「都市美」に揭載し參會者に後送す

都市美と自然美

——風致區問題について——

川路柳虹

都市の美觀といふ問題が近來何人にも一つの常識として取り扱はれるやうになつた事は嬉しいことの一つである。だが、都市美とは何かと開き直つて訊かれたら何と應ふべきであるか、その答へは決してまだ一樣ではないと思ふ。都市の問題としては都市計畫もその一つであり、一般の都市行政もさうであり、又純粹に審美的なる都市美あるひは風致の問題も都市に關する問題として考察される。今、經濟とか財政とかいつた問題は外にするも都市計畫なり都市美なりの問題は又必然にそこへも關係してくるのはむろんである。がさういふ方面のことは一切打ち切り「都市をいかに住みよくすべきか」といふ巧利的觀點から都市問題を考察する場合にも都市美の問題は決して等閑に附せらるべきではない筈である。普通いはれる都市改善（シヴイツク・インプローヴメント）の語も都市の構成的機能をいかにより善き方向に向はしむべきかの考察を中心とするものであつて、都市といふ有機體が完全に機能を發揮する爲めには都市の構成、都市の美觀、都市の衛生、都市の交通機能等一切を含めて市民の「住みよき土地」たらしめる條件を具現せしむる方策を定めねばならない。

いふ迄もなく都市は人間の集團生活の一表象である。個人生活の自由は何人も人間としての權利として要求されるが、集團生活の中に於ける個人は集團生活を保持しその機能を阻害せざる範圍に於てのみ個人の自由を許される。都市生活は特に近代となつて科學の恩惠を最も多く享受することに於て村落や山林の生活と至大な隔りを生じたが、又それだけ個人の生活は都市生活としての制肘も受けてゐる。野原の眞中にある場合は放歌高吟も平氣であるし、放尿も吐唾も自由であるが都市の路上では他人の妨害となること、衆人の非衛生となることは許されない。路を歩むにも左行右行の法的制限を守らねばならない。水道、瓦斯、電氣の恩惠に浴する代り、その使用に關しては各々定められたる規矩に從ふ義務がある。つまり個的な絶對權は許容されず、集團の機能を害する行爲は許されない。と共に個人のより良き生活を集團の力によつて保持するものが都市生活であり、その機能によつて人間生活を高度に發達せしめるものが都市生活である。一言にして言へば自然性に對する人間性の高揚、人工による自然の揚棄に他ならない。文化の語が自然の對蹠（オポジット）である意味に於て、「都市らしきこと」が文化（シヴイリゼーション）を意味した語索の變化も蓋し當然である。それは必然に集團生活の高度な發達をまた意味するものでなければならない。

この意味に於て都市美は根本的に自然美と異る。都市美は自然美に相對するものである

と共に全く異質のものである。都市美をたゞ観光（サイト）の側からのみ見るのは誤りである。それは必然に「生活」の観點から考察し、「生活の美」としての立場から見ねばならないのである。都市の美観といふ語が較もするとたゞ風光の美に解されやすいが、それはむろん人間視覺を娯ませる必要上需められるべきものであるとしても、たゞ平面的繪畵的視覺美が都市美であるのではない。それは實に人間生活の集團的有機的な活動を中心とする美の表象として存在すべきものなのである。この意味に於て都市美はいつも構成的であり立體的であり動的であり、有機的なる要素を必要とする。人間生活をのぞいて都市美は全く空虚となる。假りに善美を盡した建築や道路や公園の都市に1人の棲む人なき狀態を想像せよ。それは全く死都廢都としての存在でしかないであらう。ポンペイの廢趾に立つて、その完全な古代の都市計劃を窺ふことは出來ても、あそこに吾らの都市のもつ「生命」の一片も存在しないことを思ふ時、それは完全に死都以上でないことを知るであらう。

アルプスの山谿やナイヤガラの瀑布やは自然の作つた偉大莊嚴な美観である。そしてそれは完全に自然自らが生動してゐる自然の自律的風景である。アルプスの登山に電車が用ゐられ、ナイヤガラの瀑布の観光にエレベーターが用ゐられようとも、自然自らの活動は何ら阻害されず、雪や雲や水や霧の運行は自在である。これを何らか人間の福利に利用せんとする工夫は生じても、人間の眼が感ずる自然美の偉大は自然自らの生活する様相から生じてゐるのである。自然が大きければ大きいほど、そこでは人間が卑少であり、人力がその前に屈してゐるのを感じる。自然のサブライムの觀じは人間力をそこに加へないところに、また加へられない處に生じる。それは視覺の美以上に人間精神に働く美であるからである。かような自然美と人間の集團生活の表象としての都市美は全然對蹠的なものであると共に異質のものであるのは論を俟たない。

そこで茲に「風致區」の問題を考へよう。風致區とは都市生活のなかに幾分の自然美を交へたる區劃であらう。それは時に大きい自然を——山とか川とか、森林とか、湖沼とか——背景にすることもあらうし、又それらの自然をとり入れた中に都市的要素を交へた區劃もあらう。都市としての建築、交通機關、道路等を備へてしかも一方に綠樹の園む莊園、歷史的記念物、或ひはよく整へられたる街樹の列、河の堤のよく刈られた芝草、——すべて自然の一部が都市の人工的施設と良き調和をなしてゐる區劃である。それは都市の中にあつて人間の視覺にも精神にも安らかさや落着を與へる一つの區劃（コーター）である。人間の物質生活の殺剌たる機能を示す工業區、商業區に對蹠して都市の優雅な閑雅な側面を代表する區劃であらう。だからこゝでは自然が自然そのまゝの自律を人間力によつて制肘され、都市の建築や道路を引き立たす爲めにも、その兩者の美しい調和を示すためにも、自然が人工に馴致服從される位置を取るところにその本來があらう。倫敦などの郊外に見る郊外園（コンモン）の如き廣大な平野は夫れ自身大自然の一部であるが、それが美しい道路に圍繞され、さゝやかな別莊などを近くに點綴するあたり矢張り都會の要素を大自然の僞裝の中に加へ、人

間的知覺を自然の中に求める區劃に他ならぬ。それは所謂ハイキングのためにも、ピクニックのためにも、又都會の空氣の渾濁を淨化するためにも良き存在である。巴里の市中にあるボア・ブーローニュの森林もさうだし、伯林郊外のグルユンワルドもさうである。東京で言へば奥多摩の溪谷もさういふ處になるであらう。が、さういふ意味の風致區以外に宮城の周圍、丸之内の一角、明治神宮外苑、代々木の原の一角、その他所謂新市域に屬する諸所に風致區の設定はあるようだが、この風致區は全く人間の都市生活の必要から造られた自然美と都市美との調和區劃であるから、そこでは自然が人間力の制肘を受けると共に、又人工に對して自然との調和を妨げる要素に對しても集團生活の必要から種々な制肘を加へねばならない。集團生活は一切の獨善を許さぬ如く、風致區はその自然に對しても人工に對しても、調和を妨め、不快の感を與うべき要素の除外排除を必要とする。たとへ善美な建築を建てるにしても、その位置や、樣式については一定の制限が必要になる。獨善が許されないからである。このことは嚴密に言つて風致區のみのことでは勿論ない。都市美の構成はいつも集團美に基礎があるのであるから一般の都市美には勿論獨善が許されない。いかに金がかけられたとて、一つの街區の調和を破る如き建造物は許されないのである。不幸にして我國の都市ではこのことがまだ實行されてゐないから、どこの都市も建築の見本市の如き不揃の現實を曝露してゐるが、風致區に於てはことにそれらが自然をとり入れることに於て一層デリケートな注意が行はれねばならないのである。

風致區は都市生活の活動面に對する慰安面、積極面に對する消極面を代表するが、しかしそれだけの効用だけではなくもつとシリアスな實用面をもつてゐる。この點からも近代都市としてそれは必要な一區劃でなくてはならない。それは何かと言へば現代世界の危局が當面する戰時狀態に於て都市の防空機能を勤めるものがまたこの區劃であるからである。市街地によし防空壕や地下室、地下道が作られるとしても、幼少兒の避難所、多數市民の安全地帶を提供するものはこの風致區中に存在する空地、林野の如きに求めねばならないからである。從つて風致區の主要道路は決して狹隘であつてはならず、一旦有事の際には糧秣の輸送にも、警備の軍隊の通行にも堪へるだけの廣さと堅牢さを持つてゐねばならない。公園や空地、林野の存在は實に都市の生命線を守る役目を果すものであつて、單に平時の美觀區たるの役目ばかりでないことを知るなら風致區の施設は今後もつと廣汎に合理化する必要があらうと思ふ。 ★筆者は文藝作家

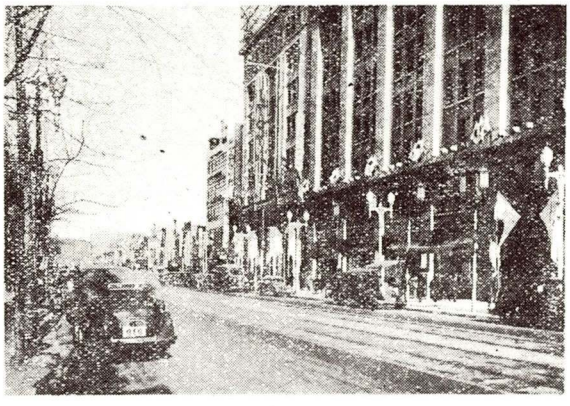
わが國最初の跳上橋可動電車線

我國初めての跳上橋可動電車線が大阪鐵道局に於いて完成されることになつた、大阪西成線の安治川口—櫻島間に現在跳上橋があるがこれはガソリンカー及び汽車を對象として居るので架線なく今回の電化によりどうしてこの跳上橋に架線をなすか國鐵技術陣を動員して研究中だが完成の曉は大阪の一見物たるを失はないであらう。

跳上橋に架線のあるのは内地では前例がなく釜山において同種のものがあるが、釜山のものは跳上げの場合においても橋が架線に抵觸せず大して技術上困難は伴はなかつたが、今回の跳上橋では跳上げた際に普通の架線では橋が架線に抵觸するため架線については獨特の工夫を必要とするわけで大阪鐵道局では沼野技師が主任となり目下試作研究を進めてゐる。

都市美と建築・道路

今井哲



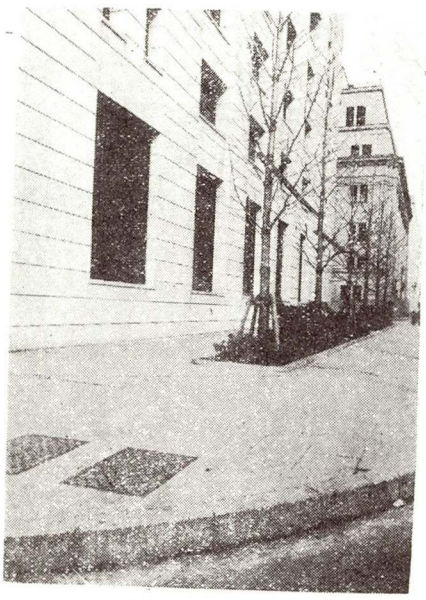
第1圖　東京銀座通り松屋・伊東屋・明治製菓の三建築物を示す

近時都市が、幾分づゝ整つた形に纏りつゝあることは、吾々建築及土木の業に携る者として慶賀の至りである。之全く吾々の努力の結果なりとは信ずるも未だ滿足の域からは餘程の距りがある。即建築にしても土木工事にしても、目前焦眉の目的にのみ拘束せらるゝ結果、近代的感覺に適應せざる且餘りに刺戟性のもの多きは遺憾である。私は以下少しく、都市美の觀點からのみ、建築及道路が如何に都市全體としての景觀を害しつゝあるかを述べて見たい。

都市の景觀を左右するものは、先づ建築と土木工事である。就中建築の出來不出來は直に都市美を支配する。此の意味から先づ建築の現狀を檢討して見やう。建築物の大部分は都市美の增長の爲めに計畫せらるゝものに非ざるが故に、多大の犧牲を拂ふことを强ひ得ざるは元よりなるも、建築が都市美を支配する立場にある以上、今少しく都市全體の景觀に適應するやう計畫實施せられたきものである。恐らくは建築主の希望ならんも、屢建築技術家の野心の爲めとも見ゆる餘りに廣告的の計畫の建築物が多い。既存の建物を威壓するが如きもの、或は剽輕にして周圍の環境の優雅を破壞するが如きものを散見するは實に忍び得ざるものがある。時には勿論用途を重視したるが爲めに環境を破壞し都市美の異端であることもある。一面用途に忠實なるが如きも仔細に考へると、都人の嫌厭の焦點となりたりとせば、反つて用途に不忠實の結果となる。特に商業を營む建物、事務所建築に於て然りである。一例を東京の丸の內、宮城外苑沿ひの高樓街を見ても、既存隣接の建物よりも何か一つの衆目を引く可きものが先づ考慮せられたるやの感がする。私はそこの建築物が不出來の作品もあるといふのでなく、必ず一つの纏まつた、都市美の觀點からの調和性を考へられてない建物もあるやうな氣がすることを申述べたい丈である。此の街路沿は風致地區であるから建築物の制限をも都市計畫法又は建築物法の中に加へて、環境調和の項目を挿入する必要なきや。

前に述べたる如く、建築主の希望を無視することは不可能なるべきも、時に甚しく異様の形態なるが爲めに、後に建つる建物主が如何に讓歩し、如何に手加減を加へても、街衢の景觀に纏まりを付け得ない場合がある。寧ろ大都市程此の例を屢散見する。而して之は單に民間建物のみに非ずして官公廳舍に於ても此の例多からざるか。例へば、帝國議事堂の高塔は白色にしてスカイラインと調和して幾分夢幻的の感覺あるに對し、その前面に一層巨大の外觀を有し、餘りに現實的なる警視廳の塔を配したる如き、然も當時、都市美協會其の他より相當强烈なる抗議ありてその尖端三分の一は剪除せられたるも尙且現在の狀態なるを思ふとき、官廳の建築に於てさへ、用途の前には、何等都市の景觀の如き顧慮せられざることを實證するものなり。斯の如き世情に於ては民有の建物に都市美の如き、多くの考慮を拂はれざる亦宜なる哉とすべし。或人は建築物の如きは二、三十年にして既に其の使命を終るものとすべきに付き其の後は經濟的利用の價値少しとして遂に改築の必要を生じて舊建物は撤去せらるべきを以て、都市美の如き永遠性の論點の爲め、現在を目標としての都市の景觀尊重主義に立脚して建築物を設計施工すべきに非ずとの論あらんも、私に思ふに、右の如き論は一應成り立たんも、二、三十年改築說の如きは實現作はざること多し。特に近時建築物が愈宏壯となるを思ふとき、建築物の生命益永きを思はざる可らず。十年前に見た大阪朝日會館、或は最近出來上れる鐵道省と東京驛との調和或は又銀座通 **松屋、伊東屋、明治製菓賣店**（第1圖）との權衡等、何れも箇々に見て惡かるべき計畫とは思はざるも、都市美の觀點よりして果して優良の形態色彩と云ひ得んか。

更に建築物との調和に就ては、建築家と道路技術者も餘りに顧慮せざる場合多し。一聯の建築群相互間の陰影、道路に及ぼす日光の射影等も都市の景觀に響くべし。建築物法に於て前面道路の幅員と建築物の高に一定の制限を附す。但し、之を都市美的の觀點よりすれば尙一考に値せざるか。現在の實狀は、大體に於て、宅地の利用を主眼として、審美的の街衢に於けると、小賣商業向盛場に於けると、道路幅員に對しては同一比率で制限せんとするに無理なきや。建築面積、高さ等に付いても各異りたる特徵を有せしむるを適當と覺ゆ。特に高さの制限は前面道路を主眼とし、側方及後方道路との調和を犧牲となすの嫌なきか。即表通より見て好もしき建物にありても、横通りの道路との調和に著しく缺くるものあるを覺ゆ。昨年竣功せる東京の**第一相互館**（第2圖）は三方道路に對して後退せる爲め各方面より見て見良し。其の・



第2圖　東京にある第一相互生命保險社の側方及び道路に面する部分を後退して植樹しある美觀

側に植樹帶を附したるは道路幅員に對する良き解決法なりと思ふ。近時此の種の手法を屢見るは、或は建築物法の取締の要請あつて、不經濟をも忍びての計畫なるやも知れぬが、其の何れにせよ、建築主に對し敬意を表するものなり。

東京、大阪等に於て見る如く、地盤表土が軟弱層なる時は、建築物には、後日の路面沈下を豫想して、適當に後退せしむるを要すべし。例へば、日比谷の附近、最も著しい三信ビルに於ては、歩道より建物に入るに二三段を上るを要す。其の外觀の醜なるは元より、建物利用上極めて不利ならん。若しそれ、道路管理者にして、道路上に段階設置を默認せざらんか、人の出入も不可能に近からん。之等は當然、當初の計畫に於て、適度の後退をなすべきものにして、此の點のみよりするも大建築物にては後退制限を法に依りても規定すべきものなり。此の後退なきが爲めの道路に及ぼす惡影響は枚擧も及ばず。或は前面を建物の一部として使用し、自己自動車の專用の狀態を呈し、甚だしきに至りては、都市の中心部に於てさへも、道路を工場の一部として獨占せるが如き觀をなすは、單に都市美の觀點よりして、不適當と考ふるのみに非らざるにより、建築主としても、建築士にありても深甚の考慮を願ひたき點なり。

建築物を、宅地の間口一杯に建てることは、餘程の注意を拂はざる限り、切角の建物其のものの美觀を害する結果を見ん。勿論建築物は都市美第一主義に建築せらるるものに非らざるも、著しく環境を破壞するが如きときは、建築物自身の目的の價値を削減すべし。建物の間口問題は屢洋風住宅の場合に於ても考慮を要すべし。例へば、地階より屋階迄を一戸とする場合に於ても、必ずしも各戸一棟となすの要なく、二戸又は數戸を一棟とし、間口を廣くすることも考へらるべし。餘りに小間口の建物の櫛比することは何れの點よりするも不利ならん。

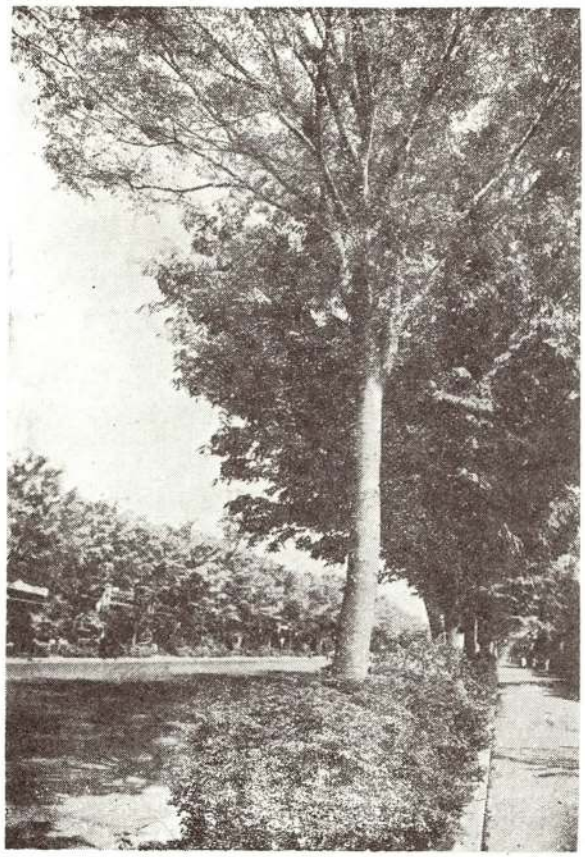
事務所建築に於ては勿論、住宅建築に於ても、街路の幅員と或る範圍の比率を間口に採らば土地利用上及都市の美觀保持上兩得ならん。日本風の住宅の場合にしても亦同樣にして、若しも間口廣くして、且建築面積が宅地坪數の二割以內の如き場合には、大體に於て各戸思ひの儘の家屋を建つるとも都市美を害することなからんも、之に反して小宅地小住宅に於ては特に留意を要すべし。相互の協調によりて隣接家屋が協和するに於ては、相互に住み心地よき住宅として其價値亦高まるならん。然るにも拘はらず一般住宅の場合に於てさへも、尙且衆目を引かんとする。即廣告的の意識を露呈するは、靜かなるべき住宅地を視覺上喧騷の感を免れざらしむ。

元來、吾國都市の道路の幅員は箇々に就て見るに稍廣きに過ぐることなきや。勿論吾國には遺憾ながら道路面積少く都市面積との比率低き爲め、交通幹線が地方的の通路を兼ねる場合多く、道路と云へば常に廣きをのみ尊ぶは、一應無理からぬことなるべけんも、交通量の消化に汲汲して、只々幅員を擴大せんとするは當らず。反つて廣きが爲めの交通量削減を來たしつつあるの嫌なきや。或は又無用の幅員を贅取して、市街に荒寥の感を起す

ことあり。其は兎に角、吾國にては建築物の高さが三十一米に限定せらるる以上、都市美の觀點より見て、建築物法の定めに準應して、逆に道路の幅員を限定するの要なきや。現在の法律にては、商業地に於ける建築物の高さは道幅の一倍半とあるも、道幅と建物高との此の比率は都市美より見て疑ひなく適當なりや。

次に最も再檢討を致したきことは、殆んど總ての工場或は倉庫の類が、誇張して云へば雨露を防ぐを旨とし、外觀に付きては何んの考慮をも加へられざるが如き感ある點なり。一般の土木事業に於ても、例へば水道に關する工事等は、萬事清潔を旨とし、外觀にも特に留意して整ひたる形態になしつつあるは、市民の事業に對する信頼と安心の爲なるに非すして、水道事業の從事者自身に、始終清淨緊張の氣分ならしめんとするものなることを忘るべからず。即一般工場にせよ、倉庫にせよ生產品の優秀を望み、需要者の信用を確保するが爲めに、先づ建築物を優雅となすは極めて有利なり。即都市美を保持して製品の優秀を期したきものなり。東京の都市美協會は豫てより、毎年四月三日、都市の植樹を勸奬し來りしが今年は特に、工場地の綠化に志ざし去る四月三日、四日の兩日共の希望の一部を實行に移して東京市城東區の工場地に植樹の宣傳並に實行をなしたるは、全く右の理想に邁進せんとするものにして、美化せる工場地即ち優秀製品を主張したるものなり。

第 3 圖　明治神宮表參道の植樹帶の樣を充分に生育せしめ市街の美觀を增進せる圖



都市美の觀點より道路を見るとき、先づ考ふべきは其の幅員なり。前に述べたる如く、建築物に高さの制限ある以上、之に調和する道幅は自から定まるべき理なり。狹き道に檜比する高き建築物が如何に不調和、不優美にして、都人に壓迫感を與ふるかは外國都市にては屢見るところにして、新進都市にして其の擧に倣が如きは避くべき途なり。建築線の後退により調和を計り都市の美觀を損せざるやう注意致したきものなり。市中屢散見する如き前面道路の幅員に



第4圖　東京・銀座の大通り・然も其の中心地・服部時計店を望む歩道の醜態を示す。

は稍適應する建物が、側面の道路又は隣接したる建物との間の路地に對しては、極めて不調和を來しつつあるは遺憾なり之れ極度に土地を利用せんとする場合には致方なかるべしと雖も、一方には側面の採光、通風等より考へ併せて必ずしも建築面積の過大が土地利用の第一義とは稱し難き場合多きを考へたきものなり。即之等は建築物法に詳細の規定を設けて、一方には都市美を保全し一面には土地利用と歩み寄るやう考慮すべきものと信ず。一方又、道路の幅員を定むる場合にありても、現在の交通の數量のみに依存せずして、將來に亘り交通系統、交通量の變化を併せ考へて道路の幅員は之を必要の限度に止め、只廣きを尊ぶことをせず、若し過剰の幅員を採り得る場合には、植樹帶等の方法によりて、建築群に調和する道路の斷面を考慮すべきなり。吾國の道路は今尚交通專門に計畫實施せらるるが爲め、建築物との調和に缺け、都市美觀上不充分の點多し。例へば車道に於ては交通車線の多きをのみ企畫し、時に、歩行者の爲めの車道横斷施設なき爲めもありて、不規律なる歩行者群によりて車輛の運行は計畫の如くならず、車道内の横斷歩行者を、自動車が掻き分けつつ疾走するが爲め反つて交通量の削減をなすのみならず、都市景觀をして優雅と稱し難からしめつつあり。私に考ふるに、道路幅員は、車道十八米即通行四車線、停車二車線以上は交通の調整美を保持し得られざるやうに考ふ。次に歩道の問題なり。吾國の法律にては歩道を各側に車道幅の四分の一宛を取ることを標準とするも、都市美の觀點よりせば稍高層の建築群に對しては、歩道幅は車道幅の如何に拘はらず、相當之を廣くすべきものにして、例へば六米以上としたし。又車道如何に廣くとも、歩道は一律に四分の一では調和を缺くの結果を見ん元來車道狹き街路にては、歩行者少しと雖して、車道と歩道の比率を略一定せられつつあるも、此の定に無理なきや、吾國都市の道路が都市面積に比して今尚少く、例へば東京九%、大阪八%等なるのみならず、廣き幅員の道路が極めて系統的に少き爲めもありて、車行自由の道路は總べて交通幹線に使用せられ、沿道とは何等の關係なき車輛が蜿蜒として通り抜け運轉をなしつつあるの實情にして、沿道建築物等利用者の爲めの道路に非ざること多きが爲めもあるべしと雖も、將來を考ふる時、歩道は車道の四分の一の比率は如何のものにや。震災前、東京銀座通が盛場たると同時に、殆ど唯一無二の交通幹線なりしが爲め歩道を各側一米づゝ削りて車道となしたることあり。之れ亦道路は常に交通幹線としてのみ考へられつつある適例とす。車道の廣きに過ぐることと同じく、歩道の狹隘より都市の景觀を害せらるること鮮少ならざるは更に多言を要せざるべし。尤も、今日の吾國の道路の大部分は歩道上に凡そ利用し得る限りの工作物を滿載しつつありて、數種の電柱鐵塔より信號塔

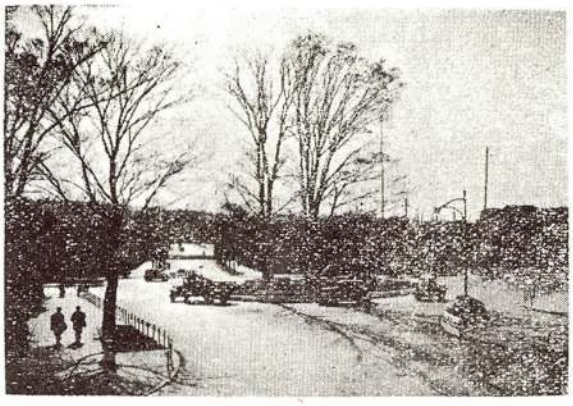
交番等列擧の隙もなき迄に濫用しつつあるに拘はらず、市民は毫も之等の都市の醜化しつつある工作物等に關心を持たず、之等に對し何等の排斥をなさざるの結果、今日各都市に見る如く、大都市なればなる程、歩道の爲めに都市が醜化せられつつある現狀に於ては、歩道の廣きは一層醜化の原因となるやも計り難し。全く寒心に堪へざるところなり。試みに銀座大通の中央即四丁目の**服部時計店**（第4圖）の稍宏壯なる建物を望むとき尙且つ掲出の寫眞に示す都市醜あり。

都市の舗裝も亦著しく都市の景觀を左右す。車道の灰色化又は白色化、時には煉瓦の錆赤色化或は花崗石を用ゆる等千變萬化、好むに任する如くなるは果して如何のものにや、環境の景觀と何等の調和を顧慮せざるに似たり。道路技術者に在りては環境の風光と建築群とに對應して歩道の幅員を定めたきものなり。又、我々永年道路管理の任にある者は、建築家にして如何なる豪華の建築を計畫せらるる場合に於ても道路管理者に對して、道路の現在及將來に涉りての手法に付き、道路の管理者に對して曾て照會せられたることあるを知らず。之れ實に建築家は道路を念はず、道路技術家は建築を顧慮せざること多き實證なり。かくして單なる不用意に依り著しく都市美を損壞しつつあり。建築家が設計に先だち透視圖を作製せらるるに當つては、實際上の環境、例へば電柱の亂立、隣接既存家屋等ありの儘なる現狀を取り入れて作成せられつつあるものなるにや。練達の建築士の構成せる建築物が建物自身は極めて優秀なるべきは當然なるも、環境と對照して遺憾なる場合多からざるか。元より注文者の希望を主とする結果の場合多からんも特に考慮せらるべき點なきや。

道路の系統平面的配置に就ても都市全體の景觀に影響するは勿論なり。今日迄の道路技術者は將來如何なる方向に土地が利用せらるるか、又は如何なる形の建物が建築せらるるかを考慮すること少し。單に交通量を豫想することのみに專念して、道路割をなさんとするの傾向なきや。尙都心地又は商業中心地、乃至は事務所建築の密集地域内に交通幹線を縱橫に配置したるが爲め、各種の見苦しき車輛が複雜にして不整頓に疾驅するに依り都市美の障碍となることも甚だし。少くも都市の中核をなす地區内には東西南北より疾驅して通り抜けをなす交通機關の如きは通過せしめざることを要せずや。又土地の利用者は工費節約の意味をも含めて道路管理者の設けたる交通幹線を取り入れて先づ土地の經營をなさんとするの



第5圖　吾國に於て最初に設けられたる交通島にして東京驛前にあり



第6圖　東京・明治神宮裏參道と環狀第5號道路の交叉點に於ける交通島の美景

傾向あり。其の爲め上述の弊を增す。今日迄の吾國の道路にありては交通の量と質との變遷目まぐるしく、吾國獨自の考案により築造方法をなすの遑なかりし爲め、一先づ外國模倣を主とせしことは致方なきも、元來吾國には吾國風の道路の造り方ありて然るべしと信ず。今日となりては既に、將來交通機關の發達其の他の事情も豫想し得るを以て、道路築造方法に再檢討を加ふべき時に非ざるか。例へば、道路の幅員に常に規則正しさを强ゆることをせず反つて所によりては廣き植樹帶を設け或る場所には森の後方に建築樣比し、森の中には車道のみの交通幹線路を配する等の工法は防火、防空上は元より都市の美觀保持上良案なるべし。吾國の道路には殆ど街路樹を八米間隔に整列せしむるも見方によりては變化なく倦怠の感を生ずることもあるべし。都市の景觀に小變化を與へたるものに街路交叉點の無停止**交通島**（第5圖）即ちロータリー・アイランドあり。之は昭和八年初めて東京市に於て試みられ、其の後全國に波及しつつあるものなるが、其の構造各部皆一律にして趣味無き狀態なり。例へば、自動車の運轉に視野を遮ぎらざる爲島內には矮樹、芝草のみを植ゆるも、寫眞に示す如き枝下高き木を植栽すれば、交通上何等の障碍とならず且都市の風致を增大し、街路に好もしき變化を與ふるは讃美すべきなり。

次に各都市の道路の維持費の過少なることを市民は篤と承知せられたし。例へば東京市にては道路面積六千萬平方米に近き大面積に對し一年の維持經常費僅に年額四、五百萬圓を出でず、一平方米當りにすれば僅に八錢なり。又橋梁のペンキ塗裝の維持に至りては各都市共皆殆ど放置して顧みず。誇張して云へば、大都市繁華の眞中に醜骸を晒すに拘はらず、市民は何等之を疑はざるの無關心ぶりなり。甚だしき橋梁にありては塗裝の不充分より鋼材の腐朽に依りて架け換を要するが如きものすらあり。市民の關心薄きは誠に遺憾なり。吾人都市の建築及道路の技術に直接間接に携る者は相協力一致して、住みよき都市、都市美豐かなる都市の構成に努力致したきものなり。

以上散漫ながら都市美の依つて來る源泉の一部を述べたるが之を改善除却して以て都市を美化せしむることは、一に我々技術者の責務と信ず。又惟ふに、建築に於ても、道路計畫にありても少しく顧慮を拂ふに於ては、所期の目的を達成せしめつつ、都市美亦自ら整備する事を得べし。かくして都市美の助長は殊更に失費の原因とならざる點を主張したし。

目下十五年度初頭に當り、新年度工事の實施計畫其の他公務多忙を極むる爲め、撰稿の隙なく文意不徹底、或は用語の不洗練等の結果、先覺者諸氏の叱正に値せざる態のものあるべし。此の點特に諒恕を乞ひ一先づ擱筆して後日更に詳論の折を期せんとす。

★筆者は東京市土木局長・都市美協會理事

都市の美觀と風致に關する管見

田　村　　剛

近頃都市の美觀とか風致とかに關する問題が行政問題として或は社會問題としてとりあげられつゝあるのは、洵に悦ばしい現象である。そして美觀といふ場合には道路建築等人工的要素を主とする都市の觀相を指し、風致といふ場合には、河川、海港、山丘、森林、原野等、自然的要素を主とする觀相を指す樣に觀念せられて來てゐる樣であるから此處にもさうした用語の解釋に從つて所見を述べる事とする。

さて日本の都市は明治維新以來、文物の急激なる變遷に伴はれて著るしくその樣相を更めつゝあつたのは衆人の均しく認識する所であつて、それは内容的には疑ひもなく、非常な進歩をなし來つた結果に他ならぬのである。然るにその外觀に就いて檢討するならば其は必ずしもさうだとは斷言出來ないのである。そして此事は、政治家も、技術家も、そして社會人一般も夙に承認する所でありながら今日まで之に對する徹底的對策は講ぜられてゐたとは言はれないのである。都市計畫立法の上には、美觀地區と風致地區の規定は設けられてゐるけれども、それによつて全く安心してよい狀態には置かれてゐないといつてよい。都市美協會とか風景協會とかはあつても、その活動に信賴してゐる譯にも行かぬ樣である。何よりの證據には現に我が都市でその美觀を以つて誇り得る樣なものが殆んどないといつてもよい現狀にある事が、其をよく說明してゐる譯である。

二

由來日本の都市はその構成要素たる建築物に就いて悲しむべき不統一を醸してゐるのである。單にその樣式が混亂して歸一する所を知らぬ計りでなく、その構造や大さが區々である爲に、都市の美觀は著るしく醜いものとなつてゐる。最近道路や橋梁やは漸次整備されつゝあるけれ共、建築物に至つては、全體として何等改善の傾向さへ見えぬのである。強いて言へば東京市の丸ノ内あたりが漸く建築物を含めて近代的都市らしい體面を保つてゐる位であるが他には在來の日本家のみの純日本的都市の美觀さへ維持し得てゐる樣な街區さへ絶無といつてよい位に混亂し盡されてゐる。殊に安つぽいペンキ塗りの洋風めいた建物が各所に混入する樣になつてから全國の都市美は破壞の度を加へた樣に見える。純日本趣味の都市として生きねばならぬ吾の京都や奈良にしてからが、その通りである。大阪などにもせめては純日本趣味の街區がその一部には殘されてよい筈であるが、さうしたものは今日全く見られない狀態である。要するにある都市、殊に住宅地域の一部などには、建築の制限をかなり强度に行つて、その外觀や大さに就いて統制を爲し住み心地のよいそして美はしい街廓を現出するやうに努める事は、決して不可能な問題ではない樣に思はれる。そして此ためには法規に基く制限を行ふ他に、市民の自發的活動に俟つべきものが甚

だ多い様に考へられる。土地會社の所有地や分譲地などでは少くもかうした事は實行容易であるやうに想はれるので、せめてはかうした部分からでも實施したいものである。同様の事が商店街に就いてもある程度までは言はれる様に思ふ。そして例へば東京の銀座は都市美の方からすれば、全く問題にならぬ現狀であるが、之も放任してゐる譯には行かぬ様に考へられる。廣告物や看板等の問題は、都市美觀の方から云へば末梢的な問題であるが其さへも統制し得ぬ様では心細い限りである。

三

日本の都市は風致的には有利な條件を備へてゐるものが甚だ多い。其は自然的環境に惠まれてゐる爲である。河川、港灣、山陵等に接して美はしい都市としては函館、仙臺、新潟、東京、横濱、京都、奈良、大阪、神戸、岡山、廣島、松江、高松、高知、福岡、別府、長崎、宮崎、鹿兒島、等大都市中にも傑出したものが多いが、中小都市中には殊に立派なものがある。私の知つてゐる限りでは尾道の如きは群を拔いてゐる様である。然るにさうした自然的環境が都市の發展により日に月に破壞せられつゝあるのは實に痛ましい限りである。一度破壞せられた自然は再び取戻すべき手段はないのであるが、僅少なる經濟的犧牲を惜しむ爲に隨所で日本都市の誇りが永遠に滅亡しつゝあるのは返す返すも殘念な事である。風致地區や綠地計畫や、近頃だれでも、かうした方面に多少とも關心を高めつゝあるのは賴もしい事ではあるが、結局は美觀の問題は經濟にはうち勝てない様な實狀であるらしい。この點に就いては、今後更に强力なる制度と社會的支援とを必要とすること切である。自然の風致は之を增進し得る範圍は極めて少い。之を維持する事が、せゐ一杯である。そして自然的風致は心よき極めて僅少なる加工によつても毫なしにされるのであつて位置を誤つた工場一つの出現によつても、容易に致命傷を蒙るのである。時としては風致を利用せんとする爲に、工夫せられる道路や旅館の建設の爲にさへ、その風致を壞される事があるのである。かうした點に就いては何としても關係各地の市民が良心的監視を嚴重にする必要がある。私の見る所では、更に根本的な問題として市民の審美心を涵養する事が先決問題でもある様に想はれる。又ある場合には公共團體に於て、その都市の風致を保護する爲には常に相當額の補償費を準備して居る事が最も有効適切である様であるが、かうした餘計な豫算を常に持つ様にするには、市民の理解がなくては能はぬ事である。要するに悪いとは知りつゝも風致の破壞を來す事を默認しなければならぬ様な事態は凡て經濟問題に基いてゐる様であるから此點に關して特に私は風致補償費といふものの積立てを要望するものである。尚ほ最後に近時都市の觀光事業といふものが、相當に重要視せられる様になつて來たので、從つて都市の風致が無形の資本として利用せられる事も判り、之により交通業、旅館業、飲食店業、土産物販賣業等各種の事業も起り、現實に風致が經濟的價値をもつ事が立證せられつゝあるので、かうした方面からも風致の保護は力强く主張せられるやうであるから、當路者の注意はこの方面にも向けられるべきであると信ずる。

★筆者は厚生技師兼務技師

都　市　美　隨　想

島　田　藤

都市美を思ふ

施工者が都市美などを兎や角云ふのは、心得違ひであると咎められることかも知れない毎日離艦と、請負の業務に東奔西走してゐる事と、都市美などと云ふ問題に嘴を入れることゝは、筋違ひのことである。

それを、どうした風の吹き廻しか、都市の美觀について何か書けと名指されて、然も珍らしくも關西からの依頼である。躊躇しないことはないが、こんな場合に、自分の能、不能は別として、易々と引受けられるのもその道の專門家でない氣易さとして許して戴けやう。たゞ言葉のみ多くて人を誤ることにならなければ幸せである。

都市美は現在の様な緊迫した時局下には、緣の遠い問題と考へられ勝ちである。日本建築協會が、今どうして此の問題を持ち出されたかは知らないが、私は個人個人の身嗜みは結局都市として都市美となるものだと思つてゐる。今の世が、床の間に花一輪挿すだけの裕取りを許さぬものだとは思はれない。或は戰場で、愈々最後の決戰に向ふ勇士が鐵兜を被り直すだけの餘悠と敎養こそ、都市美の精神だと思ふ。

聞く所に依れば、獨逸では今ベルリンの都市計畫の實施の最中だといふ。國運を賭して戰爭を始めた獨逸の有樣は、國家の重大時局たること、我國の現狀と變りない筈である。然も大々的な都市の改造を行つて居り、之を以て民心の統一を圖り、國威を宣揚するの手段なりとしてゐる。公共建築の上棟式などは最も壯嚴に行ひ、重要な建築の相次ぐ建設に依り、國民精神總動員の具體的象徵として、宣傳に利用してゐると云ふ話である。

イタリアにしても、新らしい文化の建設を目指して、建築、繪畫、彫刻等の振興を圖りローマの大改造を企て、或は各地に特色ある新興建築を起して、建築を通じて國家意識を强調し、清新の氣を取り入れることに力めてゐる。都市の建造物を積極的に整調して、其品位を高め鄕土愛を昂揚せしめることは、常に甚だ必要な事と思はれる。以下都市美に關する極めて常識的な二三の問題を提へて見たいと思ふ。

調　　和

私は學生時代に恩師から、建築の計畫には、周圍と調和する様に設計しなければいけない、と敎へられた。學校を巢立つて實際の設計に携はり、初めはどう云ふことが調和かも分らなかつたが少しく物が分る様になつてからも、どうして調和させることが出來るか、その術が分らなかつた。調和こそ都市美に取つて最も大切なものであり乍ら、全く調和し難い亂雜さであるのが、我國の現代の都市の姿ではなからうか。恐らく世界を歩いて、是

れ程雑然たる都市に巡り遭ふことはあるまい。私は多勢の人々の集りを見て、つくづく我國の風俗が雑然たるものであり、集合に依る美しさの求め難いことを感ずるのである。廣場に集つた群衆にも美しさはあるものである。

我國民が集團の美に目醒めるのは、いつの日かと歎かざるを得ない。畫家や街頭の寫眞狂は、市街の一角にクローズアツプされた美を捉へ得るであらう。之は都市美といふには餘りに瞬間的である。

我國の都市の現狀として建築設計上調和の困難な他の一の素因は、堅牢な耐火建築塲と脆弱な木造建築との挾雜である。コンクリート造と木造とは、實質的に釣衡を取り難く、偉大なる天才の手に依るか、或は歲月の力を以て、之が解決を期待する外はない。一體、時代の經過は其特有のヴエールを以て、總ての稜角あるものを包み、醜を蔽ひ破調を緩和する力を持つて居る。古い建築物には榮辱を忘れ、世俗を超脫した古老に似た落着きを感ずるものである。然し乍ら木造とコンクリート造との質量の相違は救ひ難いものと考へられる。

建築塲は置物ではない。從つて、土地から生え出た樣に、當然あるべき處にふさはしく建てられた觀あるを理想とされる。パリあたりの公共建築を見る時、道路、歩道との關係など、誠に手際よく、附近に橋があれば、建物も橋と同時に建てられたかと思ふ程に、しつくりと調和されてゐる。餘りに建築物にのみ主力を注ぎ過ぎる時、却つて附近との調和を破り、前景と別物になつて仕舞ふ處れがある。私は我國の建築を見て此の感を深くするものである。山に裾野があるが如く、建築にも裾野を考へに入れるべきであらう。

都市の建築の調和を圖るには、どうしても旗振りがなくてはならない。美觀審査委員會が出來て、どの樣な機能の發揮をするか知らないが、建築個々の設計者は任意に選擇されるとしても、一地域を限つてすべての地上建設物を一建築家の指導精神に服す程の徹底した覺悟がなければ、調和した街衢は出來ないのではないかと思ふ。

抑　　揚

書道では濃淡肥瘦の法を用ひて、書體に活を入れ、音樂にも强弱があつて生氣が覺められてゐる。如何なる藝術にも抑揚(アクセント)を考へてないものはない。都市美にしても、抑揚があつて、初めて潑溂たる脈動を加ふることが出來るのである。

街路の通景にあつては、家並に抑揚を與へて單調を破り、賑やかな景觀を呈することゝもなるが、我國の都市として、特に必要と思はれるのは、都市の平面的中心の强化と、立體的な變化の導入であらう。

抑揚は地形、街路系統等に基いて中心が形成される。城趾とか、シビツクセンターを形成する公館群や、其他繁華な廣場、公園、河畔等が主核として取り上げられるが之を計畫的に構成し、或は自然の發達を助長することに依て都市美の精彩を發揮せしむべきである

而して立體的に寂しい都市は廢墟の如きものである。都市の遠望は高塔の遠望に依て引

立てられる。港灣都市の場合、又は高架路線の主交通路ある場合等は、都市のスカイラインは最も注意を惹かれる。都市の標識は高塔であり永い旅から歸る憧れの心を癒すも先づ高塔の眺めである。ヨーロツパの古都の空に見る寺院の高塔がいか許り風致を添へ、情緒を豊かにしてゐることであらう。

我々の近くにある美しい北京のまちも、その城門と牌樓を除いたら、都市の興趣の大半は失はれるに違ひない、其等は一個の建築物としてよりも、都市の抑揚として、素晴らしい効果的なものだと思ふ。都市にして、山岳の背景を持ち又は川や湖に惠まれてゐるものも亦抑揚の素因を持つものといふべきである。

教　　養

一家の體裁を整へ、之が體面を保つことは、其主人の心掛けにある様に、一都市の美は、其市民の教養に依て高められるものである。市民の都市生活的教養は建築家の教養の向上と共に必要なのである。嘗て獨逸、瑞西あたりを漫歩して、立並ぶ家々が、公館と云はず私人の家と云はず、窓といふ窓に悉く、赤い花を美しく植込んで居た風情を美しく眺めた。またアメリカの住宅地に、殊にカリフオルニア地方など、道路に面した前庭を、美しい花莽や植樹を以て飾り、夜は夜で居間や階段室のステインドグラスに灯を點じて、街路の美觀を添へてゐるのを見た。此の様なことは、恐らく我國で床の間に掛物をかけ、花を生けると同じ心得を以て、居住者の嗜みとして當然に行つて居るのだと思ふ。住宅の門前に不體裁な塵箱を置いたり商家の店頭に荷車を並べたりして、平氣で居ることは、都市生活の教養が足りない事に歸着するのである。

アメリカの住宅には、すべて塀を設けない習慣を誠に美しく思ひ、且つ文化の進んだ方法として敬服するが風俗習慣の差異や、氣候等の問題の爲め、我國で之を眞似るには困難がある。東京附近の或る住宅地では、塀の高さの制限を行つて居るとのことで、一進歩と云ふべきであるが、和洋とりどりの住宅の混淆した外觀も、見よいものではない、せめて街路に、庭園の綠樹の眺めを與へることは、潤ひのある風景だと思ふ。北京の町の様に、商館も住宅も一様に白壁の塀で圍ひ、申合せた様に丹塗の門を持つた外觀は、また面白く見られる。然し此の景觀も鬱蒼たる街路樹があつてのことである。これから支那の各地に我々日本人の手で、都市計畫が行はれやうとしてゐる。此の場合に教養に於て、他國にひけを取らぬものでありたいと考ふ次第である。

工　場　其　他

以上都市美を主題として述ぶる所、極めて慣習に囚はれた平凡な觀點に依るものであるが、近代の産業都市に於て、特に工業地域に對する美的考察は放棄することは出來ないと思ふ。工場地帶を美から遠く離れたものとするは誤つた觀測で、此の方面に向つても、計畫された恒久的にして、健實な諸施設を行ふことが、市民生活の爲め大いに必要であることを指摘し、現今の時局として特に此の方面の注意を喚起したいのである。例へば、岸壁

橋梁、歩道を持つ道路、塀、街路照明等、一時的な間に合せに放任することなく、都市美に理解ある指導を切に望むものである。

工事中の建築物は、繪畵のデツサンと同じく、中々生きのあるもので、決して美觀を害するものとは考へられない。往々工事中の建築の美しさを嘆賞し、その完成したるを見て失望する例は少くないのである。然し乍ら、工事の中途で頓挫し、放擲された儘になつて居る建物程醜いものも亦尠い。是等は美觀上からも取締を設ける必要がある。通常起り得る工事場としての不體裁は、板圍ひ等の不手際や材料の不用意な散亂にあると思はれる。

最後に、都市美が人の官能の快感を對象とすると考へるならば、單に建築其他の風物のみに止まらず、音響にも言及せねばならない。それといふのは、アメリカ都市の騒音には恐れをなしたからである。自動車や、高架電車の響きが、堅い壁を持つた高層建築に反響して、物凄い音となり、窓も之が爲め二重硝子の設備をして居るものが多い。斯様に喧かましく乾燥しきつたアメリカの都市を歷訪して後、ロサンゼルス市中のホテルに宿り、珍らしくも鳥の聲に朝寢の夢を破られた喜びは、例へやうもなかつたのである。ホテルの前は小公園で、鳥の聲は旭を受けた綠の稍から洩れて來たのである。

都市建築にベルタワーを設けたものが、我國にも二三出來て居る、之が現代都市の感覺に與へる効果を思ひ回らす時に、往時の靜かな町々に鳴り亘る寺院の鐘を懷しむ心が湧くのを覺える。聞けば此頃では此の様な鐘を打ち鳴らすことは、取締に依て許されぬ傾向にある相である。さうとすれば鐘の名殘も一層に惜しまれてならない。（15,4,8）

★筆者は株式會社高藤・取締役社長

十大放射路線　や梅田驛前地下廣場が登場

都市計畫大阪地方委員會では18日14件の議案を取りあげて附議するが、大阪に關するもの八件高槻に關するもの一件、爾餘は堺市のものである。そのうち大阪市のものを說明すれば

△知事執行10大放射路線事業年度繼續　本事業は昭和元年より14年度までの繼續として延長37,478米を事業費26,573,015圓を計上、市内の道路網整備と呼應して都心部より郊外への連絡を圖るべく大正15年6月内閣の認可をうけた處であつて現在は9路線の完成を告げ出來高%は98%餘となつてゐるが、時局の影響により既定年度内の執行不可能なるが故に昭和16年度まで延長するわけである

△第1次都市計畫事業年度延長　大正10年より19ケ年繼續とし施行中に屬するが、本事業は、大正9年1月都市計畫法の施行に即應せる處であつて同年12月都計大阪地方委員會の審議を經19年3月内閣の認可をうけ街路新設と擴築25路線、延長約35キロ、既設街路鋪裝約25萬坪、路幅整理約67,000坪などを主とし事業費140,200,000萬圓を計上したが、關東大震災にかんがみて大正13年11月29日付で内閣の認可をえて第1回の更正を行ひ街路新設と擴築42路線、

（第33頁へ續く）

都市の綜合的調和と諧律的美の創造

藤　井　眞　透

希臘イクチノスの建築の美、アクロポリスのキヤピタル、羅馬のドームの美、人類は數千年間の創意と研究と精練とにより偉大なる建設物文化を創造した、英國の大學の橋梁工學の講義内容に記念塔と彫像學[1]を包含してゐるのを思ふて橋梁の美觀がロンドンに、巴里にまた伯林に輝くのを首肯かれる。パリのシヤンゼリゼー、コンコード、エトアル、伯林のリンデン、各地のプラツツ、特にヂユツセルドルフのケーニヒスアレー、吾々は街路美に眩惑されると云はれる。然し其の都市美、建設美、敢へて單獨の建築美とは云はない。眞の都市の美、人類の創造する審美はそんなものでいゝか、僕はもつともつと高い都市美を要求する。

1 綜合的調和の眞美

都市は立體的である、二元的でない、立體的で更に時と力との五元のものである。高雅な掛軸を床の間に飾つたとする、眞の高雅さを表現せしむるには、床の間の置物、生花、床柱が之に調和し、更に室の全構成要素が調和し、對談する雅客の容姿、茶器、出入の給仕の容姿、態度の動き、進んで庭の景をも入れての調和を要する。場所錯誤的の配置は却つて悪である、茲に綜合的調和の表現が第一義と信ずる。

茲に建設技術家としての眞の將來があり向上があらう。土地と風色とは人間生活の基礎であり、同體の關係がある。都市を建設し、文化精神を培養せんとする爲には須く都市の形態の建設にはその土地の風色に調和し自然形態に適應せしめ、より高き文化精神を育成する様に建築物を設計し、四隣に調和せしめる様創造する職務がある。單に一個の建築、一個の橋梁、一連の街路、その路上工作物の靜的形態に止むべきでない、文化はより高き創造を要求する。茲に國民精神の偉大が表徴され、生活意志が表現され建設文化の殿堂を具現する。

都市建設の偉大なる目標に向つて進むべき時代である。

2 都市の眞美の個々の問題

綜合的調和を保つ眞美の形態を考へてみる。

（1）一個のビルヂングはその様式は街路のブロツク、四隣に調和せしめる、列んでる個々の建物が異つても全體として調和せしめる、街路の高度地域制あつて建物の等しい高さあつても米國式の安つぽい感じがする。眞の美は複雜の調和性にある。便宜から經濟から保安防空からの高度地域制の要求も必要だ。之を包容する大雅量ある都市の複雜性の調和、眞の建築美が四角なビルヂングよりもドームありサイドある複雜性に見る如く、都市

(1) monument and statue

の眞美も複雑性の調和にある。調和は諧律的でなくてはならぬ。

（2）街路の美、靜的の街路美よりも、動的の美、自動車、電車、歩行者を包含する動的の街路美を思ふ。交通の流れの諧律的なる、自動車、バス、自轉車の交通流が各自の流線をたどり、街路の交點でスムーズな廻轉する流れ、更に歩道上での歩行も各人の進路を流線的に進んで亂れず、途中で逢つての立話は歩道中央から避けて路側で談る様な交通の流れ、之等は靜的の歩道施設と動的の交通流との對應で表現し得られる。

（3）路上施設の不調和、地下鐵入口の不作法、もつと輕快なものがなと思へる。ポスト、殿様が厚い坐ブトンに坐してる様な格恰、交通流はその廣き台だけ妨害される國際道路會議の決論でも「川の流れを妨ぐる橋脚はなるべく小さくする様に、道路上に設くるものは可及的交通の流れを妨げない様な小さいものとする」實効的であり且調和的で而も之らを諧律的變化あらしむべきである。

（4）橋梁　川の流れ、長さ、船の可航性をも考へるが周圍との調和がより大切であり自然の環境に包容されて偉大さを表す様式、橋の美はそのサイドビユーにある、サイドが見られぬ場合に何の橋梁の美ぞ、アーチは横から見て始めて美だ、上を通つては只の橋だ橋のたもとの廣場は不可分的の施設である。

（5）街路の並木、街路樹の美は新緑の美、深緑の美、紅葉の美、枯葉の美、枯木の美季節の變化を包含し四季を通しての美に諧律的の變化がある様なものが望ましい、更に落葉の美、銀杏の黃葉の落葉は一種の繪畵だ。並木があるのか、ないのか頭に殘らない様な並木の街路もある。あるなら、その美が印象的なものであつて始めて美がある。個々の並木よりもパークウエイ式の徹底した街路と植樹帶、之を全都市に網狀にめぐらしたい。

（6）赤い山門の前を電車が通る、兩側の高い木が森をなして被つてる中を電車、バスが走る姿も決して風致の破壞ではない、調和すると一幅の繪である。

（7）九段靖國神社の大鳥居を神田の通から見るとその半分しか見えない、倚形的形象半分は建物に隱されて見えない、僕は神田通から仰いで頭の下がる様な大鳥居、全面を仰ぎ見得る社頭の前景を望む、明治神宮の大鳥居が青山電車通の方から見て、その全形を斜ではあるが綠に包まれてる表象を奥床しく思へる、倚形は美ではない。

3 綜合的の調和せる諧律的變化の具現

都市の美は街路の美が第一だ、交通の流れが靜的街路に對應して動的美をなして調和して諧律的變化を與へる、街路の美は建物の美が第一だ。建物それは商店の商品も包含して之が諧律的に變化する所に眞の美が生れる。長い街路がその建物の形態の連續の仕方が各調和的且諧律的に變化ある所に美がある。商店街の美、事務所區域の美、住宅街の美、之らはその街路の連續の仕方をもつともつと考へてリズムのある都市を造りたい。

都市は複雜、千變萬化である、複雜なるものほど美しい。之を調和せしめ諧律的ならしむる所に綜合的の眞美が生れる。都市の建設學、建築學と交通技術學、橋梁技術學等に課せられ、義務とすべき大なる責任、榮えある天職である。　★筆者は工學博士・內務省土木試驗所長

都市美雜感

新名種夫

☆

過ぐる日、橿原神宮に詣でて皇紀2600年を壽ぎて新しく造營せられた社殿を拜し、總檜造の眞新しく、未だ木の香も去りやらざるを眼のあたりに伏し拜みて、我建國の昔を忍び御稜威の愈々深く、國運の日に新なるに感激した次第であつた。

神域は未だ工事中ではあるが、やがて完成の曉には一入その神々しさを增すべく、更に幾年かの後、今植えつけた若木の古木に成長した頃を思へば、畝傍の山の線と照り映えて參詣するものは神域に入れば既に神々しさに襟を正すに至るであらうと想像せられる。

社殿の建物は申すも畏し、外苑の橿原道場の諸建造物は、移築の建國會館を除き、何れも大和地方の古い鄕土の樣式により、大和民族の心の鄕里をここに見出すことが出來るのであるが、扨、一度神域を出て、省線、大軌、大鐵の共通停車場に通ずる參道に至れば、我々の夢は卒然として現實に引戻され、兩側に立竝んだ賣店の雜然たるに、千古の感懷が一瞬に崩れるのを感ずるのである。

共通停車場や、大軌、大鐵等の經營する建物の外觀は、大體大和の民家風に設計せられてゐるが、一般の賣店はひどいぶつ叩き工事で、餘りにも雜然としてゐる爲に、それ等の大和民家風の屋根すら、却つてその雜然さを增す材料となつて、神域で受けた感銘を亂すこと實に夥しい。

伊勢の大廟に詣でても、桃山の御陵に參詣しても、畏多い限りであるが、常に感じられることは、その神域のこの上もなく神々しきに比べて、神域までの參道の兩側の餘りにも雜然たることである。唯明治神宮の參道が、各方面何れもこうした不愉快から救はれてゐるのは、これが東京の都市計畫事業と聯關して計畫された結果であらう。

我々は神域で受けた感銘を、その儘心靜かに我家まで持つて歸り度りと思ふ。少くとも餘りにも早く、雜然たる賣店の雰圍氣に亂され度くはない。

神都の計畫がもつと大規模に、停車場まで取り入れてなされむことを願つてやまない。神殿に額づいて得られる心の糧の外に、何の物質的なお土產が必要であらう。

美觀地區或は風致地區といへば、不必要な場合にすら千篇一律に、建物の色彩にまで干涉する當局ではないか。少くとも我々の信仰の參道から、あの雜然たる賣店を統一整理して欲しいものだ。

☆

都市美の問題は、都市計畫的に取扱はれない限り、根本的に解決出來ないこと、上述の實例でも明であるが、今日までの都市計畫は、稍もすれば、平面的に主として道路計畫に

終始し、立體的に建築その他の地上工作物にまで考慮が拂はれなかつた爲、都市計畫路線上に於てすら美觀上感心の出來ない多くの目障りが發見せられる。

この傾向が帝都東京に於て最も目立つのは一體何ういふわけであらう。ロータリーの前面にいやに白いコンクリートの圍ひを設け、それに反照硝子のほかにあくどく太い横線まで入れてゐるのが上京の度に目に附くが、目的は疾走する自動車にも一目に認識させるにあるとは言へ、餘りにも心なのわざではないか。

電車の停留所の標識燈にしても、各都市とも、少くとも大阪市の程度に簡易化しそして統一して欲しいものだ。

ゴー・ストップの信號燈が亦出鱈目な所に無統制にくつ附けられてゐて、唯さへ亂雜な交叉點の架空部分に一段と光彩を放つてゐる。道路の横斷場所を限定する爲の鐵柵や自動車駐場の標識等も同樣、永久的な而も人目を惹く施設には、間に合せではなく、もつと計畫的な統制のある考慮が拂はれ度いものだ。

それから、街を歩いてゐて氣になるものに、不用な街路照明器具の硝子は壞れ金物は錆びて、元來裝飾的な目的をも加味して造られたものが、今は却つて都市の美觀を損ふ道具となつてゐるものがある。

大建築物の外壁に取附けられた照明器具にこうした例が非常に多い。毎日通るので特に目に附くのであるが、阪急百貨店の建物に附けられた外燈の殆んど大部分がこれだ。電車の中から見てゐると、十三大橋のランターンにも大分この例がある樣である。ランターンの蓋の硝子が破れ、その上開いた儘になつてゐる間から、火の灯らない電球が覗いてゐるもの程、だらしがなくて見る目も不愉快なものはない。金物不足の折柄、こうした目障りは須く取拂つて元の金屬塊に還元した方が、國策に順應すると同時に都市の美觀にも役立つといふものだ。

又最近目立つて來たことは、時局な施設の餘りにも近視眼的な間に合せ主義である。時局遂行の前には、美觀なんか構つてゐられるかい、といふのが腹であるらしい。

併し、時局の永久性は政府の聲明する所であり、從つて、時局的對策として行はれるものは、當然少くとも半永久的な考慮が拂はれてゐなければ嘘だ。

にも關らず、全てが行き當り場當りで、間に合せであるのは何うした事だ。例へば、鐵材回收の目的で府營道路兩側の雨水流入口の鑄鐵製簀蓋を外して行つたが、それをやるには先づそれに代るべき半永久的な代品を考案製札しておいて、それと簀蓋とを置き換へるべきが當然である。

所が、實際は、隨分永い間簀蓋のない儘の穴を民家の掃溜の代用にした後、置いて行つたものは北海松か何かの板の四角い切つ端に過ぎなかつた。その爲に降雨の度に雨水は下水への流入口を失つて道路に溢れ、少しの大雨でも、所によつてはその板蓋が流れて路面排水の流入口は暗夜の陷穴と化するといふ有樣であつた。

最近は板幅を狭めて雨水の流入する間隙を作つた様であるが、厚さ、大きのまちまちな荒板の美醜は兎も角、こうした瑣細な事柄から、政府自身が時局に對して永久的な確固たる對策が持つてゐるや否やといふ、一抹の不安を國民に植えつける恐れがある。

大阪驛にしろ、大阪中央郵便局にしろ、此際小つぱけな言譯的な立場を捨てて、一擧に完成した方が何れだけか我々に取つて心強く、又明朗な感じを齎すか知れない。且結局に於て經濟的でもあろう。

その他實例はいくらでも擧げられが、要するに、都市美の問題は都市民の精神活動力の問題と聯關し、又その健康と密接な關係を持つ。時局の壓力と生活の不安とに神經を疲らしてゐる都市民にとつて、都市美の問題は渇した者の口を潤す一滴の水の問題である。決して飽食者への珍味の要求でもなければ、有閑退屈者流の欲する高踏的趣味の追求でもない。

『美』といふ文字から來る、一種趣味的遊戯的な聯想の故に、時局下特に都市美の問題を疎んする様なことがありとすれば、これは以ての外と言はねばならぬ。

工場の事故を減少し、製品を優良化し、全工場をよき統制の下に置く爲には、何よりも工場内の整頓と清掃とが第一要件であるといふ。

時局下なるが故に、而もそれが半永久的のものなるが故にこそ、都市美の問題は一層その重要性が加へらたと考ふべきである。(2600. 4. 5)　　★筆者は大阪市教育部建設課長

ベルリン動物園の新しい戰捷記念柱



都市美の全體性

宮脇泰一

Ⅰ. 美への意識

人が美についての意識を持つ、そしてこれを各々の形態の上に表現しやうと欲する。この事は人間が美と云ふものに對する根本の把握なのであつて、恐らくこの性質を人間の意識の内から、又認識の内から抹殺することは出來得ないことであろう。

即ち美の意識は人間の究極の把握であつて、この意識によつて藝術への限りない思慕が生れ、又この意識の表現が藝術への完成へと進められて行くのである。だからして此の美を表現せんとする思慕は單に藝術と云ふ一個性を持つた範圍に限られないで、人間の創造性、即ち人間生存に對する適合條件の具現化に、この美を意識するとしないにかゝはらず表現し表現せんとして居ることは事實である。

又それと同時に、人の創造的でないもの、又すでに完成されたものについても美を見出し統合しやうとする意識を持つことも否定し得ない。唯これがその創造の過程中全然美と云ふ意識を沒却して進められたとしても、やがてそれは何れの時にか勃然として考へ直されて來る。即ち再認識となつて檢討される樣になるのである。だから美は如何なる條件の下におかれて居る事物であつても、又現實に具現されて居ないとに拘らず、人間の意識の中に、存在としての價値を持つものに對しては、人の美に對する要求と思慕は永遠に消滅する時はないのである。

消滅しない所か、美意識は常に成長し、より高度の美の探究に表現に、永久止む所を知らないのである。恐らく人間の創生と共に、そしてその進化と共に現在迄發展し將來への永劫性を持つものであらうが、この美の永遠性は過去から現在へ、現在から將來へと又限りなく持續されて行くであらう。この事は云ひ變へれば美の持つ歷史性と稱されるものであるが、兎も角も美への人の意識は永遠なるものであり又その表現は成長して止む所を知らないものなのである。

唯それが美の持つ歷史性の性質上、必然的にその時代を反映し、その時代意識に影響されて居ることの特異性を持つのみで、美そのものゝ永遠性は變りないものである。かう云つた美の本質から、眼を吾々の現實に向けて見るとする。

現代の都市と云ふ恐らくこれは未曾有と云ふ言葉のピツタリ當てはまるに最も適當した存在であらうが、この現代の都市が、特に大都市が、歐洲ルネツサンス以後から引續いて捲き起された產業革命に拍車を加へて、遂に現在の構成に迄發展して來たことは、今更云ふ迄もない。そしてその數量的に地域的に特別な大規模を持つものを大都市と云ふ名で表して居るのであるが、この廣大な量域と複雜な機能を持つ大都市について、前述した美の

問題こそ、現在の數多くの問題を控へて居る都市の又一つの大きな課題なのであるうと思ふ。

II，都市美の構成

都市と云ふ人間の構成物と、勿論この構成は人間自體の生活環境でもあるが、この構成物に對して、人の探求して止まない所の美の意識が表現する所のものを都市美と云ふのである。そして都市美の問題は、それが如何に表現されて居るか、又如何に表現されるべきかと云ふ批判と企劃とが現在の根幹なのである。

美の表現が人間生活の基調として要求されて居る以上、前述のやうに構成としての都市に、そして生活環境としての都市に、美を求め、美を表現せんとする意志は否定することは出來ないのである。だからして此の理念によつて云へば、現在の都市美問題の規範は所謂必要にして缺くべからざる事柄であると云ふ事が出來やう。そして、それが爲に規範の對象となるものは、現在の都市に吾々の要求する美が如何に表現されるべきかと云ふ表現形式なのである。

石原憲治氏は大大阪誌上（九月號）都市の美の企劃について論ぜられ、特に自然景觀、歷史景觀について、その卓拔な論を述べられてゐるが事實都市はその規模構成の大小に拘らず必ず自然を保有してゐる。過去の都市の發展過程は、この自然界を相當無視した事は事實であるが、現代の都市は各種の意味で自然との接觸は切實に考へられ、具體化されて居る。それ丈に現在の都市に自然の景觀は無關係に放置されるべきものではない。

然し乍ら又一方都市は人間の造型物の集合でもある。進化が驚嘆すべき創造物を作り上げた一つの構成形態なのである。だからその構成の中に、文化と機能を極度に具現化してゐる形態の中での美、云ひ變へればその造型としての美は必ず表現されなければならない。

又都市は他の性質をも抱含してゐる。

これは都市のみでなく他のあらゆる事物にも適合した性質であるけれども、歷史性を持つと云ふことである。すべての事物が、それ自身の長い歷史的潛勢力の下に存在を持つてゐる樣に、都市は又都市自體としても、又その內部にも歷史を持ち、歷史物を持つものである。現在のやうに突然に工業都市の急激な生成を見た都市に於ても、その構成の部分には幾多の歷史を歷史的記念物を持つものである。

前述した事柄を今一度こゝに云へば、都市は歷史を背景とした自然と造型の集合でありそしてこれに人の生活を以て一つの社會性を保有してゐると云ひ得やう。であるからそうした一個の社會性に對して發揮される人の生活樣相こそ、又都市の一つの景觀を左右される重要な要素でもある。

以上の雜然とした論を單的にまとめて、その表現の形式に隨つて分類して見やう。

形態美觀＝造型美＋自然美

精神美觀＝歷史美＋人格美

III, 形態の美觀

先づ最初に形態の美觀について述べたい。

過去に論議された都市美問題は前項に分類した所の造型美についてのみに限定されて居たのではあるまいか。勿論造型美には主として人工による創造物即ち建築物とか、街路、其他の工作物を云ふのであるが、特に建築物についての美の問題、様式の問題の多く論議されるのは當然と云へやう。

建築と云ふものが多くの機能と種々の構造を持つものであるから、建築物個々の美なり様式なりは、人の創造意志の上から又完成後の上から見逃し得ない重大な問題なのである又その機能と構造法とが、たとひ或程度、經濟上、社會上、の制禦を受けるとしても、その建築設計者の熱烈な美の意識は、創造慾は必然的にその意匠の上に表現されて來るのは當然である。

そして完成の曉は終日、多數の人々の眼に最も公開的な都市社會の存在としてその價値を長く評價されなければならない。やがてこの永久性は都市建築の、否都市の歷史性への性格までも附與することになる。こゝに建築としての最も大きな重要さがある理由である

吾々の極く近い過去に構造派と表現派の正反對な、それは美の表現としても、構造の手法としても、又機能の上からも、他の造型と異つた性質を見るのも都市建築の如何に複雜な本性を持つかを知ることが出來るのである。だから都市の造型の美は特にそれは建築物と云ふ造型に期待され、現出されねばならない。そしてそれが爲にその個々の美と様式について絶えざる努力と論議が盡されなければならないのである。

だがこの造型と結合しなければならないものに自然がある。過去の都市美問題は、この事柄とあまりに分離した如く感ぜられたのも事實である。都市計劃と云ふものが古い時代の意識で、都市を美化すると云ふ思想で自然と結びつけて考へられた時代があり、又十九世紀末から廿世紀初頭の田園都市論に又自然との結合を新しく理論づけた等、過去にもかうした自然との關聯はそれぞれの形式で考へられて來たのである。

然しこの過程中には都市の造型の中に自然的様相を部分的に取り入れ又自然の中に都市を求めて所謂過大都市の解決方法を求めたのである。

こうした過去の方法も、方法としては間違ひのない、それぞれの特長と意志とを持つたものであらうが、然し現在の大都市と云ふ、あまりに急激にそして廣大な發展を遂げた都市の對自然と云ふ問題は、あまりに復雜である。又それ丈に充分に企劃されるべきものなのである。

自然美と云ふも、その中には山地、農地を又河川も抱含されてゐる。そしてそれぞれの個性と價値を持つてゐるが、都市の造型と云ふ一體的な言葉には自然と云ふ一律の言葉で表しても差支へないと思ふ。特にそれは美と云ふ一つの主體から考へる時に自然と云ふ一律の景觀を特に認識するのであるが、この正反對な、そして別個の特性を持つ造型と自然

の美の結合によつて形態としての美を完うするのである。

勿論、造型は造型としてその持つ美を生かしつゝ、自然は自然としての特性を發揮しつゝ、有機的にこの兩者の結合が期待されなければならない。個々に生されて、そして完全に有機的に結合されてゐることが、要求される形態の美なのである。

特に現在都市綠地の問題が都市政策の中に切實に計劃され、實現されてゐる。保健と云ふ、防空、防災と云ふその第一義的な存在論に、ともすれば忘れ勝な美觀の問題も、併行して考へて行かれるべきであらう。

やがては自然地域と云ふ、法律上の規定の上からも、又その事によつて永く環境としての地域を保つべき自然に美としての規範を求め、その造型との結合美は特に强調されなければならない。

IV, 精神の美觀

都市が歷史性を持つことは前に述べた通りである。特に我國の様に2600年の有史の永遠性を持つ國家に歷史的事蹟程數多く又有意義なものはあるまい。

歷史哲學の示す歷史の價値はよりよく日本に於て生されてゐる。日本國民の持つ歷史と歷史的事蹟とは、祖國とその永遠に於て國民に取つては決して過去のものでもなければ現在と無關係なものでもない。

吾々國民に取つては、それが少く共我國家に關する限り、過去が現在であり、現在は又永遠に將來なのである。歷史は吾々の現在であり、歷史的事物に對して吾々は現在の息吹を感ずるのである。遠い過去の歷史から現在迄を築いてゐるその血脈の傳統の上に立つ現在の人々に、過去の事蹟は、その文化の過程は限りなく貴いものであり、又懷しいものなのである。

都市はそれ自身の中に、農村にはそれ自體の中に、傳統と事蹟とを保持してゐる。吾々はその中で過去の祖先の歩んで來た道を、成し遂げて來た意志を知り、そして今日の吾々が受けてゐる國家とその文化の發展の過程を知ることが出來るのである。

外來の思想も文化も傳統と云ふ一貫した理念の內によく統合されて、その時代時代への新な發展を築いて行き、一として變る事の無い國體の中に實に馥郁と進歩を遂げてゐる。そしてこの基礎の上に立つ吾々國民はすべてに對して新しき意義と發展を示し、その遂行に絶えざる努力と限りない喜びを持つのである。

これが日本の文化の特性であり、それに依つて涵養された國民性なのである。

隨つて日本の文化の發展過程は日本國民に取つては一つの精神的象徵なのである。歷史的事蹟の中から教訓を受け、德性を養ひ、そして生活具現の上に體得して行くのである。神社と云ひ佛閣と云ひ、其他史蹟、遺物、記念物、すべて國民に取つての教養の源泉であり根源なのである。

であるから都市と云ふ廣大な內に存在するそうした歷史的事蹟は、都市人の又都市自體

について云へば都市格の最も大きな精神的な存在であらねばならない。

こうした存在の中に美を見出し、求め得られるのは以上の理由で明かであらうと思はれる。そしてこれら歴史的事蹟から發揚される美は當然その環境の中にある都市人によつて體得されなければいけない。又その美は再び都市人によつて發揮されることこそ、眞實に生されて來るのであるから、すべての都市人の智能行動も、この歴史性から體得した人格性でありたい。この人格性の發揮された美を人格美と名付けたのである。

都市人は農村の様に地緣的な關聯がうすく、その爲に個人的であり、利己的であると言はれてゐる。又今問題とされてゐる都市の保健問題を裏書してゐる都市人の體質低下を以て都市の不健康性を憂へられてゐる。これらが都市は公德公共の美に缺け、大都市否定への非難と議論を生じて來てゐるのである。

然し乍ら、現在の存在としての大都市は現今迄の發展にそれぞれの理由を持ち、又それ丈の使命と價値を有するものである以上、その存在性を否定する理由は見當らない。唯問題とするのは、そうした都市の最も適切な解決方法なのである。

こうした理由から人格美を都市美に對する一つの要素とすることも必要であらう。こゝに人格の美と云ふも一個人のみを對稱としての言葉でなくして、大都市と云ふ新しい一つの組織、社會の中で存在を持つ人格の事である。そしてこの個人として一都市社會人としての正當な認識と判斷を持つ人の人格の美なのである。

然し乍ら都市人の生活樣相、職能、行動は劃一ではあり得ない。それぞれの個性と特性を持つ。だから云ひ變へれば人格美は個性美と云へる。又都市社會と云ふ立場から見れば統一された美であらねばならない。これが市民美と云ふ統一美でもある。

この個人美から集合の統一美へ體系化された人格美は歴史美と結合して始めて、國民美とも云はれる精神の美への完全な發展となるのである。

美觀は唯單に形態のみでなく、それに伴ふに否むしろ主格的に精神の美は尊重されなければならない。そこに眞實の美觀の生氣と品位がある。國體と民族の誇りと自覺とが存するのである。

以上のまことに粗雜な概念を次項に單的に結論をつけて見やう。

V，全體としての都市美

以上で都市の美の各々を形式的に概念的に論じて來た。形態美と云ひ、精神美と云ひ單獨にそれぞれの生命を持つものであるがこれらのものは又一つの都市と云ふ社會性を地域的にも數量的にも占むるものである。であるから自然と造型と、歴史と人格とが各々その個性美を發揮しつゝ限りなく伸び結合して、一つの又完成的な領域へと進まなければいけない。この統一美を都市の美と云ふのである。都市は前述の様に廣大な地域と新時代の機構とを含み、あらゆる生活相を包含してゐるものである、だからと云つて都市は單なる集合體でもなければ何等の連絡性のないものでもない。社會としての一つの組織を持ち、文

化としての様式を持つものである以上、有機的、生態的であると云ひ得るのである。

そうした都市に美と云ふ表現に統合性を持たせるのは當然であらう。唯全國都市すべてのものゝ統合ではなくて一都市そのものゝ統合なのである。

都市がその持つ歴史的發展過程が都市そのものゝ性質を決定づける多分の原因となる。吾國の都市がその生成過程から分類され得る性質を持つのはこうした理由からである。

この都市の個性に、前述の都市の統合した美は充分に發揮され、一致されなければならない。これを都市の全體美と云ひたい。即ち都市の內に持つ個々の美が歸納的にこうした統合の美即ち全體へと生されて來るのであつて、この立場から自然の美も造型の美も批判されなければいけない。

そしてこの認識から都市美、それは美を主とした創造からのみでなく、少くとも大なり小なり美を表現し得べき計劃をもすべてを指すのであるが、この都市美も企劃されなければならない。

だが此の事は自然の造型の美を個性的に沒却することを云ふのではない。それ等の美は限りなくその個々の美を發揮しつゝ、給合され統合されて、全體としての美へ進まなければならない。言ひ更へれば全體の中で、部分としてよりよく生かされるのである。

だから都市のすべての美は常に全體を意識しそして全體によつて批判され企劃されなければならない。この秩序が都市美としての出發點であり、又歸着點なのでもある。

★筆者は神戸市・財務課勤務

（第22頁より）

延長90キロ8、路面鋪裝18萬坪、幅員整理67,000坪、橋梁改築82橋、建築敷地造成925,624平方（5路線の沿道）となり、之が大正14年より9ケ年の事業年度とし事業費は182,934,088圓となつた。しかるに、またまた土地區整事業や高速鐵道、路面電車などの交通關係も加はつて再び執行の變更となり昭和7年1月29日付で認可をうけた。すなはち街路擴築40路線（他に阪國1線あり）路面鋪裝約18萬坪、路幅整理約67,000坪、橋梁改築81橋とし事業費は165,924,000圓とした。かくて目下は98%餘の出來高となつてゐるが、これまた時局のため事業年度を1ケ年延長する。

△梅田驛前地下廣場および地下道工事　大阪驛前の都計整理事業は昭和3年5月の認可で同9年3月末日に變更の認可をうけ、周知のごとく換地處分問題で紛糾したうへ時局の影響でますます進捗を阻まれてゐた處、今度は防空對策として地下道と地下廣場の新設となり、既定の地下道の1部幅員擴張と第8號地下道廣場（地積2,725坪）の新設で事業年度を3ケ年延長する。現在の工事出來高は6割2分餘であつて今後は15年度に1割2分、16年度に1割3分4厘、17年度に1割2分3厘の施工をもつて完了の豫定である。

都市の美觀と風致に關する問題

白川泰

近年各國共都市問題の一つとして都市美なるものを喧しく論じつつあるが、我國にても都市美委員とか都市美協議會とか云つた類のものが出來此れに對する問題を取り上げそれが對策に腐心してゐるのであり、今初夏も京都市に於て第三回全國都市美協議會が開催される運びになつてゐるのであるが、概して我國今日の各都市共其の見るべきものをば殆ど有して居らぬと云つても許されるであらう。唯僅かばかり東京の宮城前大手町附近より日比谷をへて霞ケ關國會議事堂邊に至る附近とか、大阪の中之島難波橋から阪大醫學部附近にしかもその一部にそれらしきものが覗はれるに過ない現狀であり、京都の街だつて仔細に見れば決して美しいとは申され難い。

偖而、都市の美であるが、これには勿論都市全體の構成美とその個々の構成要素の一つづつについての美、更にそれらの美にも形の美とか大いさに於ける統制の美とか、色調の美とか全體又は周圍に對する調和の美とか云つたものがあり、更に進んでは其處に住み其處で動作をする人間の形の美、動作の美、衣服調度の色調の美、心の美等と云つた數々の美をも一應は考へに入れられなければならない。そしてそれらの美は個々のものについて必要であると同時にそれらが有機的に一體となつて構成する生命ある全體としてのものの調和のとれた美と云つたものも亦望ましいのである。

如何に顏だけが美しく化粧されどれほど輪廓が良くつたつて着物がそれに相應してゐないとか醜い足取りだとか云つたんではむしろ滑稽にしか感ぜられないのみかそれは明かに醜にすら類する場合がある。從つて、全體に調和がとれてゐて美しいと云つたことが美しいと感ぜしむる一大要件でなければならない。

—— × ——

此處に標題に掲ぐる如き「都市の美觀と風致に關する問題」と云つた課題に接したのであるが、これは都市美問題の一つなりと解するのである。併して、都市の美觀とは之れは主として都市に於ける人工的構築物の個々乃至は一團が構成する美を指すものであり都市の風致とは之れは主として都市に於ける自然的資材の一團が醸成する美を指すものである。從つて當然ここには都市に於ける人工美と自然美とに關する問題を取り扱ふこととなるのであるが、都市そのものが一つの有機體であることより一つの有機體の人工美と自然美とについて論ずると云ふことになるのである。ここに引き合ひに最も高級にして最も完全なる機能を發揮する有機體としての人體と云ふものの自然美と人工美と云つたものを考へこれに比較對稱しながらその基調をなす概念を都市に及ぼして考ふる時自ら都市美に關する諸問題も亦容易に理解解決に導かれるものである。

美人なる名稱は肌目が細かくて滑らかで色艶の美しくしかもその全體を構成する各部分の大いさ形並に位置に均衡がとれ調和があり、内容外觀共に健全にして圓滑なる發育をなせるものに與へられる言葉であり、同じ美人にしても時代の個性はそれに舊型新型の別名を與へ、近代感覺の統一は自然の内に行はれ、其の時代の新人は舊型の美人にその良さを發見しながらもやはり嶄新なる型の美人により多くの魅力を感ずるものである。更にこの美人を引き立たせる爲には化粧と云つた美化工作と衣服調度と云つたものの質と色彩と形の人工による調和の美と云つたものが要求されるのである。

都市の美にしても亦同じく、その内臓の健全の美と云つたものが基本となつて之れに反映するものであり、そこに肌目の良さを自然的に力強く發揮し、それに加へらるる人工美の適切を根本要件としてその構成要素の個々の統制ある美を基調として全體の構成美を形成するに至るのである。從つて都市における美觀風致の問題は都市それ自體の健全性の問題であり、決して面子のみの問題ではないのであり、それだけ重要視されなければならないものである。

又、同じ美人にしても京美人もあれば江戸美人もある如く、それらはそれぞれその衣服調度の好みをも異にし京美人には京都風のそれが適當であり江戸美人には江戸風のそれが調和が取れて美しい如くに、都市の美觀風致も亦東京と京都とでその個性を保持させなければならないのは勿論であるが、同じ京美人にしても昔の美人と近代美人とでその赴を異にするものであり兩者共捨て難き味を有するものである如く、都市の美觀風致にしても亦昔の味を保存させなければならぬ部分もあれば近代味をふんだんに發揮させなければならぬ部分もあらねばならぬ。ここに畢竟美觀風致の保存と創造の問題が吾人に課せられる譯である。

—— × ——

吾人は常に夢を描く、あんな美人が有ればとか、こんな美人にこんな着物を着せて見たならばとか、夢は誠に結構な存在である。夢は一種の理想であり、向上への理想である。夢のない人生には進歩がなく、發明もそれが實現されない間は全くの夢である。夢は今日の人生の向上には非常に大なる貢獻をなしてゐる。吾人の論ずる都市の美觀風致の問題も亦夢であつて決して差し支へはない。むしろ大いに夢を描いた方がそれが何時か曲りなりにも實現に近づかんとも限らない。都市の美觀風致と云つた問題は決して考へられるに餘計なものでも贅澤なものでも何でもない。都市に於ける今日の實生活が痛切に要求する社會性の一つででもある。從つて、國家權が今日此れに統制制限規定を作用させて都市計畫法同施行令、市街地建築物法、同施行令、同施行規則中美觀地區に關する規定、風致地區取締規則等と云つたものにより住商工業の地域制乃至は風致美觀地區の設定とか云つた消極的な手段を講じてそれが實効を揚げることに努力をしてゐるのである。

併し、此れだけで都市の美觀とか風致とか云つた問題が解決され、美觀風致と云つたも

のが醸成されるとは考へられないのである。これが完全なる遂行は官廳なり公共團體なりが一段と積極的に一定地區を限り順次、その筋の關係各方面の最高專門委員會の確立とその高度の權限とに基づき計畫、意匠、工事の代行、制限、統制を實現し、今日の一歩一段が將來出來上るものの一歩一段を構成して行くことが要求されなければならぬ積極的な方策であらねばならない。

—— × ——

都市に於ける美觀の問題

此れは論ずる範圍が非常に廣大であり主として人工美の範圍を取扱ふ問題である。都市はそれが文化都市なればなるほど人工により成立してゐる部分が大である、その內に從として否むしろ極めて僅かの程度に於てのみ自然を抱括してゐるに過ぎない現狀であり、從つて都市に於ける人工美については無限に多數の問題が提供されてゐるのである。

都市なる有機體を構成する各組織は個々の健全なる細胞がその基本をなすものであり、各個々に見てそれ自體健全美を有する構築物が健全なる屋敷を形成し、それらが一つの統制下に集合して健全なる街廓とそれを取りまく道路を構成し、更にそれらが或る統制下に配列して商業、工業、住居の地域となり、大さと配置と意匠と色調との統制下に調和を得て都市の全體的の人工美と云つたものが結果されるのであり、道路のみが如何に美しく舖裝されてゐたとてその兩側に建ち並ぶ構築物がその全ての點に於て統制と調和に缺くる所があればその通りは決して美しくも感ぜられなければその街並も決して美しいものではない。その個々の構築物が一つ一つに於て如何に立派であり美的に卓越したものであらうとも、その集合よりなる街全體又は通り全體より見てその全體に統制を缺く場合そこに表現される美的効果と云つたものは大いに殺減されるものであつて、通り又は街全體としての美はむしろ全體としての統制の美でなければならない。そして高所より俯瞰した場合の美と云つたものも亦規則正しき道路に沿ふ規則正しき街廓の規則正しき配置乃至は獨立家屋と共同家屋とを問はずそこに流れる一貫した統制と云つたものにより醸成される所の美である。

併し官公衙、停車場、病院、學校其他公共建築物と云つたものは之れらの軌範を脫したもので、むしろ統制を破つた所にその目標と變化の美とを生ずるものであり都市美觀に貢獻する所となるのであるが、併し周圍又は環境に對する調和と云つたものはこれを常に念頭に置いてなされなければならないことは勿論である。

—— × ——

先づその都市を訪問して第一印象を與へるものは（A）停車場とその附近の美觀でなければならない。停車場の構築物とその停車場前の廣場とこれに面して建ち並ぶ建築物とが與ふる印象はその都市を代表するものと解される。

それにその中央停車場に入る迄都市の中を通過するその兩側の與ふる印象と云つたもの

（A）停車場のみならず埠頭・航空港等についても亦同じく考へらる。

も亦その都市に對する豫備印象を與へるものとして重要なものである。從つて郊外地より都市に入りその中央停車場に至る迄の間と云つたものはその兩側の美觀と云つたものが大いに重要視されなければならない。よく家の裏側の便所の背面の連續を眺め乍ら都市内を鐵道が走り軌道が通するのを見受けるのであるが、これ等はその兩側を道路にとり、道路に面しては美觀を添へるに足るだけの家屋の連ねられてゐることが必要であり、假令ひ高架の場合であるにしても亦然りで、この場合には鐵道沿ひの家々の二階はおろか一階の内部迄も眺められ人々の面白からぬ或は快適ならざる行爲の見られるなど都市の面子にも關する問題であらねばならぬ。東京驛に入る手前の有樂町あたりの高架より眺められる美觀は多分の魅力を發散するものであり、東京に親しみを感ぜしめるものである。

—— × ——

次に、その都市の街路の美觀であるが、その兩側の構築物に如何に統制的な美が表現されて居様とも商業地域に於てその商賣を標示する看板の形とその俗惡なる色調とはともすれば美觀を破壞するものであり、これが形、色調の强度の統制も亦望ましきものである。

特に兩側の家屋に面する歩道上の公衆電話、巡査派出所、電柱、塵芥箱、郵便ポスト、信號室、信號柱、警報柱、塵籠それに架空線等雜多の構造物の無統制も早晩排されなければならぬものであり、特に各種架空線の與ふる不快の感は美觀を破壞する以上に持たざるものの寂しき何等かを常に感ぜしめるものの一つである。

—— × ——

次に河岸地の美觀であるが、橋上より兩岸を眺めたる場合、又、舟の中又は一方の岸より對岸を眺めたる場合の美觀と云つたものも可成り重要視されなければならないものであり、河川沿ひの家々の背面の與ふる醜惡なる景觀と平面的に立體的に無統制なるものの與ふる感じは決して快いものではない。從つて河岸地に面しては可及的に道路を配すべきで大阪市の中之島の住友本社前の土佐堀川沿ひの大川町遊歩道の與ふる美觀たるや都市民に大いなる魅力を感ぜしむるものである。然らざる場合河川に面する兩側の家屋に平面的に立體的に强度の統制をなす場合も亦美觀的効果を發揮するものであり、廣島市の元安川に面する兩側岸の天神町附近に家屋の表現する美觀たるや又推賞に値するものである。

—— × ——

其他街路に面する特種構築物であるガソリン・スタンドの俗惡なる色調、公衆便所、公衆電話室、巡査派出所等の面白からぬ形態並に意匠、休閑地の板圍代りに築造されたる大看板の不體裁等都市美觀上一應考慮されたるものにして未だ未だその實効の揚つて居らざるの感だしきものを見受けるのである。

これら都市美觀の諸問題解決について當然要求されなければならないものは今一段と上級な指導と作るものの一層强き自覺とそれらに課するに更に徹底したる法規と警察權の發動とであり、これらの名コンビを以て解決されなければならぬものであり、都市の保健衛

生、休養、慰樂の問題とも關聯を有する重要問題である。

それには之等に對する都市美觀保存建設專門委員會の設立とそれが權限の强力と積極的なる活躍とが要求されて當然のことでなければならない。

—— × ——

都市に於ける風致の問題

此れも論ずる範圍は非常に大きく、都市に於ける自然的な美に關する問題は全てこの分野に屬するのである。從つて風致造成の要素をなすものは竹木土石等の自然的材料にして此等が一定の規範の下に適當に配置されることにより自然美を造成し、人工的な美に一段の美と潤を與へ、情操の涵養と社會の保健、衛生、休養、慰樂、敎化に必要不可缺のものとして餘りにも人工的な都市に於て重要視されなければならぬ重大問題の一つである。

都市の風致維持に關しては都市計畫法、同施行令、市街地建築物法、同施行令、風致地區取締規則中に規制されてゐるのであるが、それは消極的なものであり、その對象となるものは都市周圍部又は內部の風致的に惠まれたる丘陵樹林地及び都市內部の社寺境內地、公園庭園、官公樹林地、水邊地等で之等のものが適當に配置されその取扱の宜敷きを得れば、その都市全體として之れを眺めた場合は勿論、個々の家々も街も非常に潤多き快適なる親しみ易き存在となるのであるが、都市の地價の昂騰は此の問題に對して常に逆作用を呈し乾燥したる沙漠の都市と化せしめんとするのみならず人口の密住過群の傾向と商工業の無統制なる發展とその施設の不完全とは植物其の他の自然的資材の立地條件に絕へず不利なる條件を附加する方向をたどり、遂には都市全體をして下町の連續たらしめ、都市そのものの美觀乃至は文化的地位をも低下せしめ、場合によつてはむしろ地價の下降現象をすら呈せしむるに至ることがある。

東京市の省線山の手線の五反田驛邊りより目黑方面一帶を見渡した場合のあの綠に豐かにして櫻の花の霞とたなびく所謂山の手風景と云つた眺めはその內に工場も商店街も抱括し乍ら潤ひ多き全體として住むに快適なる感を多分に與へ、親み易き土地、親み多き都市としての美望の的と發展するのである。

—— × ——

風致の問題中特に都市の廣場に住居地の道路に要求されなければならぬものはそれに面する建築物の敷地に一定奥行きの前庭綠を設定し、官公廳の監督下に統制的指導下に統制ある綠地を造成し、管理し、潤多き風致の涵養に一役を演ずると共に防空、避難の見地よりする兩側の防火敷、非常時建築物の崩壞敷たらしめ道路及び廣場の有効幅員並に面積の擴大ともなり、一石二鳥の効果を有する必要なる重要施設であらねばならぬ。

—— × ——

綠化綠化と喧傳されるが、樹林地を造成するための諸般の計畫も樹立せずしては綠化も不可能事であり、公園の造成、前庭綠の設定、休閑地の公開綠地化、環狀綠地帶の完成、

社寺境内地の樹林化、不良住居地の改善整理による緑地の造成、商業地域の共同建築化による街廓内部の緑地の建設、各種廣場の造成、工場緑化の完成整備等極端に云へば都市諸機能に一段の利便と向上を與へ乍ら一層と多數の人口を抱擁し得て都市の立體化は愈々緑地を增加し、都市全體の公園化が都市風致造成の究極の目的であり、理想であり、かく導くことにより都市の諸問題も亦自然解決され、快適なる都市生活を滿喫し得乍らも都市の有機的な機能は完全に能率的に發揮されることとなるのである。要は科學と技術の各分野が都市をしてこの究極の目的に達せしめるべく努力をなすべきで各自の上に重大問題が課せられてゐるのであり、これが解決は急を要しつつあるのである。

—— × ——

其他都市の風致に關聯して一考を要する問題は都市郊外地の鐵道軌道に沿ふ醜惡なる看板と、都市郊外に通ずる道路の所々に點在するガソリン・スタンドの誤つて心されたる俗惡さとである。

以上都市風致に關する此等の諸問題解決のためには現行法規の消極的に積極的風致涵養規定の制定と共に「都市風致保存涵養專門委員會」の强力なる權限の確立とそれが委員會の活潑なる躍動とを希求して止まないのである。

—— × ——

若し今にして此れらの諸問題を消極的に取扱はんか、その都市の將來には衰微あるのみであり、科學と技術の率直なる報告に基づいて英斷的に建設される都市、社會、國家こそその生命を永遠に持續して繁榮の途をたどり行くものであり、此處にも亦爲政者のより强き覺醒と科學者と技術者のより日覺ましき活躍とお互の固き握手とが要求されて來るのである。

☆筆者は大阪市・土木部公園課勤務

また一つ生れる人口十萬の都市

重工業地の播州路海岸線に「日鐵廣畑」に劣らぬ東京芝浦電機の關西大工場が出現することになつた、場所は兵庫縣揖保郡網干町濱田で、すでに21萬坪にわたる宏大な工場敷地を200萬圓で買收、274名の地主から賣渡承諾書を受取つたので23日芝浦本社から菊池總務主任が網干町を訪問、宮垣町長その他關係者と打合せた結果、24日兵庫縣廳で縣當局立會のもとに工場代表者と網干町當局間に契約調印を濟ませ登記手續が終ると直に工場建設のシヤベルを打ち下す豫定である。

同工場の敷地は揖保川の河口に沿つた水量豊富な平坦地であり陸地につづいてさらに海面約40萬坪を埋立て全工場を60萬坪にして5ケ年間に事業を完成、從業員5萬人を使用する模範的大工場とするほか海面埋立岸壁には1萬トン級の船舶を横着けにし山陽本線網干驛から專用鐵道をもつて連絡する計畫を立てゝゐる

これで網干町を中心とする揖保郡南部一帶はここ數年を出でずして人口10萬の都市を現出するわけである。



公園と云へば

棚橋　諒

公園と云へば少し淡くなつた記憶から呼び起される記憶――、それは櫻が散つてあやめの花にまだ早いと云ふ様な春の季節であつたと思ふ。ある用事の歸り途私は高松を通りかゝつて若干の時間の餘裕があつたので栗林公園を見物した。道筋はあまり美しくなかつた様に憶へて居るが公園は本當に美しかつた。晩春の一月を公園に過す市民たちの群れ若いお母さんは幼兒に乳をやり、おばあさんは上の子供と芝生の上でお辨當を食べて居ると云ふ様な世の中で一ばん平凡でしかも一ばん平和な光景に公園はみちみちて居た。――ここは一口で云へば私達の持つて居る公園と云ふ概念から寧ろかけはなれたものであつた。公園と云へば、あまり親しみのない西洋草花で幾何模様の作られた中に殆ど何の奏樂をされて居ることも見受けられない音樂堂があり、或は見知らぬ又は著名な人の銅像が雨露にさらされ、市民ではない旅行者が見物して通つて行く。ベンチは本質的には停車場の待合の椅子の様に索漠とした目的に利用されるか、多少ロマンテイツクに利用されるとしてもそれは人に見すてられた公園に於てであらう。少くともかう云ふ概念の中にあてはめられる様な公園とは――全く異つた雰圍氣の裡にあつた。廣濶な池に面して和風の好もしい古い建物があつた。そしてそこからもつと裏へ廻つて行く、丘阜によつて公園は限られ丘阜の下は細長い堀の様な池になつて水草の花が咲いて居る。その景色のバラエテイー、親しみの草深い木のたゝづまひ。自づから心樂しい一時であつた。が又それにもまして私が心を打たれたのは、多くの市民達が心から庭園と季節の樂しさを味はつて居る姿であつた。この美しい印象はその後長い間私の頭に殘り妙な云ひ方であるがしばしば私の物思ひの種になつたのであつた。公園、公園、公園、公の庭園、私有でない庭園、市民が共通に所有する美しい庭園美しい庭を持つて居る人は羨しく、しかも自分の家に庭らしいものすら持ち得ぬものは私ばかりではない。青苔と枝ぶりの良い松、漣に影を亂される橋、瀰漫と花咲く櫻の大樹や、菖蒲の池、或ひは牡丹の園、こうした一人では持ち切れず又一人で樂しむべく餘りにも惜しい庭が市民全體で所有される。これこそ公園である。花壇や音樂堂や銅像やベンチによつて作られて居た公園の概念から私は解放され私の物思ひはとけたのであつたがその瞬間からもつと大きい憂愁が私の心に擴がり始めた。明治以後の我國が歩んで來た途で必然的に犯さねばならなかつたまちがひの一つ、乃ち西洋文化の過度でそして皮相的な移入がこんな一面にも惜しみなく表れ、そして我國の文化が混淆し變質して行く様。動物園はいゝ競技場はいゝ、しかしこれと公園とは別種のものである。動物園で夜間を見せ様と云ふ様な愚な企てが行はれるので酔客がラクダの寢室にもぐり込んで蹴殺されたりするのであるが、――かう云ふ物まねと出たらめがいつまで續けられるのか。

しかし今では私も憂鬱ではない。それは近時造園の事にたづさはる二三の友人を得てこの人達の心の中にある考へが極めて高くしかも溫いものであることを知つたからである。京都の動物園のことでは惡口をかいたけれど、私が毎日電車にのつ

て通る都ホテルのあたり、疏水の堤にはこれから美しい櫻が咲き人に見すてられて居るのが不思議なほどである。櫻もおほかた葉になる頃少し病身で高貴なお嬢さんを思はせる鬱金櫻が咲く。あのあたりには數本しかないので私はすつかりそのありかを記憶し、その花の咲く頃は毎日葉櫻の間に清雅な姿を見出してはひそかに安心した様な喜びを感するのである。櫻が散つてしまふと淨水地の堤のつゝぢが永い花の季節を誇る様になる。あめ賣りの露店も出で春深みぬ。市の役人の方の心づかひでこの一角は本當にいゝ處になつて居るのをいつも感謝して居るが、かう云ふところがこれからは日本の都にも町にも段々ふえて行くにちがひない。

續・微苦笑

津田　鑿

列車が東京驛へ着くたびに、或ひは數多くの郊外電車が終點驛へ着くごとに、擴聲機からは大きな聲で『お忘れもののないように』とどなりつけて來る。市内電車が、バスが、その他のあらゆる交通機關が、乘客の降りるすべての停留場でしつこく『お忘れもののないように』氣をつかつてゐる。我々は雜多な騷音のうちに煩はしく聞きながすのであるが交通機關の當事者にしてみれば、これでなかなかどうして大した面倒なサービスなのであつて、その社會奉仕的精神と勞苦とを思へばうつかり聞き流してはもつたいない次第である。我々はこんなにも行きとどいたサービスの中に生活して居りながら、なにかにつけて、つひサービスが足らんなどと不平がましい心を持つのである。（とかく容易に與へられるものは氣にいらずなかなか得難いものが欲しくてたまらん）そういつた人間の弱點のこれは好適例であらう。何かと不平の多い連中はこの『お忘れもの……』の一語一語をしつかり耳底に受け、一度一度感謝して歩くがよい。いかに世間が諸君をあたたかくもてなそうとしてゐるかに氣附き、又大きな秩序が諸君を柔かく抱いてゐるかを知るであらう、諸君の前は明るくなり、この世の中が諸君のために出來てゐるとさへ思ふであらう。そこで諸君は大きな失敗をくりかへしても、不治の病を得ても、いかなる不幸不運に迎へられても、元氣を落さなくなり世を憾み、人を蔑すむようなことはしなくなる。話が横道にそれて、お說教じみて恐縮だが私が云はんとするところは、

我々はこうして親切な注言を聞き捨てにして、あちこちに忘れものを殘してあるいてゐるようだ。切角の注言もあまり度々ではつひ耳がたこになつて、聞き捨てるようなことになつてしまふ。そこで私の『微苦笑』も度重つては、讀者の方で飽きがきて、又かとばかり讀み捨てにされるであらう。それを恐れるのである。心して讀めばこの微苦笑なかなか爲になることが書いてあるのだ。讀み終へて、何だつまらん等と思ふような人達は總じて思慮が淺く、觀察もとぼかす、語るに足らない人達である。それ、空氣から肥料をとる世の中である。微苦笑から爲になる肥料を汲みとられるも、とられないも、專ら讀者の態度如何にあり。願はくばこの砂礫の如き文章から爲になることばや役に立つ知識を探り、且つは微苦笑の持味をも味はひたまへ。

と、いささか前口上が長くなりすぎたが、微苦笑は協會からことはられない限り、何回でも續いて讀者を惱ます豫定であるから、この機會に少し念のいつた手前味噌を進上しておく。

とはいふものの、うぬぼれ天狗の手前味噌程不愉快なものはない。前口上の罪滅しに、一つ私の愉快な失敗談をくりひろげて、滿面つくつてゐるであらう諸君の顏面神經をゆるめてかからう。

A

今年は恩師武田五一先生の三回忌を迎へた。話は30餘年の昔に遡るのであるが、當時私は東宮御所の御造營にたづさはつてゐたのであつたが、その參觀に先生が上京され、それが機緣で私はH氏の紹介で、當時先生御關係の京都府立圖書館の設計に從事することになつた。私はそのためはるばる上洛、京都へ列着すると直ちに先生を訪問、御同道願つて、始めて京都府廳に出勤するの途上、忘れもせぬ丁度御所横通りにさしかかつた時、先生は私に『君、繪が描けるか？』と問ひかけられた。『建築家は繪畵の心得があるのとないのとで設計の際非常に影響する』と教へられ、又『なに大抵の畵家位の事はなんでもないよ。今後大いにやり給へ』と激勵された。その溫情溢れる御諭しは强く私の胸を打ち、終生忘れがたい。當時關西では、先生は建築界の第一人者で御山の大將株であり、丁度辰野博士設計監督の日本銀行、第一銀行が進行中の頃であつた。すゐぶん古い話である。よく叱られながら、それでも漸く設計を完了、御暇を載いて歸京した。その後も度々私の丸の内の事務所に御立寄下さつたりして、先生とは御會ひする機會も多かつたのであるが、亡くなられる前には、脊痲博士の告別式に上京され、式の翌日、先生と伊藤文四郎氏と私と三人でまる一日を語り明かしたのが最後となつた。種々積る御話から、御無沙汰のお詫びも申し上げ、面白い話の數々を取り交はした。社會が建築家に對する尊敬の念が足りないことなども盛んに話し合うた。又、私の記念帖奇談をも申し上げたのが今思ひ出の種になることは今の私にとつて淋しいなぐさめである。さてその記念帖奇談を詳述しなければこれまで書いて來たことがなんにもならない。

昭和6年私がヨーロツパからアメリカを經ての歸國の途上、乘船の郵船龍田丸の機關長A氏が、子息を建築家にしたいと思ふがどんなものであらう？と、私の職業を承知の上で相談された。私は自分の知る範圍の御話をし、それでやめておけばよかつたのであるが、遂、武田先生が私に與へられた言葉を濫用に及んだ。そして命を縮める思をした。即ち、『御令息は繪が描けますか、建築家には是非とも繪心が必要で、それのあるのとないのでは一生に非常な損得がありますなあに大抵の畵家位のことは建築家は誰でもやれますよ』と意氣傲然、後で考へて一寸氣恥しい位吹きすぎた。然し吹きすぎただけで別に命は縮まらなかつたのであるが、船は次第に横濱に近づいて、建築家が大抵の畵家位の腕を持つてゐる話など、とつくの昔に忘れてゐた、ある日、御別れの御茶の會にA機長の室に招かれ、雜談のはてに、1册の立派な記念帖持ち出され、私に何か描けとの注文、特に繪を描いてくれとのA氏の好意あるもとめである。生れて1枚の繪さへ描いたことのない私は、これには肝を抜かれた。高鳴る心臟をおししづめて、その記念帖を開いてみると、畵家はもとより政界、實業界の御歷々が、繪に、歌に、俳句に、詩に、思ひのままに物慣れた筆を殘してゐる。今更、私は繪は描けませんと云へず、身體中に冷汗が滲み出て目先がくらくらした。右手があるのがうらめしく、急に自分があはれな存在に思はれたが、やがて觀念の眼を閉ぢると氣を落ちつけて、除々に、ベニスで撮影したゴンドラの寫眞を貼りつけて、それに妻が即席の短歌1首をかきつけてひそかに汗を拭ふた。さて、それから日月を經てある日洋行中の武田先生から1枚の繪はがき便りを賜つた。文面に曰く『前略貴台の跡を追ひ歌米旅行に出かけた歸途龍田丸にてA機關長所持の記念帖に御揃ひの傑作を拜見した。何れ拜眉の上……』とある。いやはやこれには驚いた。冷汗のかき直しである。この記念帖奇談の打開け話には武田先生も呵呵大笑され、さも愉快そうであつた。その笑聲が未だに私の耳の底に殘つてゐて消えない。先生はそれから2月足らずで忽然として逝かれた。

B

數ある天然の建築材料のうちでも、大理石は最も豪華で贅澤なものとされてゐる。ストーブの前飾、腰羽目、化粧柱等……と所を得て使用されてゐる場合にはその眞價を發揮するけれども、一度び用ひ方を誤ると、猫に小判のたとへの通り全く無駄なものとなる。大きな立派な公共建築物などが出來たりすると、裏口などの、どう考へても必要のなさそうなところに大理石が麗々しく敷きつめられ、皮肉にも泥靴が亂舞し、大きな重そうな荷物が荒々しく放置されてゐるといつた風景をよくみかけるのはその一例である。又、ホテル、交通機關の建物、料理店などの携帶品一時預り所のカウンター前にこの大理石を敷くなどはよくある例であるが、これなど一考を要する。こういふところには極めて軟質の材料を敷くべきである。數多くの物品の受渡しの中には時として取り落すことがある。大理石はそんなときその僅かのそそうを悲劇化する。私もここで寫眞機を1個壓めてしまつた情けない記憶を持つてゐる。又、大理石に限つた事ではないが、石質の硬い軟いをよく研究して用ゐねばならぬ。新築當時は色とりどりに美しく、或ひは市松模樣などに敷きつめられた大理石の床が3年5年の後にはすりへらされて不陸目違ひを生じたり、通行の頻繁なところだけ藥研にすりへらされたり、特に金屬目地だけ小高く殘つて靴の踵から腦天まで非音樂的な感覺を傳へるなど不愉快極りない。

ローマのピーター寺院はあの廣大な床面積を本場のイタリー産大理石で敷きつめて、まことに豪華ではあるが、お上りさんの出入りに摺りへらされて全體に波のようにうねりが出來て、床面波狀仕上げといつた形、それを定雇の石屋さんが手押車に七ツ道具と材料を入れて敷替に餘念がない。その光景を見物客は、どんなにか費用のかかることだらうなどと、嘯きながら、ぞろぞろと床面を摺つて行く。

C

大分前の話であるが、熱海に、さる御大家の別莊が出來て、施主夫人は花崗石刳り抜きの浴槽を注文された。何しろ金にいとめをつけず、手間賃の嵩ばることを承知の上でのたつての注文であるから、仕方がない、商賣大事と石屋さんも引きうけた。毎日々々鑿と槌とを振つて精を出したが、はたのみる目も氣の毒な程遲々として捗らない。いつになつたら浴槽は出來上るか、夫人の耳にも石屋の耳にも、石を斫る鑿の音のみがひびいて、うつとうしい日が續いた。と、そこへ1人の利巧な人物が現はれてこの暴計畫を忽ちやめさせてしまつた。その人の曰くには、エジプトのピラミットのなかに安置されてゐる王樣の石棺はすべて花崗石の刳り抜きである。ところがこの花崗石の刳り抜き仕事が容易でないため王子誕生と同時に、その王子のための石棺の製作にとりかかる、そうすると、その王子が王樣になつてやがて死ぬ頃に丁度その石棺が出來上る段取りになる。生れるとすぐその死仕度をするのも不思議な話ながら、花崗石の刳り抜きはそれ程困難であり、且つは浴槽とは云へ石棺に似て緣起もよくない、とかういふのである。なかなかうまく說明したものである。素人の色々な注文を正しく導くことは建建家の大きな責務であつてこの位の奇智を以つて、人を說くことは必要なことである。

D

雜音、騷音、靜かな部屋を好むものには、これが最も迷惑である。我々は働いて、歩いて1日の疲れを得る如く考へてゐるけれども、實はこの不快音に基づく聽覺の困亂による疲れは非常なものであつて、本當の仕事のための疲れよりはるかに大きい。工場に於ける作業による疲れより、機械の運轉に伴ふ騷音のための疲れの方が大きいといふ統計もあつたように思ふ。我々は騷しいのに慣れて、世の中はこんなものと諦めてゐる。事務所をもつてもここは便利な位置だからやかましい、宿をとつても、ここは都心に近いから騷々しいの

はやむを得ぬと思つてゐる。それが文化の低い狀態であるから、文化を高めて、便利な位置にも靜かな事務所、靜かな宿を得ようなどとは考へない。そして、田舍から都會に出て一夜を都心の宿に明かした客は田舍へ歸つて一夜を蛙の聲で耳を洗はなければあの車輪のきしむ音を耳底から消し去ることは出來ないそうである。日本の文化の程度はこの騷音を意に介しない程度であり、日本の神經は文化の低さを證明するに充分な太さである。ニューヨークのあの有名な商人宿ベツシルバニア、ホテル、それは最も繁華な都心にある、その附近の雜踏はとても銀座四辻の比ではないが、窓を閉じると、外部の騷音はピタリと聞こへなくなつて室内は淋しい程の靜けさになり、窓外には無聲映畫のような動きばかりが眺められるばかりである。それ程建合せの完全氣密なスチールサツシュが用ひてあるのである。日本の文化とアメリカの文化とは、まだこれだけの開きがある。東京ではあの驛近くの丸の内ホテルに眠ると朝陽光の射入と共に、賑やかな省線電車がレールの繼目をたたく音に、我々の神經はまづ耳から起される。我々の建築文化も、先づサツシュの改良あたりから一歩を進めねばならないであらう。

E

ベルリン郊外の舊獨帝の離宮『ポスダム』は公開されて一般旅人を迎へてゐる。その1棟の中に寶石を美しくちりばめた豪華な室がある。それは少々毒々しさを感づる程の粧飾ではあるがカイザーはその全盛時代をここで一體何を夢みたか、をしのぶに足る。ここで面白いのは、見物人の使用に供する靴のカバーである。それは驚くべき超大型であつて、我々東洋人はもとより、大足の西洋人すら思はず苦笑する程で、長靴の上にゴム靴をはき更に樂々とこのカバーがかけられるのだからその大さ——馬鹿でかさ、おして知ることが出來る。見物客は男女共に顏見合せて微苦笑しながらぞろぞろと、刻明な說明をする案内人のあとに從つて、そのカバーで床を掃くように歩いて行つた。

F

パリ郊外のホンテンブロー宮殿、ここはナポレオン退位のベランダーがあるので名高い。室内の撮影は禁ぜられてあるらしいのを案内者の横をむひてゐる隙に、これ幸ひとシヤツターをきつたらその微かな音にびつくりしてぶつくさととがめがましい目のききようをしをつたが、ことばの解らぬ程强いことはない。そうしらぬ顏でごまかしたものの一寸苦しかつた。各室共に華麗な粧飾に滿ち、數限りなく連る室から室へと英雄が榮華の夢をたどりながら見物人は歩いて行つた。ここの町はさすがにのどかで、いかにも離宮でもあらうと思はれるよう氣品のあるのが嬉しかつた。時はあたかも4月中旬、黄色いミモサの花盛りを小枝がたにハイキング歸りの青年男女が嬉々として戲れ行くさまは、ほほえましくもうらやましい景色であつた。

G

ネロの宮殿。ローマの古都は現在の地盤よりずつと低いところにあつたらしいことは一般に周知のことであるが、ネロの宮殿も現在の道路より數十尺下で濠の中のようなところにある。ここへ落ちこんだのであらう1疋の猫が崖を登ることが出來ず、通行人の投げてやる喰べ物に、月日を送つてゐる間に、いつか相棒が跳込んだかして、次第に子孫が增へ、我々が訪れたとき既に數十疋のネコが棲して居つた同行のK氏曰く、ここはネコの宮殿ですとは洒落氣があつて面白い。

防空喫茶と防空圖書館

山口　正

題して『防空喫茶』とか『防空圖書館』などとは羊の頭を揭げて人を喰ふの感がないでもないが

話の筋は實はこうである。

東京で働いてゐる筆者の友人AとBとが、京都で働いてゐる筆者に連名で挑戦的態度のある便りを寄越した、に話は始まる。最初はAの筆で、

『こんど東京では**防空喫茶**といふのと**防空圖書館**といふのとが出來た。自分はその**防空喫茶**の方の話をしよう。

これは簡單にいへば、東京の目抜の處所に相當の廣さを持ち、性能も完全な**防空壕**を造り、平素はそこを喫茶店として使用し、一朝空襲を受けた場合には、忽ちにして防空壕に早替りさせるのである。而して、この防空壕を設置せんとする附近の喫茶店は今後何ケ月かの後には營業を停止され防空壕を構築して、そこに喫茶店を營まんとするものに限り喫茶店營業は許可され、しかもその取締は比較的寛大であるから、自然繁榮することになり、企業者はその防空壕構築に相當の費用を要するけれども、素早く資金の回收が出來るから、希望者續出し、防空喫茶店は雨後の筍の如く出來つつある。防空壕は無論地下に構築され數メートルの土被りがあり、上部に植栽を施すから、上空よりはその位置の判定は困難であり、たとへ流れ彈の直撃を受けることがあつても、その部厚な被覆土壌を以つて防空壕の天井を完全に護り得る。出入口、窓などの開孔部はすべて氣密裝置により密閉され、如何なる毒ガスをも防ぐに足り平素の用途からいつても、給水排水は勿論完全であるから頗る衛生的である。なかには、換氣筒を地上十數メートル迄あげて、その尖端に廻轉鏡を設け、壕内から地上四周の狀況や敵機の飛行狀況を偵察するように工夫してゐるのもあり、それらは平素喫茶店としても客に市街を觀望せしめたりして、知らず知らずの間に、市民に防空觀念を植えつけてゐる。附近の人々も常に喫茶店には足繁く通ふから、夜間空襲を受けたような場合、なんの混雜もなく避難することが出來る。こういふ防空壕を喫茶店營業者に構建せしめることは、色々困難を伴ふので、その目的を達成せしめるため、技術的に、又經濟的に援助する目的を以つて防空喫茶助成組合といふのが出來、組合員の依頼に基き盛に防空壕を構築し、完成と共に依頼者に引渡し依頼者はどんどん營業を開始してゐる。かくして**市民は平素喫茶店を樂しく、又有効に利用することにより、市内に多數の防空壕を獲得することが出來**、それも濕つぽいあなぐらでなくて、明るい室内の色彩を持つ明朗な喫茶店であるから、常に馴染がよくて、その取扱ひにも慣れ、全く完全なる防空壕としての性能を發揮することが出來る。どうだ！驚いたか、京都にはそんなものはあるまい。お前がたわけた市民倉庫などを考へてゐる間に、東京ではこうして、すぐれた防空施設が完成しつつあるんだぞ。どうだ負けたか、くやしければ一度見學に來るがよい。いや、その前に次のBの話を讀んでくれ。

Aの筆蹟はここで終つて、Bの癖のあるペンが技術屋らしいたどたどしい文章を綴つてゐる。讀者と共にBの話を聞こう。

Aが**防空喫茶店**の話をしたようだから、俺は**防空圖書館**の方の説明をしよう。何も急ぐことはないから、この**防空圖書館**の發生する前のもの、即ち**防空圖書館**の前身に就いて少し語らう。

すつと前に、なにかにつけて器用な思ひ付をする才人があつた。その人が20年も前に、今君も知つてゐるような小映畫館の計畫を思ひついた。その人は自分の計畫に自信はあつたが、それを實行に移す程の實力もなく勇氣もなかつた。ところがこの頃になつて、大都市は云ふに及ばず地方の小都市にさへ小映畫館が出來て、上演物から、料金から、上映時間に到るまで、すべてが自分が前に計畫した思ひつきと寸分違はず、しかも何れもが相當の成績をあげてゐるのをみて、その人は俄然自分の思ひつきに強大にして絶對的なる自信を持つた。自分の思ひつきには絶對間違ひなし、如何なる無理なる資金を調達して實施しても自分の企

書ならば必ず成功する。とそう自信が出來てしまつたのである。自信もそこまで行くと、實行力をさへ伴つて、遂に、その人は、彼の二番目の思ひつきである『街頭圖書館』といふのを實施營業を始め、計畫、圖に當つて、大成功を收めたのである。街頭圖書館といふのは、讀んで字の如く、街角、京都ならば四條の河原町、大阪ならば北濱交叉點或ひは日本橋交叉點、神戸ならば三宮驛前とかそういつた繁華な場所に三四階建の圖書館を建てるのである。大阪の街には到るところに大きなビヤホールがあるだらう、あれを圖書館に改造して、あれと同じような配置におけばそれでよいのである。圖書館といつても、別に珍しい圖書を集めたり何萬冊もの藏書をほてる式のものではない。ただ愉快に、一寸とびこんで、きのきいた新刊や流行の單行本や、雜誌、グラフ、新聞類を手輕に讀めるようにする。部會人が餘つた時間を愉快に有益に費すための、本當の大衆圖書館である。我々の都市の持つ圖書館は大抵交通の不便なところにあつて、入場料がむやみにやすい代りに靴をぬいで冷飯ぞうりをはかねばならず、そこいらは受驗生や中女學生で一杯で、だれもが水鼻を啜りながら妙にいじけてゐる、あの不愉快な圖書館風景とは似ても似つかぬ程明朗快活な圖書館である。すべて美しい女性が圖書の出し入れをなし先づ最初に空席をみつけて着席すると（それは一人用の前に衝立のある立派なデスクである）女給仕がコーヒーを1杯捧げて持つて來て、どんなものをごらんになりますか、これは新刊のメニューではない。リストでございます。はあ、建築圖書ですか、それはこの12號リストに出て居ります、はあ、では今先生の〝日本の民家〟と雜誌は〝建築と社會〟の〝災害と建築特輯號〟でございますか、承はりました。といつた調子です一つとあつちへ行く。3分もたつたかたゝぬかに、注文の本と雜誌を持つて來る。机上にはペンやインクや書き抜きのための用箋まで供へ、こゝで原稿を書こうといふ客のためには原稿用紙まで供へてある。眼の惡い人のためには美しい婦人が讀んでくれる。歸りたくなれば指をあげて係りの女給仕を呼べばよい。〝はいありがとうございます、本が1册雜誌が1册、コーヒー共で25錢いただきます、まいどありがとうございます〟ガリガリガチヤーンとレジスターがなつて、萬事がこの調子で極めて愉快である。今この便りもAと街頭圖書館に來てその大きなデスクで書いてゐるのだぞ。圖書館の不愉快なのは日本ばかりでない、3度も洋行されたことのある津田鑿氏の話によると〝外國の圖書館もなかなか日本に劣らず感じが惡いそうだ。外國の圖書館の書籍の出納をやる人などはまるで風のひからびたような顏付きで客に本を叩きつけるように渡す奴がゐるそうだ。そこを狙つてこの思ひつき氏の街頭圖書館が見事に成功したのでこんどは**この圖書館を立派な防彈構造にして、平素は圖書館とし、非常時には屋上高射機關銃を設け、街の防空監視や防空事務を司る場所とする**。とまあざつとこういふ案なのである。詳しくはとてもこの手紙で盡せないから、ともかく1度見學に來たらどうだ。參考になるぜ。

Bの手紙はここで終つてゐる。Aの說く、防空喫茶店、Bの話す防空圖書館、筆者はしばらく首をかしげた。東京にはもうそんなものが出來てゐかのた。**防空施設の如きものを、如何にして、防空だけのためでなく、普遍化した用途に共通せしめ、その費用の捻出方法を現在の世情に無理なからしめるかは、當面の大問題**であつて、幾多の技術的な小問題に先んじて解決されなければならぬところである。その點この**防空喫茶**といひ、**防空圖書館**といひ、まことに名案と云はねばならぬ。よし、ひとつ見て來てやれ、誰も知らぬ間に、そつと見て來て、物識り顏に吹聽するのも愉快なことだと、誰にも話さず、抜けがけの功名を策してある夜密かに東京へ向け出發した、その時の筆者の根膽こそ、今にして思へば、あさましき限りで

あつた。

その夜滿員列車は、筆者の如き防空の使徒をもつひでに東京へ運び、あくるあさ、疲れと寢不足に顏をむくませた筆者は東京驛でAとBとに迎へられた。

然し、AとBとが、『とつぜん何しに來たのか』といつた時は、筆者は思はず目をしばだたいた。何しに來たとは何事ぞ！防空喫茶と防空圖書館とを見に來た筆者に向つて、しかもそれを見學に來いと書いてよこした友人の口からこんな思ひがけぬことばを聞こうとは！そういふと〻AもBも大笑ひに笑ひ出した。そうか、あれをまに受けたのか〻お前もあまくなつたなあ！ほんとか嘘か考へて見たら判るだらう。とつくづく人の顏を眺める小面憎さ。いまさら怒つても仕方がない、はるばる出て來たのがこつちの弱味。だまつて突立つてゐると、いや正直な人間をだまして、すまなかつた、その代り今日1日東京を案內するから、かんべんせい。といふのである。當りまへだ、丁重に御案內申し上げて、うんと御馳走でもしろ。といつた具合で怒つてゐるからこつちが强い、AとBとを先に立てて、東京を視察した。その日は、AとBとが關西人は甘いといつて筆者を笑ひ、筆者は關東に住むとそんなに人間が惡くなるものかとAとBとを蔑すみ、過した。然し、東京そのものに就いては何も語らなかつた。筆者にふくむところがあるからである。うつぷんばらしに東京の建築の惡口を書こう。といふ趣向があるからである。となると〻いよいよ羊頭の看板を取外して、本物の狗問題を揭げねばならぬであらう。次の題は『東京を嗤ふ』としよう。が既に紙もインキも盡きた一旦ここできりとする。（15.3.18）

建築教育論

中筋麻芳

ひばり

正月匆々、まだ麥が芽をふきかけたばかりの島道を歩いてゐると、大空から、ひばりの朗かな囀りが降つて來た。小川には薄氷がはり、道は白く霜が下りてゐるけれども〻それらは地を蔽ひ、水面を覆つて、その中の雜草の芽や〻小魚の類を、大氣のつめたさから守つてゐるかの如くである。大空の青さも、既に冬のそれではなく、ふりそそぐような陽光が背をあたためて〻正月の月であることを忘れさせた。地の底には〻春の足どりが、近づき、熱氣は地表に散つて、若い男や女の足裏から、髓にまでつきあげて來て、その逆しき柱を動かし清き泉に波を打たせる。その日の午後、私は、ある俳席に連つて、春の來たことを告げ、ひばりの囀りをも傳へたのであつた。そのとき1人の客が、いぶかしげに、『まだ、ひばりはゐないでしよう。第一巢を造る麥も伸びてゐないではありませんか』といつた。一座のものも、成程といつた顏つきで私の答を待ちうけた。なる程、私達は小學校で、ひばりは賢い鳥であるから、空から直ぐに巢へ降りず、一旦附近に降りて、それから靜かに巢に入る、だからひばりの巢はなかなか見付からない、といふ風に教はつた。その知識が、この若い俳人をして、かかる不審を抱かせたのである。私は、かかる物の一面しかみない教育、通り一遍の教育をなさけないものに思つた。ひばりは一體何月頃卵からかへつてそして、麥ののびない頃はどんな風に巢を營むものか、又、麥の刈られたあとはどうするのであらうか、又越年はどんなにして、と考へてみれば我々の知らないことばかりである。小學校でのひばりに依る教育は一切の科學智識を取除いた、修身だけのための訓話であつたと見える。多くの科學的事象の中から、修身的なヒントを摑むことは教へておいて欲しい、しかし、教育者が摑んだヒントだけを話してそのよつて來る科學智識を授けなかつたことは殘念である。そして俳人達が、またかかる淺い觀察の上に

立つて、末梢的な俳偕技巧をひねくつてゐることを甚だ心淋しく思つた。といつて、私はこの話をもつて、義務教育に不滿の意を述べるだけのものではない。私は行を替へて、今日、我が國の教育が如何に普遍し、如何に國民の信頼を受けてゐるかを語らうと思ふ。

これも、ひばりに縁のある話で、晩春の1日、伸びきつた麥畠の間を縫つて、我々古社見學の一行が、さる古寺にたどりついた時のことであるが、そこには麥畠を切り開いた中に竹矢來が組まれて、なかでは盛に木を切刻む音が聞こへ、はつぴを着た職人諸君の出入が激しかつた。何か小さな1棟が建增されるらしいそんな仕事場の風景であつた。やがて古寺の堂宇を廻つてゐる我々の耳に、話聲がさかんに聞こへ、同時に仕事の音はピタリと止んだ、そこに働いてゐた大工の某君に召集令狀が下つたのであつた。そしてその令狀は、旅先のこの村の彼の假住居にとどき、妻君がこの仕事場まで持つて來たのであつた。それがそんな次第で、出發までに時間がない。うんもすんも云つてゐる暇もあらばこそ、彼が細君から赤飯を受取つて、自轉車にとびのつた時、なかまが掻き集めた祝の金が彼のどんぶりに投げ込まれるといつたあわただしさであつた。然し、彼はペダルを踏もうとして、振りかへり、さつきから妻君に手をつながれて立つてゐた彼の子供にむかつて、こういつた。『ええか、先生のいふ事ようきけよ！』萬歳の聲が、田野を震してひびきわたつた時、彼の自轉車は砂埃を殘して一散に驛に向つた。見送る人々の目には、燒けつくような陽光を浴びて眞白に光つた埃道と見渡すかぎりの麥畠と、靑い大きな空とが殘つた。『ええか、先生のいふ事ようきけよ！』この1語が私の耳にはつきり殘つた。まだ學齡にも達せず、先生の何たるかをもわきまへぬ程の小さい子供に、彼が殘したこの1語から彼が義務教育に對する信頼の深さを知ることが出來る。これによつても教育に對する信頼と、かくまで普遍した教育制度の偉大さを思はねばなるまい。私如きものさへ感慨無量である。若し兒童の教育に一身を捧げてゐられる方が直接この1語を聞かれたら、感泣して、職責の大なるを思はれ、又教育の仕事の貴さを感ぜられたであらう。

私は前の話で、教育の一面的なること、通り一遍なることを缺點として指摘し、あとの話で、教育の貴さを實證したつもりであるが、こういふことは何れも義務教育に就いてでばかりではなく、特に建築教育に就いても少しも異らぬことを强調しておきたい。

文　樂

關西在住の建築家には文樂のファンが多いから少しその方面の事を本論の例證に供したいと思ふ三宅周太郎氏の著『文樂の研究』は、そういふ話柄を拾ふに近來の好著である。この本を讀んでゐると、文樂の藝道の偉大さ、修業の一通りでないつらさに驚かざるを得ない。太夫が、三味線が、人形遣が、みなが/\並々ならぬ苦勞と修業を重ね、しかも報はれざるものこれより甚しきはないらしい。たゞこれらの藝術家が、それ程迄に辛酸をなめてもこの道から逃げられないのは、全く彼等が文樂に對する全愛的な熱情によるものである。世に藝道、修業道は多いけれども、おそらく文樂のそれ程嚴しいものはあるまい。この本にはそんな話がいくらも書いてある。一通り讀むと、これ迄文樂に對して持つてゐた考へが變つて來る。『じよろり聞いてきたろ』とか『文樂へ行くねん』と、いつた單なるファン氣分でこの藝術の殿堂へ入り、かくの如くにまで苦勞してゐる太夫三味線、人形に對したのでは相濟まぬ、よろしく我々も禮裝して座に入り、傾聽拜見の上、はねたら、客の代表は樂屋へ御禮を申上げに行く、それ位にしなければ、いけないような氣もちにさせられてしまふ。このことを或る席で熱を以つて話したところ、盛んに槍が入つた。甲槍の曰く、「何も文樂に限らん、お前の好きなインチキレビユー

でも、あれでなかなか、修業は嚴しいのだ、女の子が舞台で裸で藝けるだけのもんではないぞ！」と、なる程さもあらん。又、乙槍の曰く「藝道修業の嚴しいのは、なんでも同じことだ、きびしくないのはお前やつてゐる建築だけだ！」と、參つた、たしかにその通りである。甲槍、乙槍皆ごもつとも、然し相手になつてゐると、袴をつけ袴をはいて、レビユーを見んならんことになると困るから、ここで本筋に立ち歸へらう。そこで前記の書から二三の話を抜粋してお目にかけるとしよう。

（抜粋連載することは見合はしておく、本論の草稿には一應書いたのであるが、あまり長くなるので淸書に當り、削り取つた。それよりも、三宅氏の著書を直接見られたい。）

文樂の話は、これ位にしておこう。私は、ここで文樂のために提灯を持つ考へは少しもない。凡そ藝道といふものが、安易なものでないこと、かくの如しと語りたかつたのみである。そこで文樂の藝道修業が如何にきびしいかを了得せられたものとして、我々が住む建築藝道を考へて見よう。

享樂派・不平派・馬耳派

さて今日、我が國の建築家の主流をなす3派をここにあげてみると、即ち、上記の通りになる。

何事によらず要領よく、なるだけ骨を折らぬよう、しかし効果はあがるよう、頭を働かして利巧に立ちまわる。立身出世のこつを心得、遊泳の術に長け、萬事能率的である。實際的な仕事には熱意を持たない、通り一遍の職業意識で片附け、研究的でない。ただし、その仕事の結果に就いて求むる處は大きい。その反面に空想的な問題になると態度が變つて熱情的になる、頭や指先が映に働く。一旦空想的な仕事に取りかゝると生彩を帶びて來る。そして、繪畫、音樂、遊戯、香味感覺の樂しみなど、すべて大なる骨折をなさずに感覺を樂しますことを以つて、建築家としての素養の如くに考へ、かかゞところによき作品の源が存するかの如くに考へてゐる連中、これが享樂派である。

次に、大言壯語風があるか、或ひは反對に低音つぶやき型で、何かにつけて、不平を持つてゐる。ひとつの不平が解消すると、巧みに次ぎの不平を考へつく、恐るべき不平製造家、たとへ成功して建築大臣になつても恐らく不平は片附かぬであらう。上役、同僚、下役、或ひは同業者に、或ひは社會に、いやそれどころではない、この人達は、お天氣や風向きに對しても、又、運命のようなどうにもならないものに對してすらも、一通の不平を抱いてゐるのである、自分に對しては求めずに、他人に對してすべてを求める、これがこの不平派の標語なのである。

馬耳派といふのは、前二者が相當毛の生へた心臟を持つに對し、これはもう心臟のとまつたような人達である、ほめられても喜ばなければ、叱られても發奮するのでもない。馬耳東風の故語よりこのなまへが生れた。この人達は夢の如くに生きてゐて、將來といふことを考へない。ただせつなを次のせつなにつないでゐるだけのはかない建築家である。

我が國の建築家の多くは實にこの3派の何れかに緣がある。この3派の人々は自らをむちうつて修業するといふ風なことを考へたこともない。そして殘りの極く僅かの人達が、心をくだいて考へ命を縮めて研究し熱意を以つて技をみがいてゐる。明日の建築を考へる時本當にたのみになるのはこの少數の人々である。しかも、ここに聲を大にして問題にしておきたいのは、それらの人々の步むべき修業道が完成されてゐないことへの憾みである。

日本建築界の明日

建築界には定型化した藝道修業道がない。職人界には、ねんきを入れて修業するといふ結構な修業道が完成してゐて、大なる効果をあげてゐる。然るに一般建築界には之れがない。建築事務所で

何年設計に從事した、某博士の助手を務めて何年研究を重ねた、請負會社で何年工事の實際に携つた、なる程それらの一通りの修業はある。然しそれらをさきの文藥の例に比べれば、或ひは更に諸君が最もよく知つて居られる何か他の藝道の修業に比べれば殆ど問題にならぬのであらう。繪畫の彫刻の、音樂の、劇の、舞踊の、その他のあらゆる藝道の血肉をしぼる難行苦行に比べうる程の修業は今日の建築界のどこにもない。我が國の建築家達は、こうして修業道のない處にのびやかに若勞知らずに育つてゐるから、やることがのほらすで取りとめがない、作品がいやにこみいつたり、間が拔けたりして、精神力を內臟せぬのは、その背後に修業道が缺如せるが故である。今日、教育といへば、建築に於ては、中等學校の、專門學校の、大學の、建築科に於ける教育をしか期待することは出來ない。しかも、それらの教育が過去に於いて作りあげたところのもの現在の如き日本建築界である。私はそれらの教育に就いて、せんえつな批判を試みる柄ではない、然し、上記のように色々と考へて來ると、必然的に下の如く希望を申し述べねばならなくなつてくる。

第1。　學校に於ける教育は現在よりはるかに多くの實技の修業をきびしく實施されたい。

第2。　それが不可能ならば、せめて學校卒業者に、學校を卒業しただけでは建築修業道を未だ1歩も踏んでいないことを自覺させてもらひたい。

私は又、こんなことも考へる。一層日本に建築教育のための學校がなかつたら、昔のように、名人上手が現はれて、優れた日本現代の建築を作り得たかも知れない、などと考へる。日本の建築の學校は、實に智識を普遍化し、建築修業道を解消し、現代日本の建築を救ひがたい程の低位に導いた、と私は確信する。現代日本の藝術の中で、建築程低位にあるものはない、それは實に、これが日本現代の建築であると誇り得るものがない程である。何たる淋しいことか。

老匠1人あり、僅かに古法を五重塔に生かして氣を吐く。ただそれだけ、それがすべてである建築日本である。七言絕句でも作つてこの世を儚むより外に手はあるまい。

改めて明言する。**日本建築の進展向上は、教育の方法を改むるより外になし、教育の方法は如何に改むるか。他なし、嚴然たる修業道を定型化し建築家が精神をみがき、技をねるの便に供せんのみ。**（15.3.27.）

忠　靈　塔

古川　晃

今更忠靈塔の設計圖案に就き言々するのも何うかと思はれますが、未だ該當選圖案に依る計畫は實施されては居らず、其の施工に當つては改革の餘地あり且又忠靈塔なるものは今後相當長い間に數多く之が建立を見るものと考へられます故今新建築3月號の配布を受け感興を新たにする儘に之に關し些か感ずる處を述べるのも强ち無意義ではないと考へる次第であります。紀元二千六百年の特筆す可き事業の一つたる忠靈塔の設計當選圖案が發表された。我等應募者は勿論の事一般人にあつても定めし此の日を期待して居た事と思はれます。『何んな忠靈塔が一等になるか』之は誰しもが觀心して居つた處です。而して玉手箱は開かれた。瞬間アツと嘆聲を漏したのは豈筆者のみならん哉であります。尤も筆者の嘆聲は正直の處自分の案が落選せる爲に發せられた事は否めません。が次の瞬間には又別の意味の失望を感じた事も亦偽らざる處です。『之が一等か』即ち之れです。而も此の意味に於て失望を感じた人は相當あると思はれるのであります。

處が俗に『敗軍の將兵を語らず』とか、洵に敗將の言は兎角負け惜みと聞え易く之を敗者の僻み

と解釋され易いものです。が今はお互ひ斯かる小乘的感情は捨て大乘的見地より今度の忠靈塔圖案を檢討して見度ひと思ふのであります。

扨て今度の當選案（勿論第一席を對象として）は些かなりとも其の途に足を踏み入れた者よりしては實に平凡の一言に盡きると思ひます。凡俗とまで極討する人もある位平凡であります。が筆者は一概に平凡であると言ふ一事を以つて之を抹殺しやうとするものでありません。平凡であると言ふ事は大して良くもないが惡くもないと云ふ事であります。當選するだけに矢張り相當なものです。決して拙劣とは言へません。普通の人が誰が見てもまあまあと思はるものです。即ち萬人向きのする物です。が問題は此處です。大衆的である事——大衆も成る程と納得するものである事、之は今度の場合何の審査員の頭にもあつた事と思はれます。勿論それは必要な事です。國民全體の忠靈塔である。惟々創意者自身にしか理解されないと言ふ樣なものは勿論問題になりません。

徒らに新奇なもの奇矯なるものが良い筈はありません。が只々單に大衆的であると云ふ事のみに終止することは何うでせうか。桂離宮よりも東照宮の方を結構であると云ふ大衆の滿足する——今度の案はそう云ふ大衆でさへ滿足するか何うか疑問ですが——そんな程度のもので良いのでせうか。

今度の案は全々從來のものを一步も出ては居らないと思はれます。そんな事はない審査の批評しても從來のもの、型破りであると言はれてゐるではないかと云はれるかも知れません。成る程入口の取り方とか祭壇の具合等は或は從來のものより進んでゐるかも知れません。が忠靈塔の要點は入口具合でも祭壇の樣子でもない筈です。根本は塔そのもの象徵性であると思ひます。塔及其の周圍より滲み出る崇高なる忠靈精神の發露が問題であります。

今度の當選案が從來のものより特に此の點に於て優れてゐるとは遺憾乍ら何うしても考へられないのであります。而も懇々規定要項に說明をしてある素朴單純崇高壯重を充分に具現してゐるか何うか甚だ疑はしいのであります。

大衆的であると共に更に一步進んだ何物かがなければならない考へられます。處が新しいものとなると兎角創意者の獨りよがりの主觀的獨斷に陷り易いものです。新しいものを要望せる吾々に於てさへ遂底解し兼ねる樣な奇矯なるものが今度の應募圖案の中にもあつた樣に見受けられます。が或は言ふでせう。其れはそれを理解する迄に未だ未だ吾々の頭が其處迄發達して居らぬのだと。吾等が大衆的なるに慊らぬが如く其等の人々よりしては吾等も尙大衆であると云はれるかも知れません。が新しく而も眞に良きもの、美しきものにあつては大衆にも尙且つ何等かピンと響へる處があるものである事は古來の例が之を示して居ります。彼の器樂の極致と言はれるベートーヴエンの第九シンフオニーの如きは發表當時は全然批評家には受け入れられなかつたが大衆が先づ之に喝采を送り批評家は後からぼつぼつ其れの良さを認めて來たと云ふ事です。大衆的にして而も藝術的なるものそれは文學に於ても復活や罪と罰等に見られる處です。が元より斯かる神品は之等の大天才に於て甫めて爲し得る業でありませう。

故に今吾等に眞の忠靈塔とは何んなものかと問はるれば殘念乍ら良心的である限りそれは今の我等の到底考へ及ぶ處でないと白狀するの外ありません。眞に忠靈の精神を具現せる一大モニユマンがその一朝一夕に創造され得るものとは考へられません。忠靈塔の歷史は未だ淺い。眞の完璧なる忠靈塔とは今後の數世紀の洗練を重ねられて甫めて實現するものであると考へられます。況や五年や十年の建築的頭惱よりして何が創造され得るものぞと云はざるを得ません。率直に言つて今は到底完全なものは出來ないと筆者は考へます。誰かが認めて之こそ眞の忠靈塔なりとし其の前に佇め

ば自ら襟を直し頭の下るを覚えしめると云ふ程のものは恐らく今後相當の後でらければ表れて來ないのではないかと考へられます。だが今は到底そんなものは出來ぬからとて何時までも舊態に滯つてゐるの外ないと云ふ法はありません。要はその完全なるものへの發展途上に新しい第一歩を踏み出す事であります。而も只々新しく風變りであれば良いと云ふのではありません、第一歩の途は多端であります、徒らに奇矯に流れ或は全々見當違ひの方向に進んで行く途もありませう。五歩も十歩も進んだとて方向を誤つて居れば何にもなりません。要は眞に正しいものへの第一歩を踏み出す事が肝要です。而して何れが眞に正しき途上にあるかを判別する事こそ今度の場合に於ける經驗あり造詣深い各審査の役目であつたと思はれるのであります。

今迄のものが此の正しい途上に乘つて來たものとは考へられません、若しそうなら今更事新しく設計のやり直しをする迄もなく在來の中の何れかに統一すれば良い譯けです。今迄のものが其れが眞に正しい發展途上にない事が現在では既に分つたのであります。之は脇途であつたのです、假りに一歩讓つて假令へ之が脇途でなかつたにせよ此の儘では不可です。何うしても一歩前進しなければなりません。斯かる際に徒らに舊態を固執する事は眞の正しい發展に對する非常な妨げであります。斯かる態であれば百年經つても何時迄も同じ感銘のない頭の下らない忠靈塔であります。

今度の場合當然舊態を一歩も出でぬものは抹殺せられねばなりません。而して正しく一歩進んだものが見出さる可きであります。夫れは新しい第一歩であります。而して第一歩であります、故に大衆にも理解し得る筈であります。又四歩も五歩も見當違へ向つてゐると云ふ危險性もありません。だが又第一歩なるが故に其れは未だ幼稚であります。未熟であります。が一歩でも進むは即ち我が進むであります而して次の時代に又一歩又次の時代に又一歩と歩一歩と完成へ近づくのであります。其の間に在つて方向を誤れるものは時代が之を抹殺して行きませう。眞に良きもの眞に正しきもののみが最後の勝利を得るであらう事を筆者は確信して疑はぬものであります。

紀元二千六百年の忠靈塔は實に此の新しい第一歩である可きであつたと思ひます。(2600.4.7.)

借家難突破の48手

こんな値上げ ※※ 廻れ右

先づ家賃や地代などの賃貸料は昭和13年8月4日以後14年10月20日までの間に増・改築して値上したものは差支へありませんが、何もしないで値上するのは御法度になつてゐます。若しその期間に値上してあるものは14年11月分から8・4價格に引戻さねばなりません。

昭和13年8月4日以後に引越したものは前の家賃を調べて見ること、借主が騙つた機會に値上する者が1番多いので、新店子は前の時の家賃、間代、時代などを知らないのが多いのを幸ひに家主や地主が下げないのが隨分あります。また知つてゐても我慢してゐる店子や、當局から注意あるまで放つて置かうと云ふ家主もありますが、これもドシドシ投書するなり知らせることです。

値下げとは嘘 ※※ 表と裏

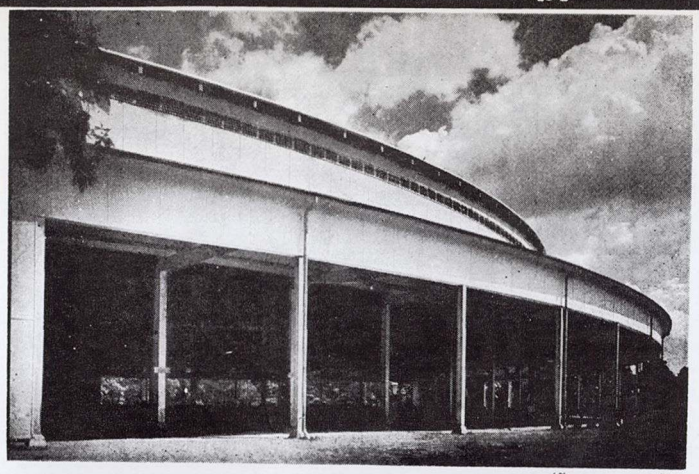
貸主や借主の妥協で減額を裝ふは低物價政策にもとりますし家主のおどかしで半強迫的な値上があるばかりでなく、大家と店子が話し合つて値下したやうに裝つてゐるのがありますが、かうした家賃の値下も萬波千波の高物價を生んで結局お互が困ることになるのです。

増築や改築の ※※ 範圍は

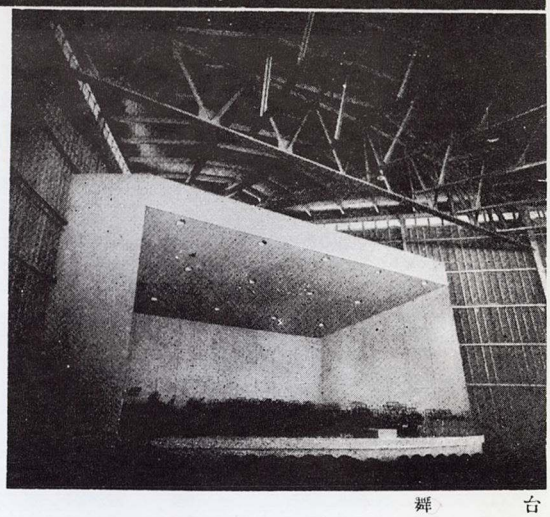
店子は家賃の契約書を家主に貸さぬこと、惡質の家主が家賃の通帳を貸せと持つて行き、新しく書換へて元の安い家賃をわからなくしてしまふのがありますから注意が必要です。増築や改築の範圍は？増築は建増しで改築は増築や修繕でない大改裝、大規模の修繕ですから垣根や壘、洗面所を新しくしても改築ではありません單なる修繕を増改築と稱して値上してゐる者が相當ありますから、不審の點は一應交番などに申告することです。家賃以外の賃貸條件も8・4の契約を動かせません。13年8月4の約に反して敷金を倍にしたり壘、建具の修繕費を半額契約に替へたり、店子の全額負擔にあるものも違反です。家賃に限らず一切の賃貸條件も8月4日當時の契約でなければなりません。

金を還し給へ ※※ 借主へ

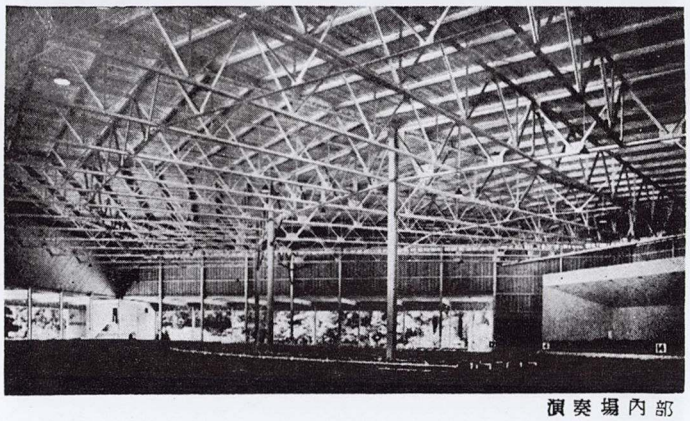
去年11月以後の規定外超過した家賃、地代、間代などは貸主が借主に返す義務があります。アパート、貸間、下宿屋の注意、かういふ方面では電話料、掃除料維持費等の名目で餘分の金をとり事實上の値上がありますが、これも違法です。若し11月から拂つてをれば返却を求めることが出來ます。



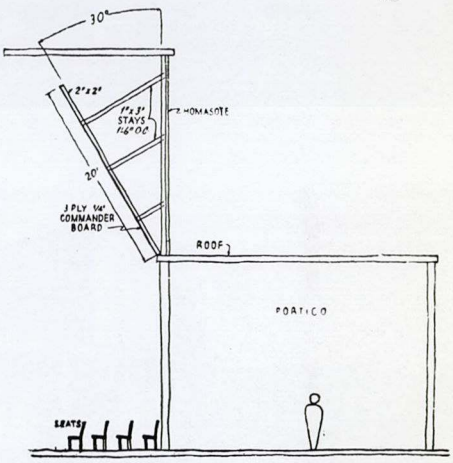
外觀



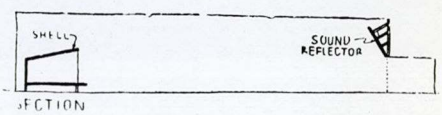
舞台



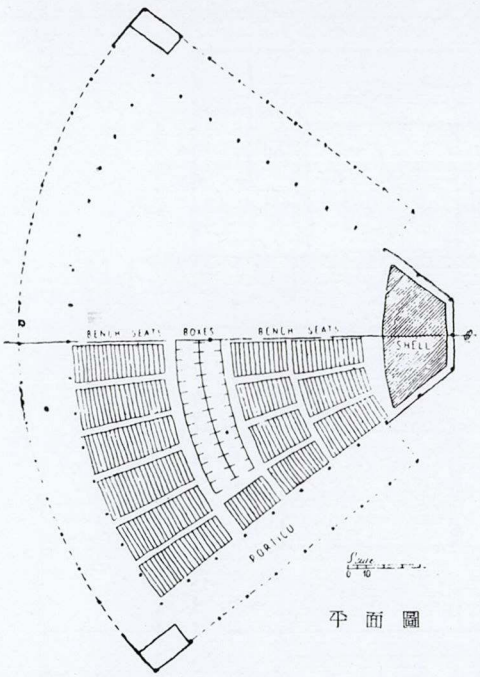
演奏場內部



反響板詳細



略斷面圖



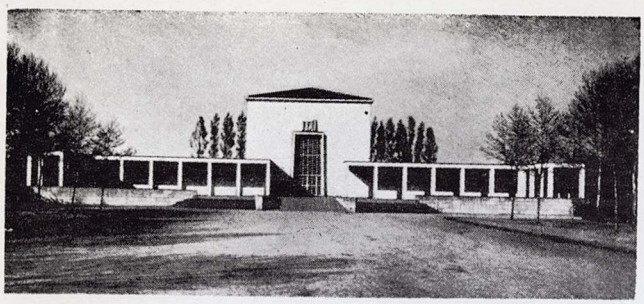
平面圖

Berkshire の避暑客の爲の交響樂演奏場で，最初 Eliel Saarinen が設計して模型まで出來たものであるが，計畫が立派過ぎて豫算が足りなかつた爲に Saarinen は手を退き，指揮者協會の一員で技術者である所の I. Franz が更めて設計したものである。寫眞に見る如く鐵骨構造，アスファルト防水の簡易な上家であるが經濟的な建築が必ずしも非美術的ではないといふ一例である。

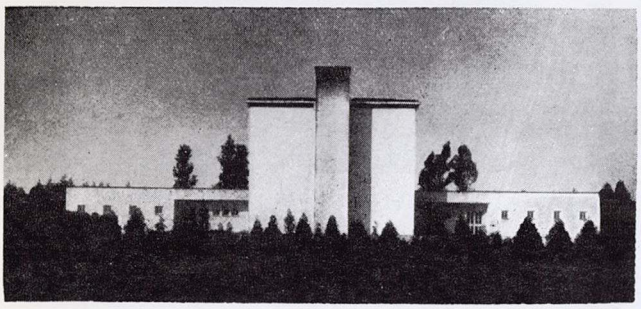
床は土間，入場料を徵收する場合には木製の戸を嵌め込むことが出來る樣になつてゐる。舞台の部分は建物の鐵骨とは全く獨立した木の枠の上にベニヤ板を張つてある。斷面圖に見られる樣に背面の弧狀柱列の上部にベニヤ板製の幅上下２０呎の反響板が木枠の上に取附けられてゐる。

(Architectural Forum, March,1940より)

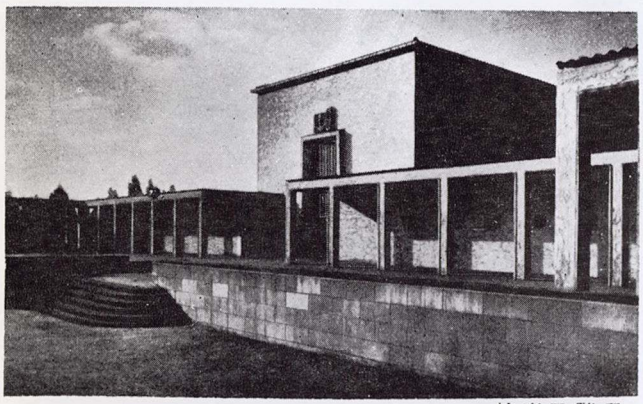
（アメリカ） Berkshire の交響樂演奏場　　技術家・Joseph Franz



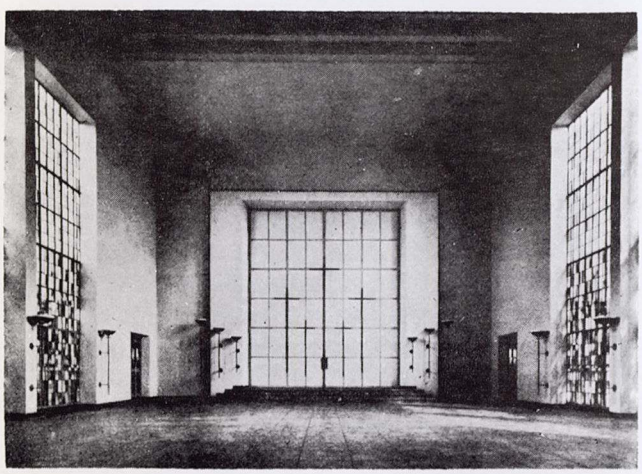
正　　面



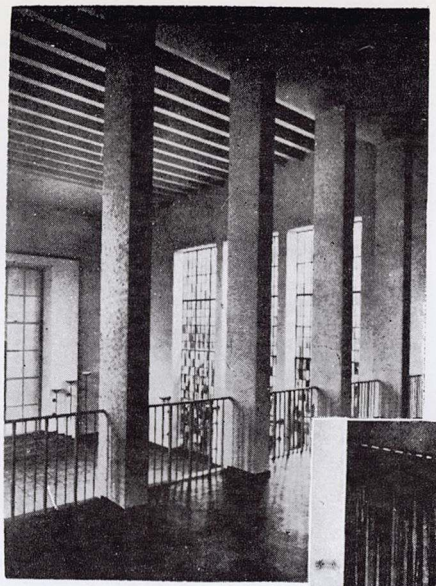
背　　面



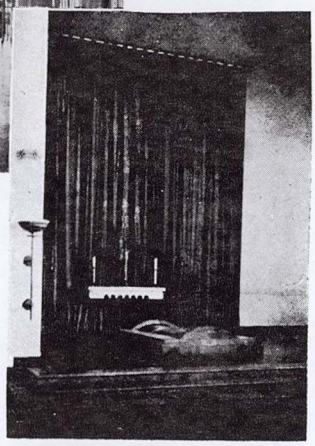
柱廊及階段



祭壇（ガラス戸を閉めた所）

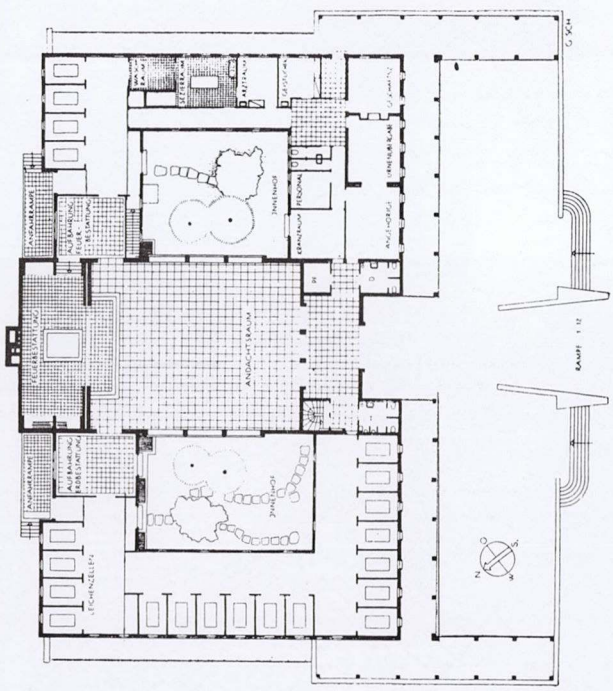


中2階よりの伏瞰



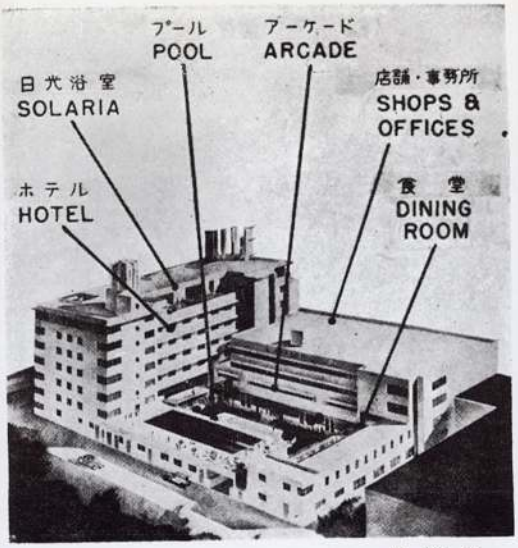
祭壇（ガラス戸を開けた所）

（Moderne Bauformen, März., 1940より）



平面圖

v2　（ドイツ）ケルンの火葬場　　建築家・Hans Heinz Lüttgen



説明圖



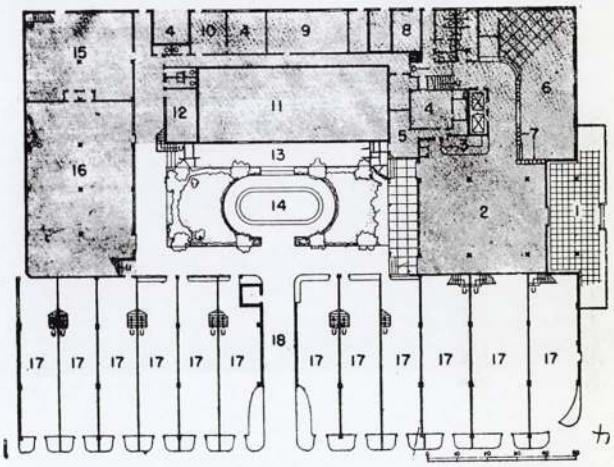
外觀

どこのホテルでもさうであるが，このマイアミホテルも亦，御多分にもれず泊客用施設以外に，數多き設備を持つてゐる。

平面圖に見るが如く，ホテルの外，大食堂，貸店舗，貸事務所もあれば，プール，ダンシングルームまでもある。

外觀はホテル玄關側及び貸店舗の側を見たもので即右方がホテル玄關で，大きな日覆ひのおりてゐるのは貸店舗である。

(Architectural Record, March, 1940より)

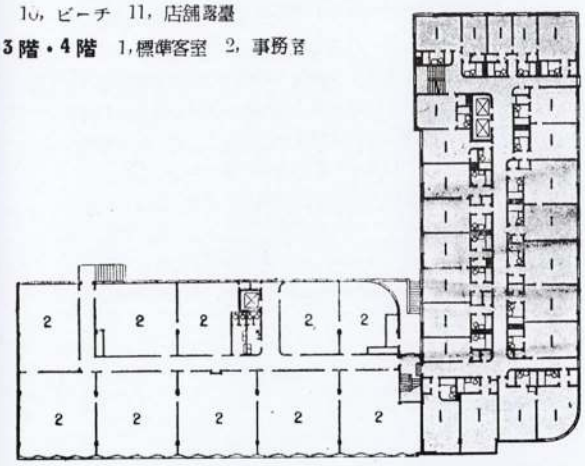


1 階平面圖

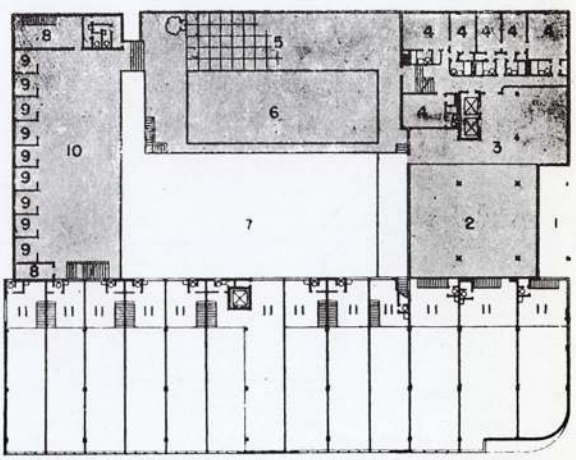
1 階 1, 玄關 2, ロビー 3, 受付 4, 給仕人室 5, 事務室 6, 娯樂室 7, 水族槽 8, ボイラー室 9, デイゼル機關室 10, 仕事室 11, プール 12, 濾過裝置室 13, テレス 14, ダンシング・ルーム 15, 厨房 16, 食堂 17, 店舗 18, アーケード

2 階 1, 玄關 2, ロビー 3, バルコニー(ライテング及カード室) 4, 客室 5, プール・テレス 6, プール 7, 中庭 8, 給仕人室 9, キヤバナ 10, ビーチ 11, 店舗露臺

3 階・4 階 1, 標準客室 2, 事務室

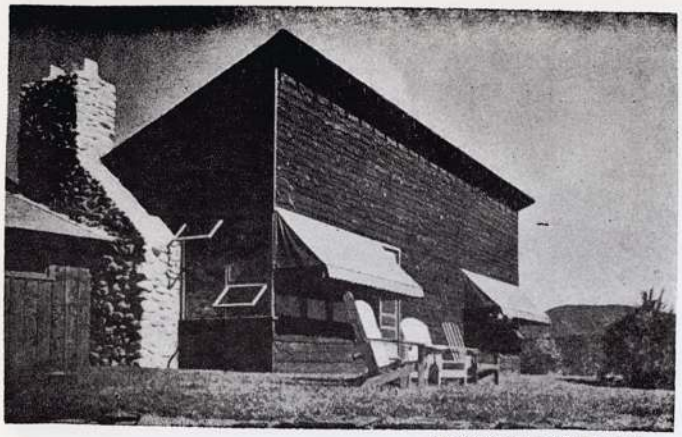


3 階・4 階平面圖

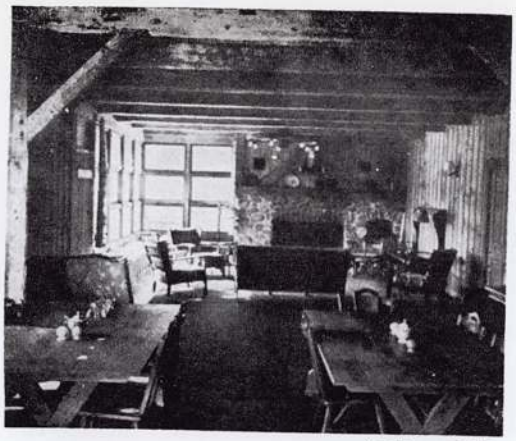


2 階平面圖

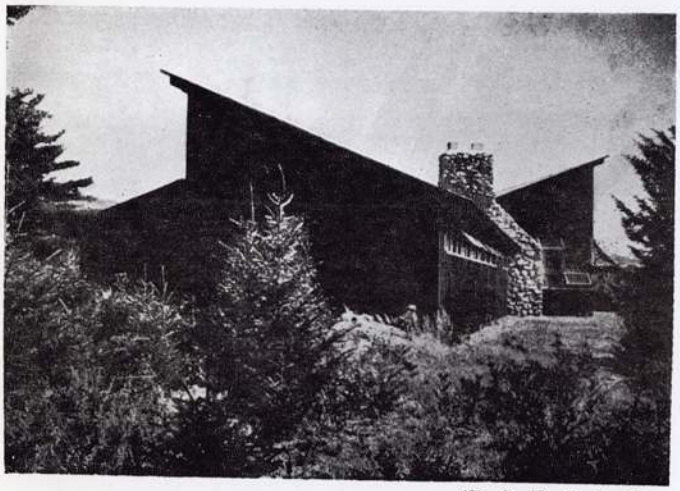
(アメリカ) マイアミのアルビオン・ホテル 建築家・Igor B. Polevitzky, • T. Trip Russell



觀外側南の分部間居



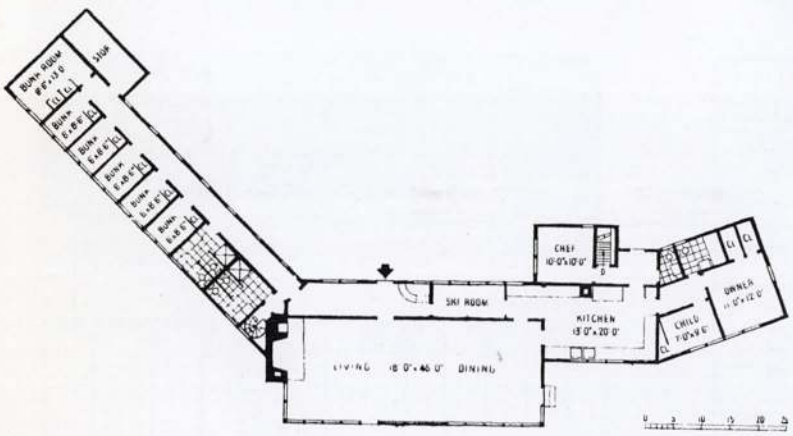
中央の居間



客室部の外觀



寢　　台



平　面　圖

これはスキー小屋とは云ふものゝ夏も快適に過される樣，計畫されてゐる。平面圖に見るが如く中央の大きな living room に2つの翼が連つてをり，その東の方は所有者が1年中の時折を過すべく召使ひの部屋までとられてゐる，西は客用の寢室で14人まで宿泊出來る樣になつてゐる。

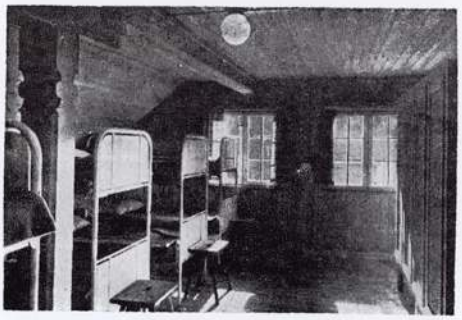
中央部分の外壁は米栂の下見張，赤褐色に塗られてをり，他は羽目板張になつてゐる。天井，壁共に完全に熱の逸散を防ぐべく工夫されてゐる。

(Architectural Record, March, 1940より)

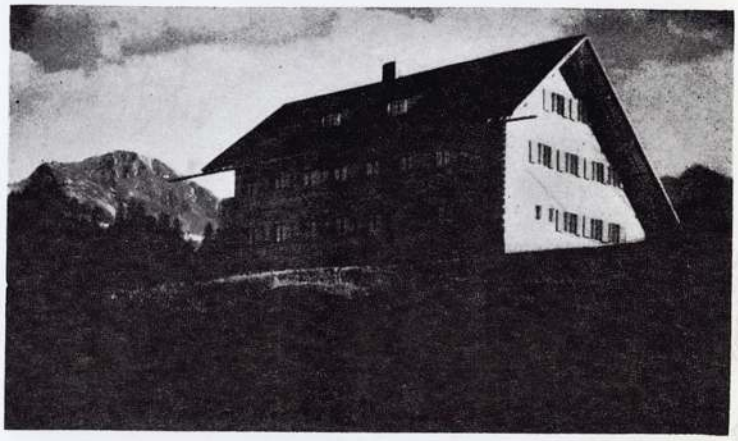
v4　(アメリカ)ベルモントのスキー小屋　建築家・Royal Barry Wills



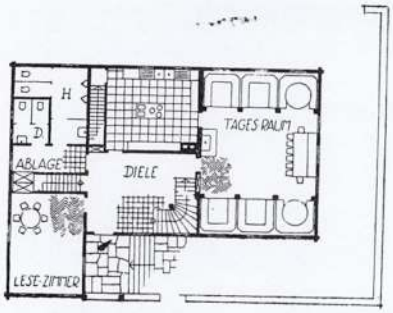
表側外觀



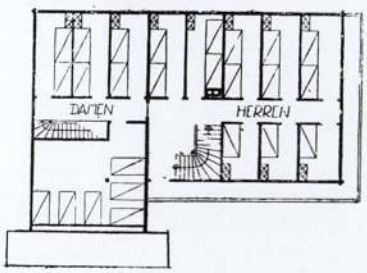
寢　室



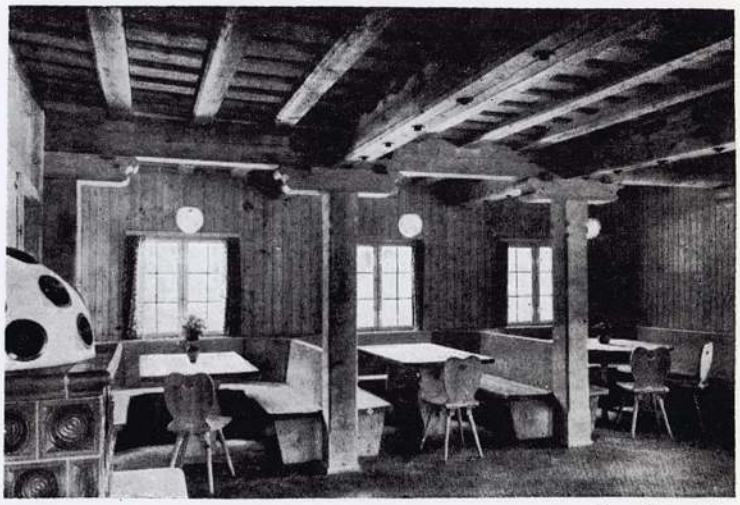
裏側外觀



1 階平面圖



2 階平面圖



談　話　室

ストゥットガルトの警察官運動聯盟の爲の山小屋で大きな一枚屋根の下にスイスカッテージ風の木造建物である。一階に談話室兼食堂，調理室，便所等をとり二階及三階に男女別の寢室をとり寢台は二段に重ねてある。

(Moderne Bauformen, Feb., 1940より)

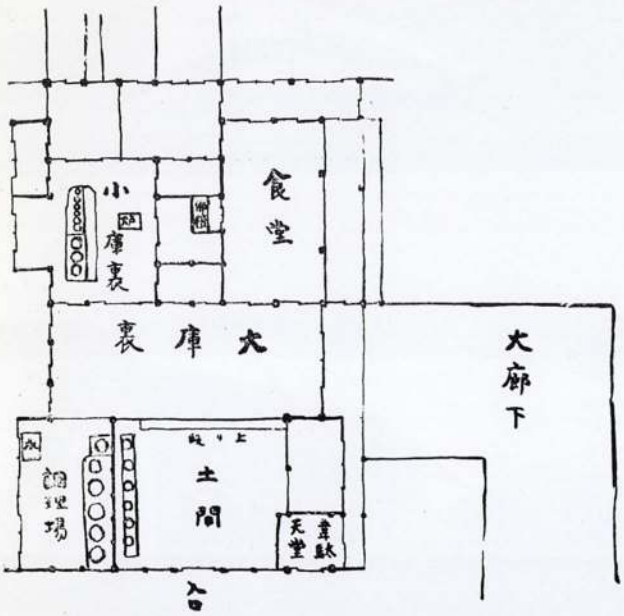
（ドイツ）Württenberg の山小屋　　建築家・Walter Zoller

古建築新抄 (15)

藤原義一

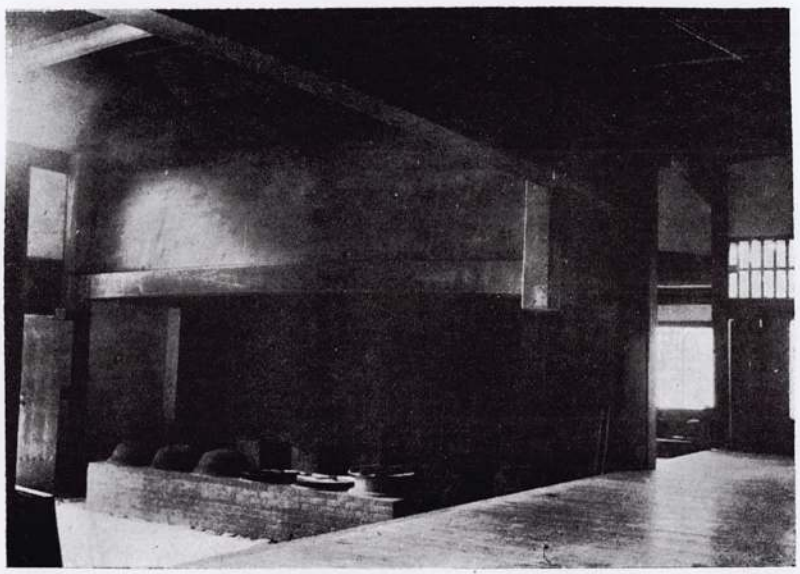
特殊建築 (その一)

妙心寺庫裡（承應2年上棟）庫裡は寺院の臺所で坊さんの食事の調理は勿論，大法會その他，事ある時の大勢の食事も此處で作る。その外觀なり平面なりは寺院，寺院に依り多少の相違はあるが大體に於ては共通した特殊な形態を備えてゐる。妙心寺，妙法院，三寶院，瑞巖寺等の庫裡はその中でも大規模なものであり，夫々興味ある構造や設備を有してゐる。



1，妙心寺庫裡平面略圖

正面入口より先づ土間に入り，土間より大庫裡に上る。土間の一方には調理場があり大釜が竝び焚口を設けてゐる。土間の調理場と反對側の一隅には韋駄天堂があり庫裡專門の韋駄天さんを祭つてゐる。大庫裡の背後に小庫裡があり，又坊さんの食事をする食堂があり，こゝにも佛檀を祭つてゐる。大庫裡から大廊下が出て大方丈，小方丈に通じてゐる。



2，竈 焚 口

土間の一端にある調理場の竈の焚口，その前にも一列の竈が竝んでゐるが之は後世に造つたもの。焚口の上部には煙拔きが造られてゐる。

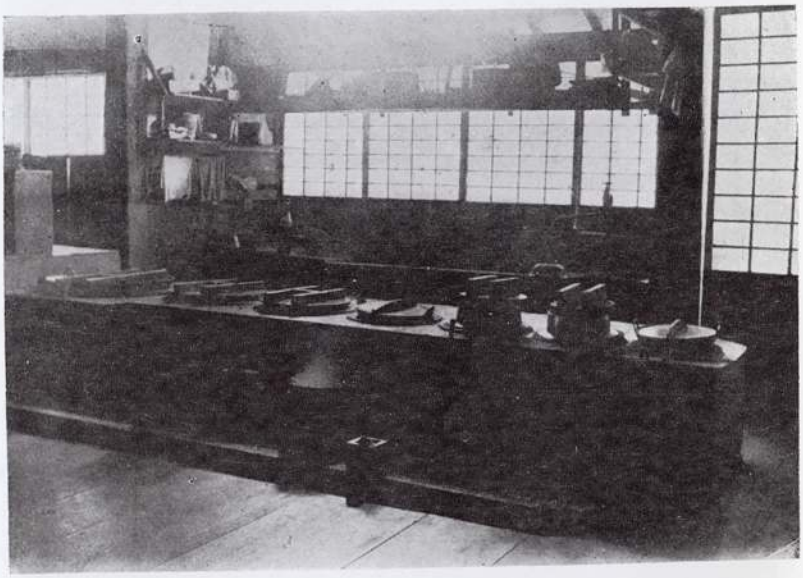
3, 調 理 場

直徑4尺もある大釜が幾つも並び之だけを活躍させれば數百人の食事は忽ちに出來上る。普通一般の法事などの際は此處を使用するまでもなく大抵は小廚裡で間に合せて了ふ。



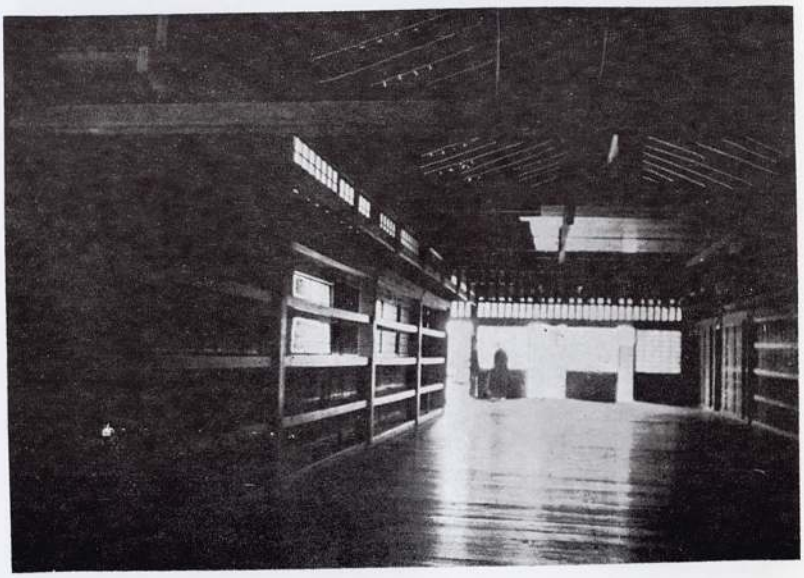
4, 小廚裡の竈

かまどの向ふは流しである。



5, 大 廊 下

坊さんは食堂で食事をし客は普通大方丈を使用する。大方丈と廚裡との間に斯くの如き大廊下があり，その一側に多くの棚が設けられ，此處に膳部を並べる。向ふに坊さんの立つてゐる邊りが大廊下の折點で，いざと云ふ時には此邊りを中心として配膳作業が行はれ，襷掛けの坊さんが，此廣い大廊下を狹ましと活躍し戰場の如き狀態を呈し二百～三百の膳は見る見る中に手際よく造られて了ふ。



ノボ アルミナセメント

超高級　耐鹹 耐寒 耐火

六時間コンクリート

大阪窯業セメント株式會社

6 HOURS CONCRETE

1:2:4 水比 65 6時間 217㎏/㎠ 28日 410㎏/㎠

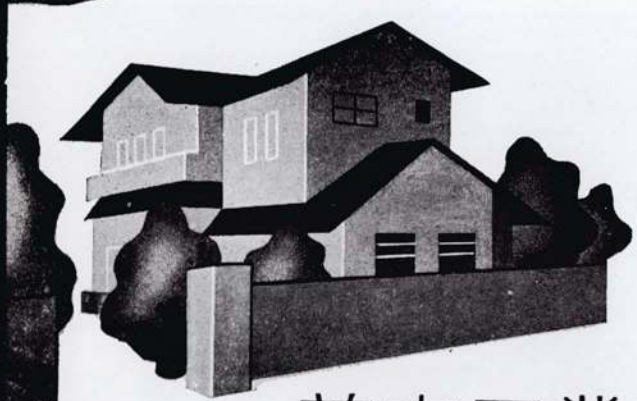
1:2:4 水比 45 6時間 300㎏/㎠ 28日 580㎏/㎠

施工6時間後
完全使用が
出來ます

美素

新築住宅にお手入のいらぬ！
古い住宅も新築同様となる！

【カタログ贈呈】



新築家屋美素加工

新築落成と同時に本所獨特のビソ液にて洗淨し木材變色の原因となる樹液を取り，其の上をビソにて仕上の加工をすると完全なる變色防止加工となり，優美な艶を有しフキコミの勞を省き頗る經濟的です。

古家屋新裝美素加工

古家もビソ液で洗淨すると新築同様となり其の上を新築美素加工と同様の加工をすると前者同様の結果となる。

（特種技術を要しますから弊所の請負加工と致して居ります）

美素工業所

大阪市天王寺區東平野町四丁目二一

電話天王寺㈦四〇〇三番

文　献

新時代の木造小屋組*

獨乙に於ては、最近、住宅建築、産業建築共に、新興木構造にて小屋組を造ることが多く行はれてゐる。此等新興木構造學の目的とする所は、

（1）木材並びに接合用鐵材を極度に儉約すること。

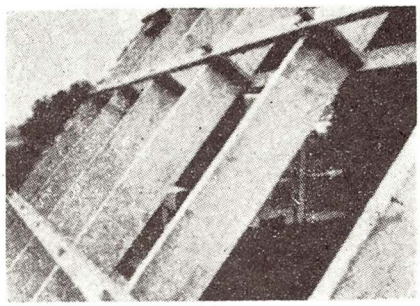
（2）成るべく小屋組に束等の垂直材を立てる事をやめ、屋根裏に大きな部屋をとり得るやうにすること。

（3）長い大きな木材の使用を出來得るだけさけたこと。

の三點にある。

このため木材は短小な、且強度の弱いものも利用し得ることになり、普通15年乃至20年位の樹齢のものにて充分役にたつやうになつた。又曲りくねつて木理の通つてゐないものも利用し得るやうになつた。かくの如くして木材の儉約は30%乃至50%にも及ぶものがある。次に實例についてこの構造の詳細を説明しやう。

第1圖は Vollmar 氏によつて實施された屋根小屋組の詳細圖で、合掌に相當する材は幅4 cm、成18.8 cm のきはめて薄い材で、これを間隔75 cm 間に配置し、圖に明かなやうに、所々幅7 cm 成2.5 cm の材を兩面よりあて挫屈長さを減じた構造で、



第 2 圖

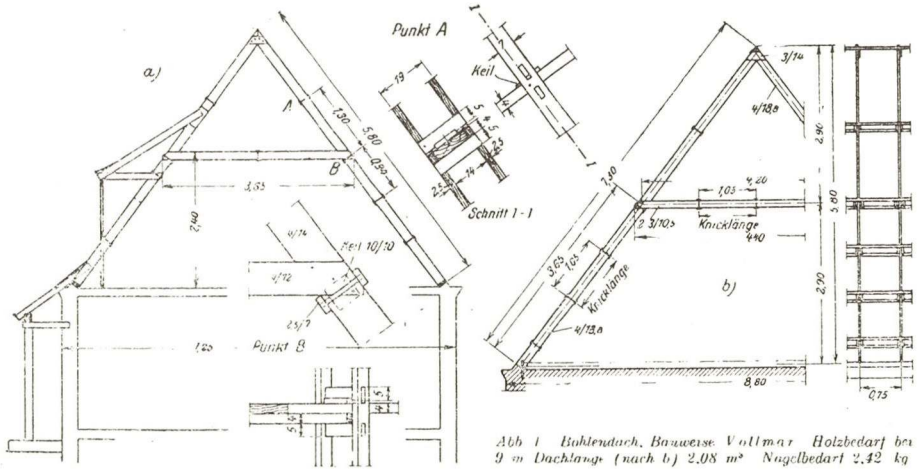


Abb 1 Buhlendach, Bauweise Vollmar Holzbedarf bei 9 m Dachlänge (nach b) 2.08 m³ Nagelbedarf 2.42 kg

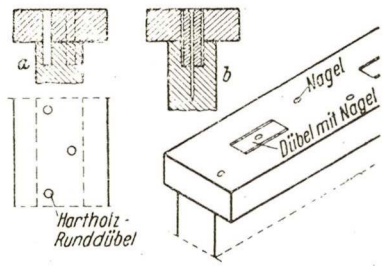
第 1 圖

* Neuzeitlich Holzdächer. Von C. Kersten. Zentralblatt. Februar. 1940

木材、釘等を極度に儉約したものである。右の寫眞はこの詳細を示したものである。

次の第3圖に示すものは Maerz の用ひた木製ヂベルで、a 圖は堅木製の圓筒形ヂベルで、b 圖は長方形の木製ヂベルで、この中心に釘を打つたものである。

この釘打長方形ヂベルと、單なる釘打とを混用しI形等を構造するのである。下は之等の寫眞を示す。第4圖、第5圖、第6圖も Maerz 氏による手法で、この小屋組は小材にて、I形を形成し、主として釘打によつて、材を構成した例である。



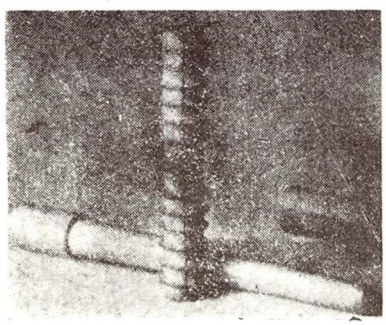


Abb. 5 (oben). I-Querschnitte mit Rund- und Rechteckdübeln. Abb. 6 (darunter). Hartholzdollen, Bauweise Maerz.

第 3 圖

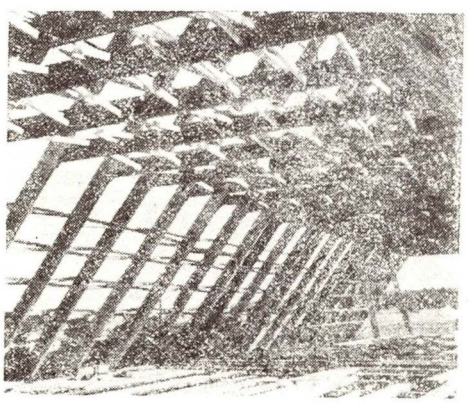


Abb. 7. Kehlbalkendach, Bauweise Maerz.

第 4 圖

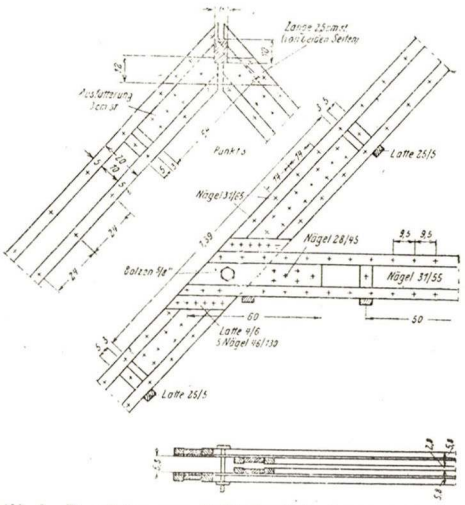


Abb. 8. Einzelheiten zum Kehlbalkendach, Bauweise Maerz.

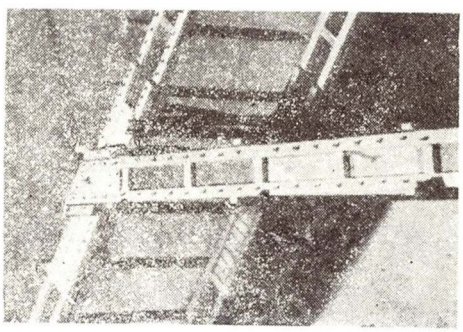
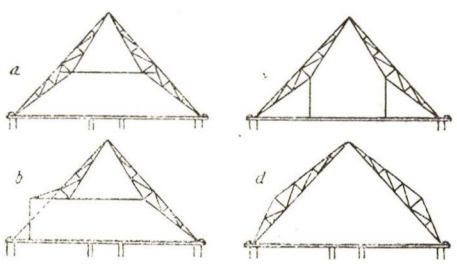


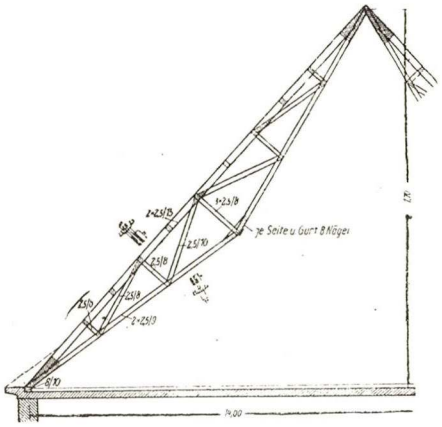
Abb. 9. Kehlbalkenanschluß, Bauweise Maerz.

上 第5圖　下 第6圖

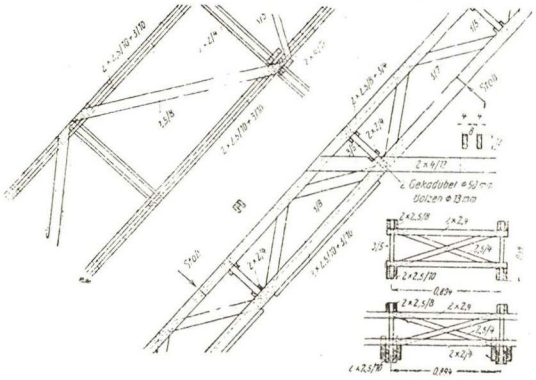


第 7 圖

スパンの少し大なるものは第7圖の如き、以前主として鐵骨構造に用ひられた形のものが採用される。



第 8 圖



第 9 圖

第8圖はこの構造圖で、第9圖は之等に類した小屋組の詳細圖である。

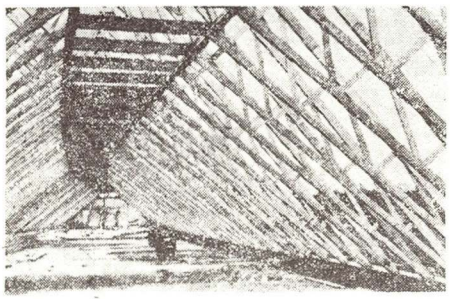


Abb. 18 (oben). Das Kelwies-Dach im Aufbau. Abb. 19 (rechts). Verschiedene Formen des Kelwies-Sparbinders

第 10 圖

第 11 圖

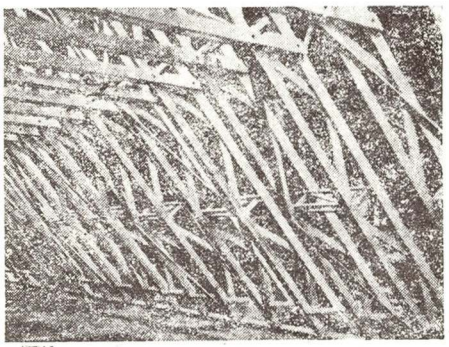


Abb. 13 (links). Pfettendach mit liegendem Stuhl (a) in Gegenüberstellung zum K-G-Dach gleicher Bautiefe (b). Binderabstand 4,9 m, Bautiefe 15,5 m. Abb. 14 (oben). Das K-G-Dach im Aufbau.

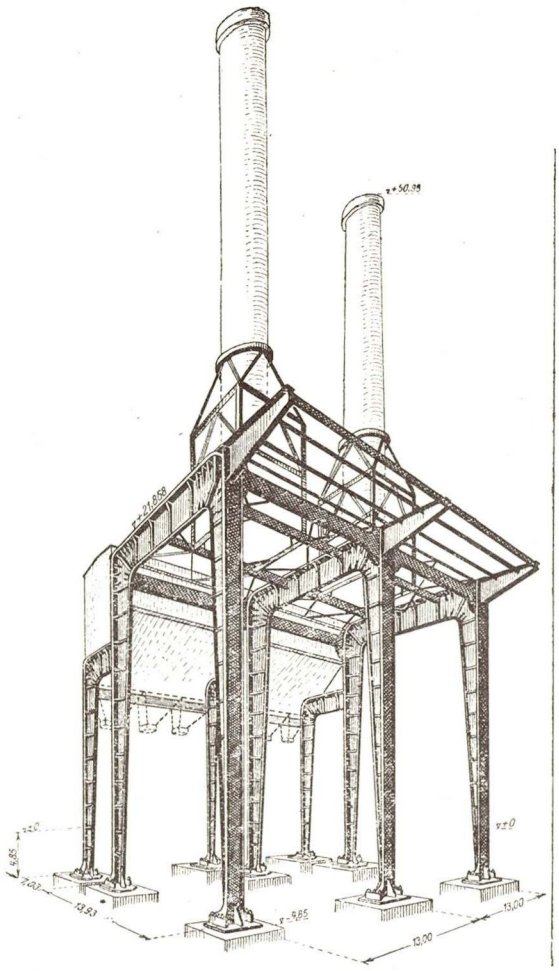
第10圖、第11圖は此等小屋組の寫眞である。此等を通覽して、我國で現在問題になつてゐるデベル應用の木構造より、より經濟的に木造建築をなす必要を痛感するものである。（堀口貴吉）

電氣熔接による鐵骨造の煙突の建物*

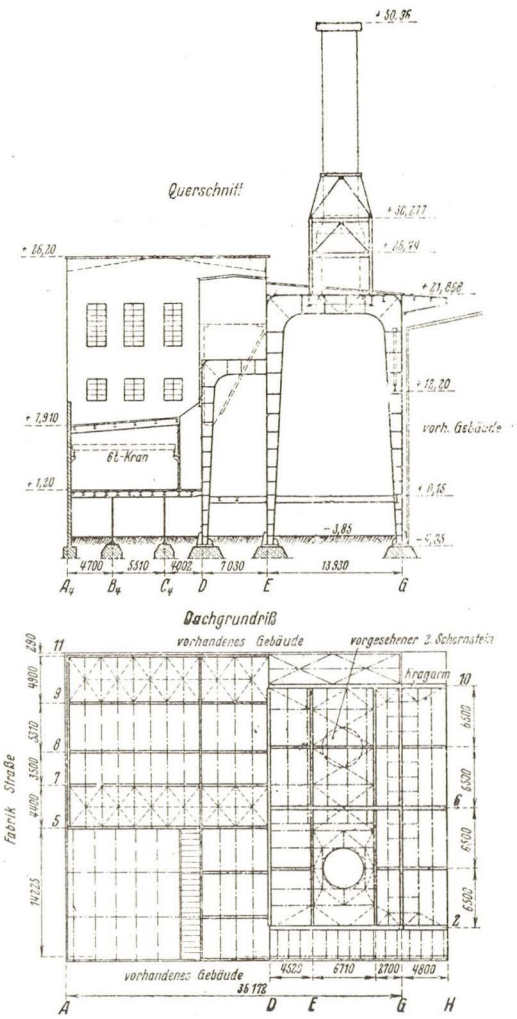
鐵骨造の煙突の建物で、獨逸に於て實施された例である。第1圖はこの建物の見取り圖、第2圖は平面圖と斷面圖である。

このラーメンは不靜定構造物で、材料面を假定して解くのであるが、材斷面は第3圖に、これによつて得たモーメント圖は第3圖と第4圖に示す。第3圖はD—E—Gラーメンのモーメント圖で、第4圖はGの縱の方向のラーメンのモーメント圖である。

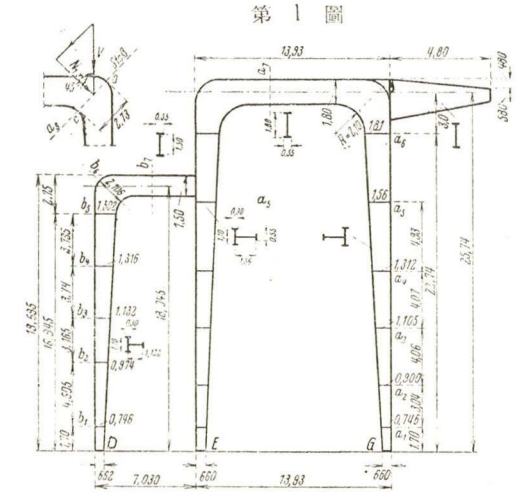
* Geschweisste Stahlrahmenkonstruction für ein Kesselhaus. Der Stahlbau, Dezember 1939



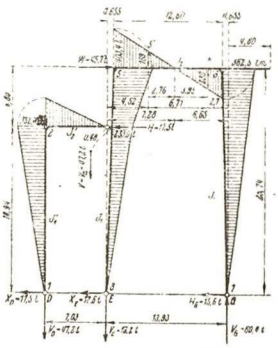
第 1 圖



第 2 圖

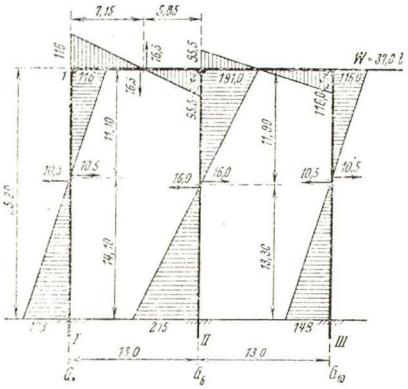


第 3 圖

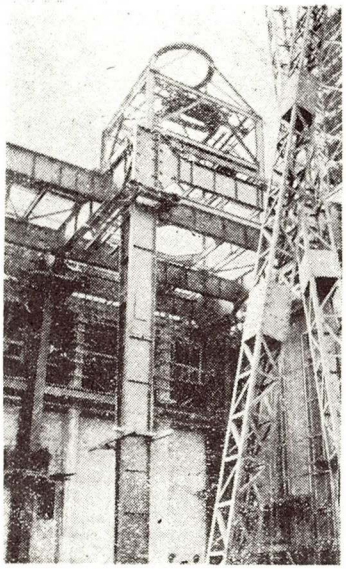


第 4 圖

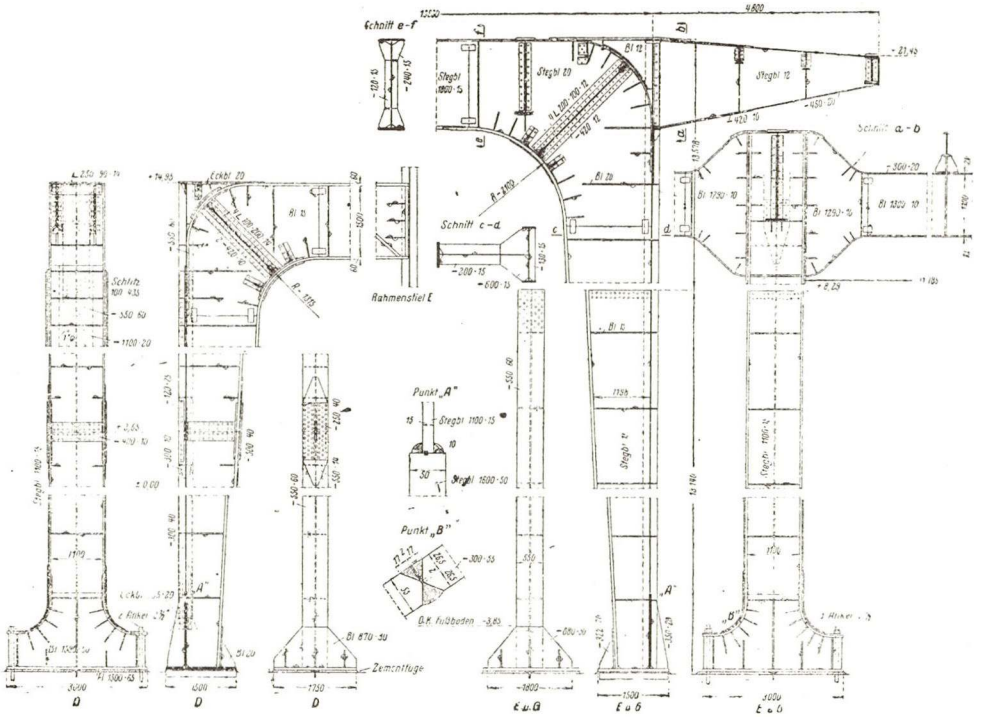
構造詳細圖は次の第6圖に、この寫眞は第9圖に示す。



第 5 圖



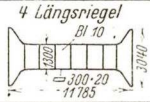
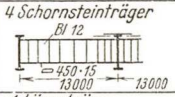
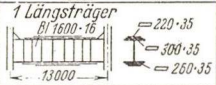
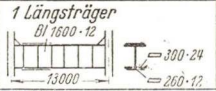
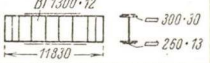
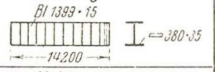
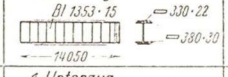
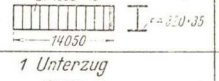
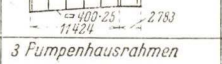
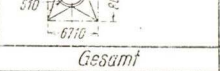
第 7 圖



第 6 圖

次の表は、電氣熔接の長さ、量、重量の表である。（堀口甚吉）

Schweißnahtlängen, Volumen u. Gewichte

	1	2	3		4	5	6	7	8	9	10	11
Nr.	Gegenstand	Gewicht t			lfdm Schweißnaht	theoret. Volumen cm³	mit 26–30% Zuschlag cm³	Gewicht kg	cm³/t	1 kg/t	Gewicht kg	v. Hundert
1	1 Rahmen $E_6 - G_6$	72,900	15	55	1350	68 600	88 000	690,0	1221	13,6	9,6	0,96
2	2 " $E_2 - G_2$ $E_{10} - G_{10}$	101,700	15	30	2703	108 040	140 450	1092,0	1381	25,7	11,0	1,10
3	1 Halbrahmen $D_6 - F_6$	32,650	15	40	626	37 940	49 300	383,0	1510	13,2	11,85	1,19
4	2 " $D_2 - E_2$ $D_{10} - E_{10}$	43,830	18	25	1304	63 116	82 050	640,0	1870	23,7	14,7	1,47
5	4 Längsriegel Bl 10 	17,000	10	10	516	22 290	29 500	234,0	1675	30,4	13,2	1,32
6	4 Schornsteinträger Bl 12 	17,100	8	15	487	11 720	15 240	120,0	891	25,5	7,0	0,70
7	1 Längsträger Bl 1600·16 	8,300	12		210	9346	12 150	95,4	1469	25,4	11,5	1,15
8	1 Längsträger Bl 1600·12 	4,700	12		135	5910	7680	60,3	1634	28,8	12,8	1,28
9	1 Unterzug Bl 1300·12 	4,000	6		109	2771	3500	27,5	875	27,3	6,9	0,69
10	1 Unterzug Bl 1393·15 	6,200	10		159	5272	6700	52,5	1080	25,9	8,5	0,85
11	1 Unterzug Bl 1353·15 	6,000	7		183	5130	6540	51,4	950	26,6	7,5	0,75
12	1 Unterzug Bl 1330·15 	5,700	7		146	4190	5280	41,5	930	25,7	7,3	0,73
13	1 Unterzug Bl 1350·15 	3,500	10		117	3710	4700	36,3	1340	33,5	10,55	1,05
14	1 Pumpenhausrahmen Bl 850·15 	4,400	8	10	84	2436	3100	24,4	705	19,1	5,5	0,55
15	3 Pumpenhausrahmen 	6,000	10		156	3455	4360	34,7	726	32,7	5,8	0,58
16	45 m Kranbahn Schiene 50·30 I P22 	3,950	4		80	1440	1810	14,2	458	22,7	3,6	0,36
17	Schornsteinring mit Streben 	5,200	6		128	2710	3400	26,7	654	24,6	5,13	0,51
	Gesamt	344,030			6496	356 200	463660	3640,5				
	im Durchschnitt								1348,	24,65	10,6	1,06

會報

本協會員中軍務公用者氏名

前號發表後に於ける本協會員中軍務公用者下記の通りであります（受付順）

地方會員　熊迫重雄君

常務會（第7回）

時　3月25日午後5時40分—6時40分
所　陳列場別室
出席者　理事　今林副會長
監事　井上　監事
常務　伊藤　主記　北垣　主記
玉置　主記　三浦　主記
岩尾　主計　桐本　主計
久保田主計　龜井　編輯
北川　編輯

議事
1. 片岡會長渡滿歡送會開催の件……承認
2. 材料委員會より委員委囑方要求の件……承認
3. 災害强度委員會より「パンフレット」作成發賣方要求の件……承認
4. 靜岡大災視察經費清算の件……承認
5. 會勢幹事會より幹事委囑方要求の件……承認
6. 會員詮衡

報告
1. 出征、除隊報告

三月例會（見學會）

時　3月28日午後1時—3時30分
所　四天王寺　五重塔見學
出席者　赤松修氏　外266名
1. 本日天氣晴朗にして暖かし、午後零時半頃より來會者續々あり午後1時既に200名以上に達し、控所たる本坊廣間も殆んど滿員の盛況
1. 午後1時20分伊藤常務開會の挨拶を述べ 伽藍復興工事事務所吉村技師を紹介す
1. 技師吉村孝義氏は五重塔の建設に關し約1時間に亘り設計圖等によりて詳細且つ懇切なる說明あり
1. 午後2時20分伊藤常務より講演者に對し謝辭を述べ 夫れより270名の出席者を數班に分ち五重塔並に鐘堂（寶物）を順次に見學す
1. 午後3時30分見學全部終了一同隨意散會す

材料委員會（第5回）

時　4月4日午後6時50分—8時40分
所　倶樂部室
出席者　委員長　松久保
委員　青樹、鐵富、薗部
島田、後川、道田

協議事項
1. 木材品等規格に關する件

陳列場幹事會（第4回）

時　4月9日午後6時50分—8時50分
所　陳列場
出席者　幹事長　池田
常任幹事　小林
幹事　野中、松久保

協議事項
1. 滿洲支那建築業者より外地の事情を聽く會
2. 製造工場見學の件
3. 同業者座談會の件
4. 材料知識普及講座の件

設備委員會（第3回）

時　4月9日午後6時30分—8時
所　倶樂部室
出席者　委員長　新名
委員　伊藤、岩尾、大原、塙

協議事項
1. 工場建築の越屋根の諸型式の資料蒐集の件

法制委員會（第3回

時　4月11日午後6時30分—8時30分
所　倶樂部室
出席者　幹事　池田谷　玉置

委員　島　影、　高　木、　竹　中
　　平　野、　森　口、　横　見

協議事項

1. 建築關係法規抄編纂發行の件
1. 委員增員の件

住宅委員會（第3回）

時　　4月11日午後6時—8時10分
所　　陳列場別室
出席者　幹事　矢　田
　　委員　北　垣、　中　村、　中　野

協議事項

1. 住宅2600年史編纂の件
2. 住宅讀本原稿完成に付常務會に發行要求の件
3. 建築現場見學の件

常　務　會（第8回）

時　　4月15日午後6時—7時20分
所　　陳列場別室
出席者　理事　今林副會長
　　監事　井上　監事
　　常務　北垣　主記　　玉置　主記
　　三浦　主記　　久保田主計
　　龜井　編輯　　政岡　編輯

議　　事

1. 常務一名辭任申出の件……承認
2. 評議員會開催の件……承認
3. 四月例會に關する件……中止
4. 會勢幹事會主催見學會開催の件……承認
5. 法制委員會より法規類集出版に關する件……承認
6. 同委員會より委員委囑方要求の件……承認
7. 全國都市美協議會に出席の件……承認
8. 會員詮衡

報　　告

1. 會國都市問題會議理事會終了報告
2. 視力保健聯盟大阪支部幹事委囑の件
3. 三月例會終了報告
4. 三月分會計報告
5. 出征者報告

都市計畫委員會（第5回）

時　　4月16日午後6時30分—9時
所　　倶樂部室
出席者　幹事　龜井、　錦田
　　委員　中村、　稗田、　森口
　　〃　川勝、　松森、　寺岡

協議事項

1. 全國都市美協議會議題研究資料の件

陳列場幹事會小委員會（第1回）

時　　4月16日午後6時30分—9時
所　　陳列場別室
出席者　小林、瀧、松久保、矢田各委員

協議事項

1. 建築材料集成刊行に關する件

見　學　會

時　　4月17日午後1時—4時30分
所　　川島織物工場、大德寺、孤篷庵見學
出席者　赤松修氏外64名

1. 本日天氣晴朗愛かく絕好の見學日和
1. 午後1時20分 出席會員一同川島織物工場に集合、同所休憩室に於て同工場の技師より一場の說明を聽取
1. 夫れより同工場員の案內により各工場內の織物實況を見學し午後2時頃より第2の見學先大德寺に向ふ
1. 午後2時半 一同大德寺山門前に集合、岡田孝男氏より大德寺に關する講演を約30分間に亘り聽取、夫れより山門二階、法堂等を見學の上方丈に至り休憩（方丈にて茶菓の接待をなす）
1. 午後3時半より大德寺內を見學し夫れより2班に分れ孤篷庵に向ふ
1. 孤篷庵に於ては各茶室を岡田氏の案內により說明を聽きつゝ見學
1. 午後4時半全部見學終了散會す

時　　4月21日午前9時—正午
所　　日本郵船新造船　新田丸見學
出席者　約200名

1. 築港住友岸壁に繫留の日本郵船の新造船の新造豪華船新田丸を 午前9時より正午までの間に隨意見學す

災害强度委員會（第4回）

時　　4月20日午後6時30分—8時
所　　倶樂部室

出席者　委員長　渡　部
　　幹　事　淺　野
　　委　員　岡　田、　中　野、　星
　　　　汲　川、　塚　本

協議事項

1. 風壓規準パンフレツト出版に關する件
2. 熔接手技術檢定方法に關し報告書を工業品規格制定調査委員會に送附せる其の後の經過報告
3. 釘構造に關する實驗計畫パンフレツトの件

入　會　者

會　員

岡本　豐君　旭區毛馬町829（株式會社竹中工務店）
木島德太郎君　天王寺區上本町10の36
牛塲榮一君　大正區泉尾上通3の31（相德工務所）
足立芳助君　兵庫縣武庫郡鳴尾村鳴尾字砂濱新田102の121（株式會社鴻池組）
相原辨一君　神戸市須磨區大手町3の34（神戸市役所建築課）
烏野民男君　港區八幡屋中通3の97（株式會社鴻池組）
蛙谷盛一君　堺市菅原通3の19
大野將信君　西成區南神今町13田中吉造方（大寶組）
奥村啓吉君　住吉區昭和町東1の19（大阪市電氣局主計部計理課營繕係）
香取彦一君　京都市左京區下鴨下川原町53（株式會社清水組京都支店）
木本政一君　此花區春日出町15の28（株式會社奥小路鐵工所）
北中治雄君　兵庫縣武庫郡鳴尾村甲子園9 オリオンハウス內（株式會社鴻池組）
小泉嘉四郎君　住吉區天王寺町2693苗代アパート內（大阪市役所教育部防護課）
小早川謙治君　住吉區北田邊町352の2（同建築課）
佐藤靜也君　府下北河內郡友呂岐村字部1.390（東洋紡績株式會社營繕課）
坂本成太郎君　東淀川區十三東ノ町1の170（大阪市役所營繕課）
志村克巳君　北區中之島大阪市役所土木部公園課內（大阪市役所土木部公園課）
鈴木　武君　住吉區鷹合町185（株式會社鴻池組）
關本辰藏君　尼崎市長洲字江端4の1（同上）
祖川尙彦君　西成區粉濱東ノ町2の33（同上）
武田健三君　神戸市灘區琵琶町1の17（置鹽建築事務所）
玉木久三君　天王寺區石ケ辻町92（株式會社鴻池組）
野坂嘉眞君　神戸市林田區池田廣町90（自營）
橋本信治君　東成區鶴橋南ノ町1の5778（同上）
藤尾博介君　明石市大藏町6丁目新屋敷2.399（兵庫縣建築課）
松本敏夫君　京都市中京區夷川通河原町東ミラノ工務店內（ミラノ工務店）
松本彦次君　府下中河內郡大戸村石切980（大阪府營繕課）
牧野源次君　豐中市岡町松原通2の104（株式會社鴻池組）
男波岩夫君　京都市上京區小山上總町71（株式會社清水組）
宮內日露征君　布施市足代1の265（株式會社鴻池組）
森田和喜君　住吉區田邊本町7の25（大阪市電氣局營繕課）
柳川正美君　神戸市灘區德井町字弓木11（株式會社鴻池組）
渡邊義雄君　尼崎市今福町太田16　（同上）

地方會員

安部忠愛君　天津市日本租界須磨街14の12（福昌公司天津出張所）
大塚久滿吉君　米田市山方新田33（東洋紡績株式會社知田工場）
木野榮吉君　天津市特別三區二經路8號
佐々木　保君　舞鶴市字竹屋42（東畑謙三建築事務所）
鈴木廣好君　普通賛助員より轉格
出口武夫君　滋賀縣與田町昭和園（東洋紡績株式會社）
鳥居　守君　天津市特別二區壽安街5號（福昌公司天津出張所）
山口泰夫君　北海道空知郡三崎村幾春別（住友鑛業株式會社奔別鑛業部工作係）

特別賛助員

奥村安太夫君　港區市岡濱通5の28（自營）
荻田善三郎君　此花區上福島南3の49（〃）
川島末吉君　天王寺區堂ケ芝町42（〃）
小鷹一喜君　北區都島北通2の19 吉川方（建築資料通信社長・滿蒙支開發協會）
田村嘉啓君　西區江戸堀北通二丁目（興亞食品工業所）
田村七八郎君　西宮市南昭和町71（昭和窯業株式會社）

普通賛助員

秋本義夫君　旭區南島町二中山間策方（大阪市役所教育部建設課）
大西正二君　旭區赤川町718（小西組）
小佐田篤親君　横須賀市小川町　海軍工機學校内（八木工務店）
澤本建一君　東區今橋4の1三菱信託ビル東畑建築事務所（東畑謙三建築事務所）
辻　強君　神戸市湊區楠町7の142（株式會社竹中工務店神戸支店）
吉川憲洋君　東淀川區新高町南通2の37（吉川工務店）
宮田博義君　神戸市林田區神樂町4の6（西村建築事務所）

退會者

會員

山田篤明君、谷川一雄君、北見實二君、東　寛君

地方會員

東山　靜君

特別賛助員

島原孝男君

普通賛助員

松室重眞君、松井重一君、岡本　孝君

轉居・轉勤

會員

辻本三郎君　大正區大正通8の48 杉本組内
松本　實君　株式會社山田工務店
谷川勝三郎君　奉天市加茂町16大林組滿洲營業所
伊藤　朔君　福知山市福知山保線事務所建設課
小山　武君　尼崎市濱字山ノ下15
福島豪郎君　東成區生野田島町4の231
福田裕久君　東區水濱5の13 長谷部竹腰建築事務所内
山原正美君　西成區有樂町7 玄京莊内
宮坂一也君　東京市澁谷區代々木富ケ谷町1.461　竹内孝三方
藍原幸信君　奉天市大和區加茂町16　大林組滿洲營業所
橘　由春君　住吉區播磨町西1の32
新名種夫君　豊中市櫻塚本通7の136
關原猛夫君　水戸市砂久保町4.867 水戸高等學校内
川勝健二君　住吉區湯里町546
西村安彦君　臺北市昭和町413
福島葆光君　兵庫縣武庫郡精道村打出堀ノ内10 西山孝一方
宮田秀穗君　吹田市垂水60の5
伊藤憲造君　滋賀縣蒲生郡安土村常樂寺
若山信夫君　大阪府警察部建築課
山本一巳君　住吉區西今川町5の14
谷口尚武君　堺市大濱南町231

地方會員

森　政雄君　清津府外松梗洞日本製鐵清津工場建設工事清水組作業所内
野田一夫君　鎭南浦府麻里山鎭南浦理研金屬工場新築工事清水組出張所内
田邊卓爾君　天津日本租界福島街79の1 株式會社滿洲飛島組天津出張所内
高橋喜平太君　奉天市大和區富士町4 三田組奉天支店
吉村辰夫君　東京市板橋區常盤臺1の20
南出信雄君　東京府北多摩郡昭和村鄕地229
高橋壽男君　高雄市前金565
大宰二郎君　新京特別市玉善路代用官舍793
井上新平君　朝鮮更安水道龍川郡北中面中城洞清水組内
上原三郎君　神戸市灘區大和町4の93の21

特別賛助員

前田容司君　西區京町堀通4の21

普通賛助員

寺井廣義君　神戸市神戸區中山手通2の129の7 永守教會内

渡野幸次君　京城府三坂通12　古本方
今井英雄君　東京市王子區豐島1の36
大西榮文君　旭區今福町138
小森　稠君　四日市市東邦町1　大林組出張所内
平木壽一君　東淀川區豐里町1.758　藤井晉策方
重井洋三君　滿洲國黑河省孫吳　後宮部隊經理部孫吳派出所
上井茂介君　東區釣鐘町2の29　大倉土木株式會社大阪出張所見積係
桝谷健治郎君　滿洲國興安西省開魯興安西省公署總務廳會計科建築股
辻本孝一君　朝鮮咸鏡南道豐山郡熊耳面於隱里長津江水電株式會社蓮頭坪建設事務所

死　亡　届

會　員

倉崎寛一郎君　昭和15年4月11日逝去

普通賛助員

田中慶三君　昭和15年1月11日逝去

（謹んで哀悼の意を表す）

昭和十五年改訂第十版

昭和十五年三月下旬發行
本綴・菊　截　判

市街地建築物法令

日本建築協會版

●定價65錢　送料6錢●

日本建築協會發行

大阪市北區朝日ビル4階
振替口座大阪 39975

賣捌
丸善本支店
柳々堂書店

編輯後記

○ 諸方面から、否諸方面の第一人者とも云ふべき人から玉稿を得たことを喜ばしく思ふ。協會の雜誌も紙の入手難で色んな苦勞をし、又編輯にも人知れず苦心して居るが、内容をとにかく讀んで頂きたい。讀まない人程雜誌に色んな文句をつけるのである。雜誌がつまらんとか。面白くないとか。口繪がないから淋しいとか。讀んで下さい。お叱言などはそれからにして。曰く讀む氣もありませんと。佛さま佛も仰言つた。『緣なき衆生は度し難し』

○ 執筆をお願ひする向きも概ね技術家であつて文筆口舌の人でないのであるから原稿用紙に向はれることは定めて億劫なことと御察しする。まして煩忙な仕事を持つて居らるる方々である。頂いた原稿を拜みたい樣に思ふことさへある。文章が流麗であつたり、面白味があつたりして讀みいいと云ふ樣なことを望むのは不遜なことである。『その内容その精神にふれよ』『技術者の魂にまでふれよ』と云ひたくなるのである。むつかしい。面白くないと云ふ樣なことを云つて居てどこに向上があるか。

○ 紙不足と値上りの形勢を目前にひかへて雜誌の活字の組み方等を大に考究中である。なるべく讀みにくくない樣に内容をへらさず紙數を減少すると云ふ方法を。その中實現する豫定である。

○ 編輯後記を書かされるのはつらい。

（柳橋記）

建築と社會

第23輯　第5號

毎月1回1日發行　定價　1册　50錢（郵稅3錢）
12册　6圓（〃36錢）
昭和15年4月25日印刷　昭和15年5月1日發行

發行・編輯
印刷人　戸川弘
大阪市北區朝日ビル日本建築協會内

印刷所　プラトン印刷社
大阪市西區江戸堀南通2丁目13番地

發行所　社團法人　日本建築協會
大阪市北區中之島3ノ3　朝日ビル
電話長北濱(23)4501番(9)
振替口座大阪39975番

特約販賣店　柳々堂書店
大阪市西區京町堀羽子板橋西
電話土佐堀2440番
振替口座大阪2084番

禁轉載

本號に揭載せるものは、一切これを無斷にて轉載し又は單行本に上梓その他の複製行爲をなすことを禁ず。

廣告揭載料金

普通	1頁	1回	15,00
普通	1/2頁	1回	8,00
普通（前附第1頁）	1頁	1回	45,00
普通（前附第2頁）	1頁	1回	40,00
普通（後附第1及最終頁）	1頁	1回	25,00
アート（中挿）	1/2頁	1回	20,00
表紙2	1頁	1回	60,00
表紙3	1頁	1回	45,00
表紙4	1頁	1回	80,00
建築事務所錄	1欄	1回	1,50
（建築關係業者案内）	1欄	1回	5,00

廣告揭載御申込は本會へ直接願ひます。
本誌購讀御注文はすべて前金で本會直接又は特約店へ、振替貯金又は爲替で御拂込を願ひます。郵券代用は一割增、代金引換はお斷り致します。

"建築と社會" 第23輯 第5號　廣告索引

ア　旭硝子株式會社……12
　　淺野スレート株式會社……14
　　阿部鐵工所……25
エ　榮進社……24
オ　大阪窯業セメント株式會社……中挿
　　大阪伊丹商店……4
　　大野製作所……表紙 4
　　奥村重兵衛商店……23
　　大阪田島應用化工株式會社……表紙 2
　　オリエンタルメタル製造所……1
カ　河津裝飾店……26
キ　桐田商會……18
ク　久保商店……17
ケ　建盛商會……6
サ　佐久間工業株式會社……17
　　坂田ベンチレーター製作所……6
　　三正商會……19
セ　政正合資會社……9
　　清光社……3
タ　田中タイリング商會……4
　　田中昌司商店……9
　　大洋組……5
　　田村商會……27
ト　利會幸商店……13
　　東洋リノリユーム株式會社……2
　　東洋陶器株式會社……28
　　巴商會……21
ナ　學樂屋家具裝飾店……表紙 3
　　南滿鑛業建材株式會社……15
ニ　日本建築紙工株式會社……13
　　日本陶機株式會社……11
　　西原衛生工業所……10
　　西孫南店建築金物部……20
ノ　野澤幸三郎商店……22
ヒ　美素工業所……中挿
マ　松井商店……11
　　松下電器產業株式會社……7
ミ　三井物產株式會社……8
ム　村田商會……前附 1
ヤ　矢橋大理石商店……20
ヨ　横河橋梁製作所……16
　　淀川鐵工所……26